

ISSN 0913-5154

平成 27 年度
川崎市健康安全研究所年報

第 3 号
(通巻第 51 号)



KAWASAKI CITY

川崎市健康安全研究所
(発行：平成 28 年度)

はじめに

昭和 27 年川崎市中央保健所内に設置された川崎市立衛生試験所は、昭和 45 年川崎区大島にて川崎市衛生研究所となり、以来 40 年余にわたって川崎市民の健康・安全・危機管理としての試験調査、調査研究を続けてきました。平成 25 年 3 月、川崎区殿町国際戦略拠点キングスカイフロント（Kawasaki Innovation Gateway at Skyfront）の一画に新築された川崎生命科学・環境センター（Life Science Environmental Research Center: LiSE）へ移転し、名称を「川崎市健康安全研究所」と改め、新たな研究所の歴史が始まりました。

川崎市健康安全研究所は新たらしいスタイルの地方衛生研究所として、各方面から視察・見学を頂いておりますが、平成 27 年度は 33 件 620 名、一般市民、専門分野あるいは政治経済分野、学生実習の一環、海外からの研修など、多くの方々にお出で頂き、当研究所及び地方衛生研究所というところが普段何をやっているかということについて、御紹介を続けています。また、恒例となった「キングスカイフロント夏の科学イベント 2015」では、約 900 人の親子連れの皆様に楽しんで頂きました。

業務実績として、企画調整部門においては平成 25 年度から発足した内部評価委員会・外部評価委員会・倫理審査委員会などの動きなどが記載されております。食品 GLP 業務については、川崎市の収去施設・検査施設の内部点検を行っています。また、本市における疫学調査研究の強化のため、全国に先駆けて発足させた実地疫学専門家養成プログラム・川崎版（Field Epidemiologist Training Program- Kawasaki: FETP-K）プランが動き出し、川崎市における疫学調査・感染症対策にかかわる人材育成の一環となっています。

理化学部門、微生物分門では、日常的な調査研究のほか、突発的な健康危機事例への対応に備えています。平成 27 年度は韓国における中東呼吸器症候群（MERS）の流行があり、我が国への影響が危惧されている中、川崎市内においても疑い事例への対応、ウイルス検査などを行いました。またウイルス検査担当においては、新規遺伝子を持ったノロウイルスを世界で初めて確認し論文発表し、GII.P17-GII.17（GII.17 Kawasaki 2014）として国際的に認知されました。通常行っている感染性腸炎・食中毒検査の中から追及を続けた研究成果で、平成 27 年 10 月に福田市長よりウイルス検査担当職員一同が表彰を受けました。

また、平成 27 年 3 月わが国は WHO より麻疹排除国であるとの認定を受けましたが、これまで長きにわたって行われた当研究所におけるウイルス検査、疫学調査、川崎市における麻疹対策が、これに大きな貢献をしていたことも加えさせていただきたいと思えます

当研究所の機能が強化され実施が着実に進められておりますが、川崎市の関係各位・各部署の御理解と御協力、各地方衛生研究所等の声援と連携、そして市民の方々の御理解の賜物であり、この場を借りて改めて今年度も厚く感謝申し上げます。

研究所職員諸君が獅子奮迅の努力を続けていることを本年も付記させていただくとともに、当研究所が、川崎市民の健康と安全、ひいては我が国そして世界の人々のための公衆衛生の向上にどれほど寄与していくか、そしてその様子を引き続き皆様にお伝えすることができるよう、職員一同精進を続けることを改めてここに誓うものです。

川崎市健康安全研究所 所長 岡部 信彦

目次

第1章 概要

1 沿革	1
2 施設概要	2
(1) 川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)施設概要	2
(2) 川崎市健康安全研究所の移転開設について	2
(3) 健康安全研究所施設概要	3
3 組織	4
(1) 組織と業務	4
(2) 事務分掌	5
(3) 人員配置	5
4 予算及び決算	6
5 学会参加並びに視察対応等の実績	7
(1) 学会・研究会等出席実績	7
(2) 講習会・研修会等受講実績	9
(3) 会議等出席実績	12
(4) 講師派遣実績	18
(5) 研修指導実績	20
(6) 視察・見学受け入れ実績	21
(7) 研修報告会開催実績	23
(8) 「キングスカイフロント夏の科学イベント2015」への出展	24

第2章 業務実績

1 企画調整部門	26
(1) 企画調整担当	26
(2) 感染症情報センター担当	27
2 理化学部門	32
(1) 食品担当	32
(2) 水質・環境担当	36
(3) 残留農薬・放射能担当	40
3 微生物部門	57
(1) 消化器・食品細菌担当	57
(2) 呼吸器・環境細菌担当	62
(3) ウイルス・衛生動物担当	64

第3章 試験検査

1 月別検査件数	69
2 依頼別・項目別検査件数	72
3 食品別検査項目内訳	77
(1) 食品別検査項目内訳(理化学検査)	77
(2) 食品別検査項目内訳(食品細菌検査)	78
4 水質別検査項目内訳	79

第4章 調査研究

1 平成27年度調査研究課題一覧	80
2 調査研究報告等実績一覧	82
(1) 平成27年度学会発表実績(口演発表)	82
(2) 平成27年度学会発表実績(示説発表)	83
(3) 平成27年度学会発表実績(誌上発表)	84
(4) 平成27年度学術誌等掲載実績	84
(5) 平成27年度行政報告等実績	87
(6) 平成27年度表彰等受賞実績	88
3 調査研究報告	89

第5章 職員に関する事項

1 人事記録	99
2 職員名簿	100

【第1章 概要】

1 沿革

年月	事項
昭和27.1	川崎市条例第2号(昭和27年1月9日)により公衆衛生の向上及び増進に寄与するため川崎市立衛生試験所が設置される。庁舎は川崎市砂子1丁目7番地 川崎市中央保健所2階の一部を使用。
昭和27.2	川崎市事務分掌条例(昭和22年川崎市条例第16号)に基づく事務分掌規則により「庶務係」及び「試験係」が設置される。
昭和36.7	市内に4か所の原子炉関係施設が設置され、市民からの強い要望に応じて、川崎市立川崎病院構内に放射能測定室を設置し、業務を開始。
昭和36.10	川崎市事務分掌規則の改正により試験係が廃止され、新たに、試験第1係、試験第2係が設置される。
昭和37.9	川崎市中央保健所庁舎が改築され、同時に同庁舎4階に移転する。
昭和40.4	試験第1係、試験第2係が廃止され、新たに、微生物係、臨床検査係、理化学環境検査係が設置される。
昭和42.7	川崎市事務分掌規則の改正により理化学環境検査係が廃止され、新たに、食品化学係、環境検査係が設置される。
昭和44.4	川崎市立川崎病院構内に設置の放射能測定室を閉鎖し、環境検査係内に移す。
昭和44.9	川崎市大島5丁目5番地2(元川崎市交通局トローバス車庫跡地)に庁舎新築起工する。
昭和45.5	新庁舎竣工する。
昭和45.6	川崎市条例第2号が改正され、川崎市衛生研究所条例(昭和45年3月31日条例第14号)が新たに 施行される。(名称変更と設置場所の変更) 川崎市事務分掌規則の改正により課制を施行、2課7係が設置される。 微生物課(①庶務係、②細菌検査係、③臨床検査係、④ウイルス検査係) 理化学課(①食品検査係、②水質検査係、③環境検査係)
昭和45.6	川崎市衛生研究所新庁舎の開庁式が挙行される。
昭和46.3	川崎市衛生研究所条例の一部を改正する条例が公布される。(昭和46年3月23日条例第6号)
昭和46.8	川崎市衛生研究所放射線障害予防規程(昭和46年7月29日訓令第14号)が施行される。
昭和46.10	川崎市事務分掌規則の改正(昭和46年10月15日規則第71号)により、1室、2課6係となる。同時に川崎市役所機構改革により公害局公害研究所が新設され、庁舎共同使用となる。
昭和47.4	川崎市が指定都市に指定される。(地方自治法第252条の19第1項)
昭和48.12	公害研究所が新庁舎建設に伴い移転する。
昭和50.4	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(昭和50年4月1日条例第6号) 川崎市衛生研究所条例施行規則が全面改正施行される。(昭和50年4月1日規則第21号)
昭和50.7	4階に実験室を増築する。
昭和61.10	川崎市事務分掌規則等の一部改正により、課、係制を廃止し、主幹・主査制を導入する。
平成元.3	1階に安全実験室を設置する。
平成3.3	電子顕微鏡室を設置する。
平成4.3	3階に有機溶媒排気装置を設置する。
平成4.4	川崎市事務分掌規則等の一部改正により、事務分掌の内容を変更する。
平成4.5	主査(衛生動物検査担当)及び主査(残留農薬検査担当)を増設する。
平成6.4	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成6年3月30日条例第13号)
平成6.7	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成6年3月30日条例第6号) 手数料(第7条関係別表)を大幅に改定する。
平成9.5	神奈川県から医薬品検査業務が本市に移管されたことに伴い、4階に医薬品検査施設を増設する。
平成10.4	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成10年3月24日条例第4号) 医薬品検査手数料を新設する。
平成12.4	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成12年3月24日条例第12号) 手数料(第7条関係別表)を一部改定する。
平成16.2	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成15年12月25日条例第48号)
平成16.3	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成16年3月24日条例第8号) 川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成18年3月31日条例第34号)
平成20.3	川崎市衛生研究所条例が一部改正施行される。(平成20年3月25日条例第20号)

年月	事項
平成21.4	組織再編により第2類事業所となる。 衛生動物検査部門をウイルス検査部門に統合する。
平成24.4	組織再編により第1類事業所となる。 副所長及び企画調整担当を設置する。 環境検査部門を水質検査部門に統合する。
平成25.2	川崎区殿町3丁目25番13号川崎生命科学・環境研究センター2階に移転する。
平成25.3	平成24年10月10日条例第42号により、川崎市衛生研究所条例が川崎市衛生試験検査手数料条例として一部改正施行される。(名称等の変更) 組織改正により衛生研究所を再編し、健康安全研究所を設置する。 感染症情報センターを健康安全研究所内に設置する。
平成25.4	平成24年10月10日条例第42号により、川崎市衛生研究所条例が川崎市衛生試験検査手数料条例として一部施行される。(手数料の改訂) 企画調整担当課長を設置する。

2 施設概要

(1) 川崎生命科学・環境研究センター（LiSE）施設概要

川崎生命科学・環境研究センター(LiSE; Life Science and Environment research center)は、市の研究施設である「川崎市健康安全研究所」及び「川崎市環境総合研究所」に加え、民間の研究施設が入居した施設であり、殿町国際戦略拠点キングスカイフロントにおける、ライフサイエンス・環境分野の研究開発拠点として建設された。

土地は川崎市、建物は大成建設株式会社が保有し、施設維持管理は大成有楽不動産株式会社が実施するPP(Public Private Partnership)方式が採用されている。

環境に配慮した設計とされており、太陽熱や空気熱を利用した給湯システム、太陽光パネルを用いた電力供給、外壁へのダブルウォール(二重壁)使用による断熱性、メンテナンス性向上等の様々な環境対策が施されている。

表1 川崎生命科学・環境研究センター（LiSE）建物概要

所在地	〒210-0821 神奈川県川崎市川崎区殿町3-25-13
敷地面積	6,999.93㎡
建築面積	3,110.63㎡
延床面積	11,406.09㎡(うち健康安全研究所使用部分2329.38㎡)
構造	鉄筋コンクリート造、鉄骨造
規模	地上4階、塔屋1階(うち健康安全研究所として2階フロアを使用)
竣工年月	2012年12月
設計・監理	大成建設株式会社一級建築士事務所
施工	大成建設株式会社横浜支店
建物所有	大成建設株式会社
建物維持管理	大成有楽不動産株式会社
主な施設	1F カフェ、防災センター、会議室、書庫、セミナー室等 2F 川崎市健康安全研究所 3F 川崎市環境総合研究所 4F 民間ラボ

(2) 川崎市健康安全研究所の移転開設について

本研究所は平成25年3月、川崎区大島5丁目から、川崎区殿町3丁目の川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)2階に移転開設し、名称が「川崎市衛生研究所」から「川崎市健康安全研究所」に変更された。

移転時には、「企画調整担当」の新設に加え、感染症情報の収集・解析・発信を行う感染症情報センター機能

を「健康福祉局健康安全室(現、感染症対策課)」から移管するなど、移転開設に併せて研究所機能の強化が図られた。

研究所の役割は、川崎市の衛生行政を支える科学的・技術的中核機関として、試験検査、調査研究、情報発信、研修指導の4本柱を基盤とし、市民の健康で安全な暮らしを支えることを目的としているほか、実験動物中央研究所をはじめとする殿町地区内外の研究機関との共同研究にも力を注いでいる。

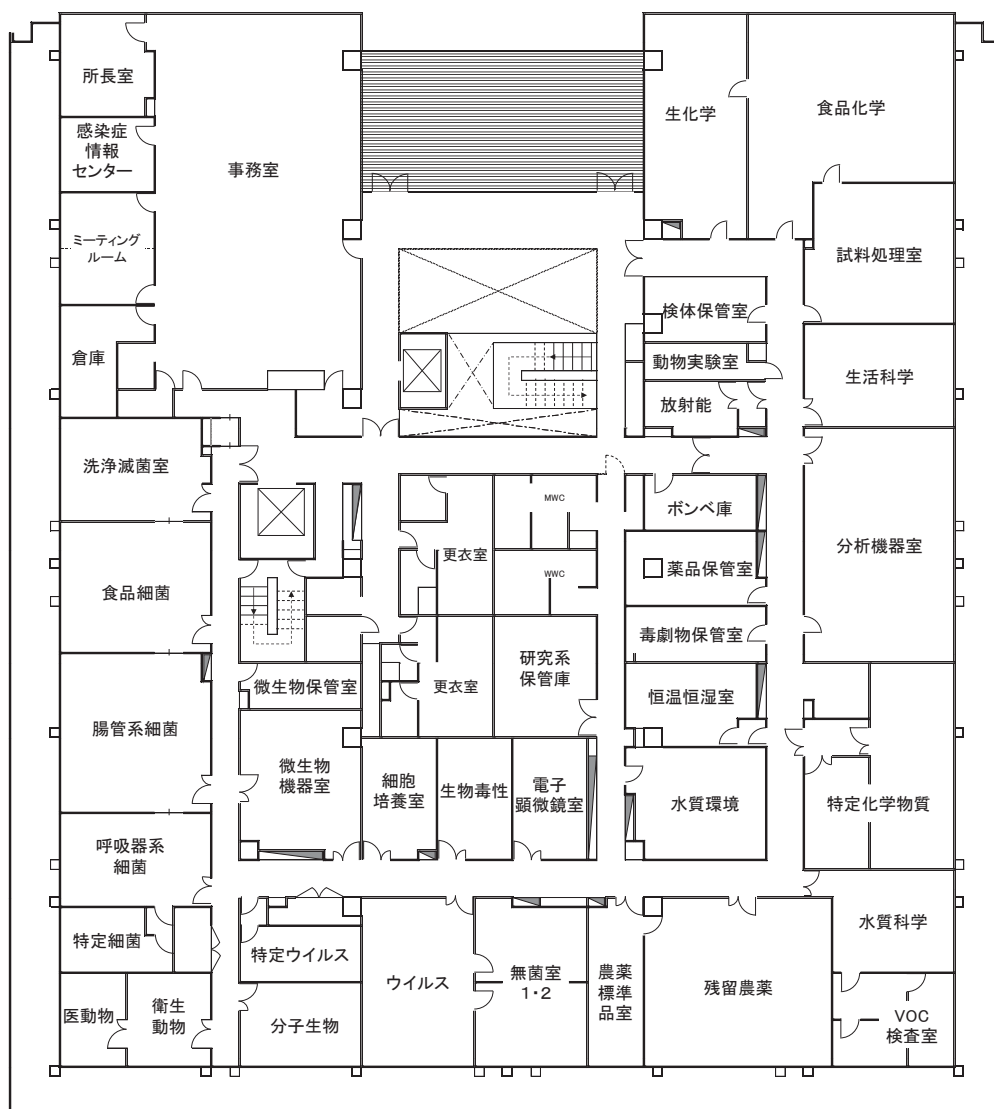
(3) 健康安全研究所施設概要

研究所施設は川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)の2階フロア全体を占め、理化学エリア、微生物エリアの他、事務室及び感染症情報センターの4エリアで構成されている。

旧施設の衛生研究所では、事務担当以外の職員の事務机はそれぞれの検査室に配置されていたが、健康安全研究所では全ての職員について、事務室に事務机を配置し、情報の共有化が図りやすい環境となった。

また、それぞれのエリアではICカードによる入室管理が行われている。特に理化学エリア及び微生物エリアは2次セキュリティのフロアとなっており、また入室の権限についても個人ごとに別々に付与されているため、たとえ職員であっても不要な諸室には入室できないようになっている。

図1 健康安全研究所図面(川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)2階)



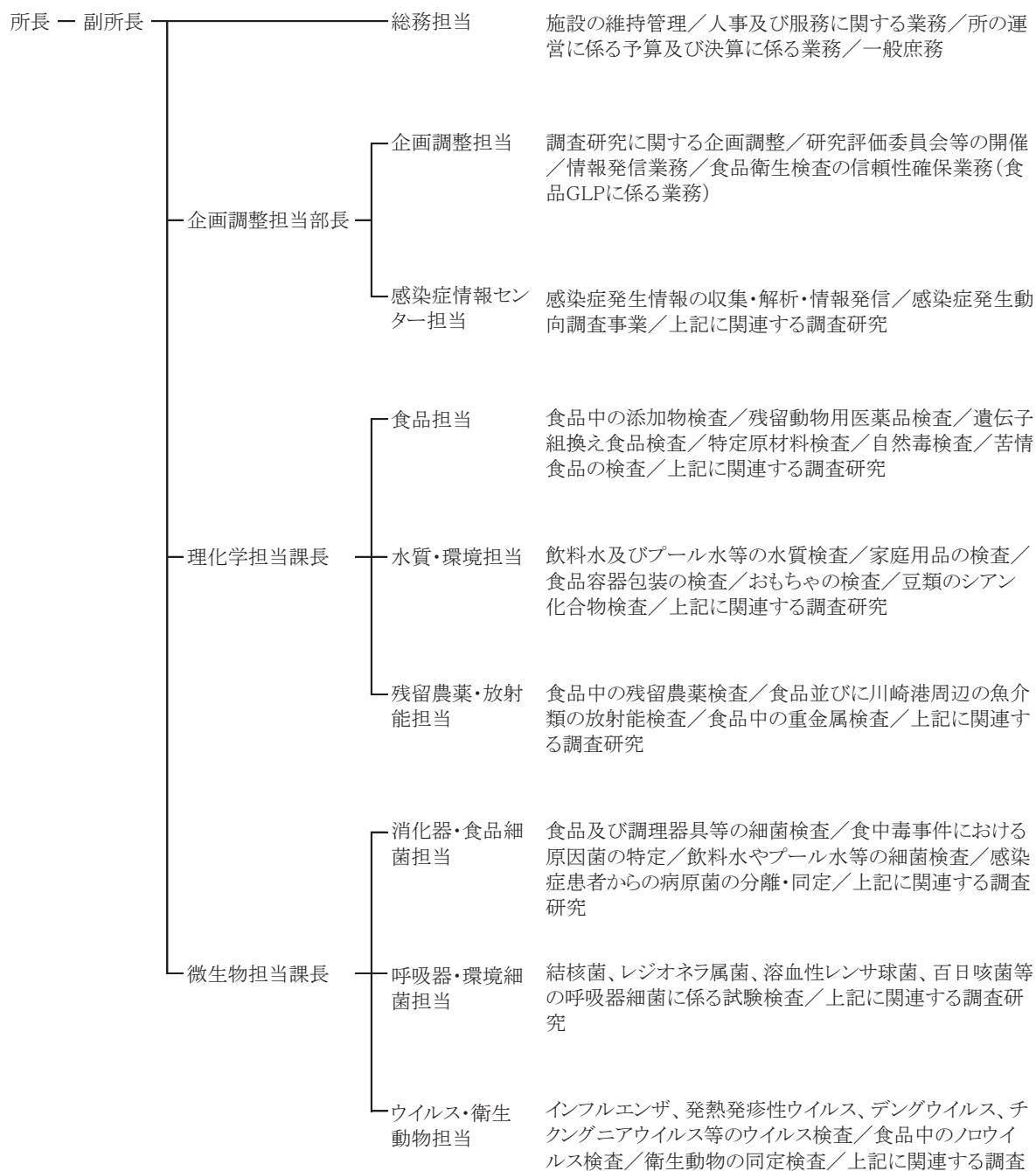
3 組織

(1) 組織と業務

本研究所の組織は、所長のもとに 9 担当で構成されている。

組織体制と各担当の主な業務を図 2 に示す。

図2 組織図



(2) 事務分掌

川崎市事業所事務分掌規則(昭和 51 年 4 月 30 日規則第 39 号)第 3 条の事務分掌は、次のとおりとする。

健康安全研究所

ア 所の維持管理に関すること。

イ 試験検査の企画、調査及び統計に関すること。

ウ 公衆衛生従事者の研修に関すること。

エ 感染症情報センターに関すること。

オ 微生物学的試験検査及び調査研究に関すること。

カ 衛生動物の試験検査及び調査研究に関すること。

キ 理化学的試験検査及び調査研究に関すること。

ク その他公衆衛生上必要な試験検査及び調査研究に関すること。

(3) 人員配置

平成 27 年 4 月 1 日現在の人員配置を表 2 に示す。

表2 人員配置

		職種						
		医師	一般事務	獣医師	薬剤師	臨床検査技師	化学	総数
所長		1						1
副所長			1					1
総務			4					4
企画調整	担当部長	1						1
	企画調整		1				1	2
	感染症情報センター			2	1			3
理化学	担当課長			1				1
	食品				4		1	5
	水質・環境				2	1	2	5
	残留農薬・放射能				2	2		4
微生物	担当課長					1		1
	消化器・食品細菌			2	1	2		5
	呼吸器・環境細菌			1	1	1		3
	ウイルス・衛生動物			3	1	1		5
合計		2	6	9	12	8	4	41

4 予算及び決算

平成 27 年度の歳入及び歳出をそれぞれ表 3 及び表 4 に示す。

表3 歳入

単位:円

款項目	節	予算額	決算額
使用料及び手数料			
手数料			
健康福祉手数料	保健衛生施設手数料	99,439,000	68,207,540
諸収入			
雑入			
雑入	健康福祉費雑入	17,418,000	11,411,117

表4 歳出

単位:円

款項目	節	予算額	決算額
健康福祉費			
保健衛生施設費			
健康安全究所費		369,674,000	353,358,961
	報酬	2,332,000	2,331,600
	共済費	903,000	846,438
	報償費	296,000	186,560
	旅費	1,962,000	1,678,858
	需用費	53,010,000	43,097,676
	消耗品費	49,325,000	40,820,019
	燃料費	45,000	14,283
	印刷製本費	1,379,000	1,109,656
	光熱水費(ガス料)	43,000	42,269
	修繕費	2,218,000	1,111,449
	役務費	2,203,000	1,344,653
	電信電話料	239,000	244,974
	郵便料	325,000	330,332
	運搬料	5,000	972
	手数料	1,436,000	599,895
	筆耕翻訳料	198,000	168,480
	委託料	35,859,000	33,987,143
	使用料及び賃借料	225,007,000	224,965,854
	備品購入費	3,804,000	3,784,697
	負担金補助及び交付金	44,298,000	41,135,482

5 学会参加並びに視察対応等の実績

(1) 学会・研究会等出席実績

年月日	名称	場所	参加者
H27.4.4	第11回和歌山感染症・アレルギーフォーラム	和歌山県JAビル	岡部
H27.4.12	日本医学会総会シンポジウム	京都大学百周年時計台記念館	岡部
H27.4.16～17	第89回日本感染症学会学術講演会	国立京都国際会館	岡部、三崎、丸山
H27.4.18	第118回日本小児科学会学術集会	大阪国際会議場、リーガロイヤルホテル大阪	(4.18)岡部 (4.18～4.19)三崎
H27.5.14	日本産業衛生学会	グランフロント大阪	岡部
H27.5.14～15	第109回日本食品衛生学会学術講演会	タワーホール船堀	赤星、江崎
H27.5.14～17	The 13th Asian and Oceanian Congress of Child Neurology	Taipei International Convention Center	三崎
H27.5.20～22	日本食品化学学会第21回総会・学術大会	東京ビッグサイト	橋口
H27.5.21	第25回感染研シンポジウム	国立感染症研究所	岡部、丸山
H27.5.25	第1回食品防御対策検討会	富国生命ビル	赤星
H27.5.28～30	第57回日本小児神経学会学術集会	帝国ホテル大阪	三崎
H27.6.5～6	日本化学療法学会シンポジウム	京王プラザホテル	岡部
H27.6.13～14	第56回日本臨床ウイルス学会	岡山大学鹿田キャンパス	岡部、三崎、清水(英)、丸山、大嶋
H27.6.26～27	日本法中毒学会第34年会	九州大学医学部百年講堂	岸
H27.7.23～24	衛生微生物技術協議会第36回研究会	仙台国際センター	岡部、三崎、松尾、清水(英)、丸山、大嶋、本間、淀谷、清水(智)
H27.8.7	第31回日本食品化学学会シンポジウム	赤坂溜池タワー	高居
H27.8.31	麻疹排除認定授与式	厚生労働省	岡部
H27.9.11	日本マイコトキシン学会第77回学術講演会	庄内産業振興センター マリカ市民ホール	橋口
H27.9.12	第78回神奈川県感染症医学会	横浜情報文化センター	岡部、三崎、松尾、湯澤、丸山、大嶋、淀谷、安澤
H27.9.15～17	第15回日本バイオセーフティ学会学術集会	戸山サンライズ(新宿区)	赤星
H27.10.1～2	第30回関東甲信静ウイルス研究部会	With You さいたま	岡部、石川、駒根
H27.10.15～16	第38回農薬残留分析研究会	名鉄犬山ホテル	荒木
H27.10.19	川崎市健康福祉研究発表会	川崎市役所第4庁舎	三崎、赤星、大嶋、高居、淀谷、原田、安澤、鏡淵
H27.10.19～20	国際ワクチン学会	ロッテホテル(ソウル市)	岡部

H27.10.21～23	第64回日本感染症学会東日本地方会総会学術集会	ロイトン札幌	岡部、三崎、丸山、安澤
H27.10.23	第60回神奈川県公衆衛生学会	神奈川県総合医療会館	小河内
H27.10.29～30	第110回日本食品衛生学会 学術講演会	京都パルスプラザ	赤星、高居
H27.10.31～11.1	第47回日本小児感染症学会総会・学術集会	ザ・セレクトン福島、ホテル 福島グリーンパレス他	岡部、三崎、淀谷
H27.11.4～6	第74回日本公衆衛生学会総会	長崎ブリックホール	岡部、三崎、丸山、大嶋、 淀谷
H27.11.11～13	第36回日本食品微生物学会学術総会	川崎市教育文化会館	(11.11～13) 松尾、清水(英)、本間、湯 澤、石川、小河内、松島、 淀谷、清水(智) (11.11、13)福田、江崎 (11.12)大嶋
H27.11.14～15	第19回日本ワクチン学会学術集会	名鉄犬山ホテル	岡部、三崎、丸山、大嶋
H27.11.19	第43回北陸公衆衛生学会	金沢東急ホテル	岡部
H27.11.20	平成27年度地方衛生研究所全国協議会近畿支部 自然毒 部会研究発表会	和歌山市役所	牛山
H27.11.24	全国疫学情報ネットワーク構築会議	東京都健康安全研究セン ター	三崎、丸山、大嶋
H27.12.3～4	第52回全国衛生化学技術協議会年会	静岡県コンベンションアー ツセンター「グランシップ」	福田、石丸、赤星、牛山、 原田、江崎
H27.12.5～6	日本性感染症学会第28回学術大会	都市センターホテル	(12.5～6) 三崎、丸山、大嶋 (12.6)岡部
H27.12.11	地衛研全国協議会関東甲信静支部第5回公衆衛生情報研 究部会・総会	横浜市衛生研究所	三崎、丸山、大嶋
H28.1.8	日本マイコトキシン学会第78回学術講演会	川崎市健康安全研究所	福田、橋口、赤星、牛山、 鏡淵
H28.1.28～29	第29回公衆衛生情報研究協議会総会・研究会	国立保健医療科学院	(1.28)石丸 (1.29)岡部 (1.28～29)三崎、丸山、 大嶋
H28.1.29～31	第27回日本臨床微生物学会総会・学術集会	仙台国際センター	本間、原
H27.2.9～10	第28回地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部細菌 研究部会総会・研究会	静岡県男女共同参画セン ター	岡部、松尾、本間、湯澤、 淀谷
H28.2.14	第16回食物アレルギー研究会	昭和大学上條講堂	赤星
H28.2.19	平成27年度地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部 理化学研究部会総会・研究会	川崎市産業振興会館	岡部、福田、橋口、石丸、 岸、小林、佐藤、赤星、牛 山、高居、原田、荒木、江 崎、鏡淵、遠藤
H28.2.19～20	第31回日本環境感染学会	国立京都国際会館	淀谷
H28.2.21	予防接種に関する研究報告会	新大宗ビルFORUM8	岡部、三崎、松尾、宮下、 丸山、大嶋、淀谷
H28.2.26	平成27年度神奈川県内衛生研究所等連絡協議会理化学 情報部会	横須賀市健康安全科学セ ンター・横須賀市職員厚生 会館	福田、橋口、石丸、牛山、 高居、荒木、鏡淵

H28.2.29	地域保健総合推進事業発表会	都市センターホテル	三崎
H28.3.10	平成27年度神奈川県内衛生研究所等連絡協議会微生物情報部会	神奈川県衛生研究所	松尾、本間、石川、駒根、淀谷、安澤
H28.3.12	第79回神奈川県感染症医学会	ソリッドスクエア	三崎、松尾、宮下、丸山、大嶋、原、松島、駒根、安澤、清水(智)
H28.3.16～18	第50回日本水環境学会年会	アスティとくしま	高居

(2) 講習会・研修会等受講実績

年月日	名称	場所	参加者
H27.4.1～4.28	FETP初期導入コース	国立感染症研究所	淀谷
H27.4.23～24	地方衛生研究所サーベイランス業務従事者研修	国立感染症研究所	三崎、丸山、大嶋
H27.4.24	健康福祉局新任職員研修	明治安田生命川崎ビル	鏡淵
H27.4.27	平成27年度環境・食品衛生関係職員研修会	川崎市役所第3庁舎15階第1会議室	鏡淵
H27.4.28	食品安全性試験見学会	日本ウォーターズ(株)東京本社	橋口
H27.5.14	放射線業務従事者のための教育訓練講習会	家の光会館(新宿区)	荒木
H27.5.20	イオンクロマトグラフ ユーザーズフォーラム	崎陽軒ココハマジャスト1号館	高居、原田
H27.5.22	平成27年度食品衛生検査施設信頼性確保部門責任者等研修会	厚生労働省講堂	熊谷、遠藤
H27.5.26	平成27年度第1回公衆衛生専門技術研修	神奈川県衛生研究所	丸山
H27.5.29	蛍光顕微鏡の使い方と蛍光画像の撮り方講習	ニコンインステック本社	淀谷、小河内
H27.6.5	風しん対策講演会	川崎市役所第3庁舎	丸山、大嶋
H27.6.5	学校欠席者情報収集システム都道府県等担当者研修会	国立感染症研究所	丸山、大嶋
H27.6.8	川崎市感染症媒介蚊対策関係職員研修会	川崎市役所第4庁舎	大嶋
H27.6.9	平成27年度環境衛生監視員研修(基礎コース)	神奈川県衛生研究所	高居
H27.6.9	平成27年度食品衛生監視員研修(食品監視コース・前期)	神奈川県衛生研究所	鏡淵
H27.6.10	感染症媒介蚊対策講習会	渋谷区文化総合センター大和田	三崎、丸山
H27.6.21	神臨技共済友の会「グラム染色・抗酸菌染色研修会」	神臨技研修センター	安澤
H27.6.22	平成27年度食品衛生監視員研修(食品監視コース・前期)	神奈川県食肉衛生検査所	鏡淵
H27.6.22	平成27年度衛生課関係職員実地研修	川崎市多摩スポーツセンター/多摩区総合庁舎	高居、原田

H27.7.7	オフフレーバー研究会第5回勉強会	東京家政大学 板橋キャンパス 三木ホール	牛山
H27.7.8～10	第52回アイソトープ・放射線研究発表会	東京大学弥生講堂	佐藤、江崎
H27.7.9	健康福祉局職員メンタルヘルス研修	川崎市役所第4庁舎	高居、鏡淵
H27.7.27	平成27年度結核予防関係職員研修	高津区役所	淀谷、宮下、松尾
H27.7.30	食品表示基準研修会及び環境・食品衛生関係職員研修会	ソリッドスクエア西館	赤星
H27.8.7	(公社)日本水環境学会 第24回市民セミナー	地球環境カレッジホール(世田谷区)	佐藤
H27.8.7	川崎市感染症危機管理研修会	川崎市役所第4庁舎	岡部、松尾、清水(英)、清水(智)
H27.8.20	蛍光顕微鏡の使い方と蛍光画像の撮り方講習	㈱ニコンインステック 東京・ショールーム	石丸
H27.9.2	(一社)オフフレーバー研究会 食品オフフレーバー(異臭)対策と官能パネルの育成実習	幕張メッセ国際会議場	高居、原田
H27.9.16	センナ形態鑑別研修	神奈川県衛生研究所	福田、石丸、高居、原田
H27.10.2	高圧ガス消費事業者保安講習会	かわさき保育会館	江崎
H27.10.7	平成27年度環境・水道衛生関係職員実地研修	イオン新百合ヶ丘ショッピングセンター	高居
H27.10.7	農薬の急性参照用量(Arfd)の設定に関する国際シンポジウム	日本学術会議講堂	岸
H27.10.8	川崎市健康危機管理対策研修会	川崎市役所第4庁舎	丸山、大嶋
H27.10.15	東京都実地疫学調査研修	東京都健康安全研究センター	丸山
H27.10.16	HACCP研修会	川崎市役所第4庁舎	福田
H27.10.21	残留農薬分析セミナー2015	明治薬科大学剛堂会館	江崎
H27.10.22	食品分析向けサンプル前処理ワークショップ2015	アジレント・テクノロジー(株)芝浦オフィス	鏡淵
H27.10.23	農薬残留技能試験フォローアップセミナー	産業技術総合研究所臨海副都心センター	荒木
H27.11.5～6	第56回機器分析講習会	㈱島津製作所東京支社	江崎
H27.11.6	食品に関するリスクコミュニケーション～食品中の放射性物質に対する取組について～	小田原お堀端コンベンションホール	岸
H27.11.9	食品に関するリスクコミュニケーション～知ろう、考えよう、農薬のこと～	さいたま市産業文化センター	福田、佐藤
H27.11.9～27	平成27年度細菌研修	国立感染症研究所 村山庁舎	安澤
H27.11.11	食の安全に関する市民公開講座	川崎市教育文化会館	三崎、丸山、大嶋、牛山、高居、鏡淵
H27.11.13	マイクロ波試料前処理セミナー	ホテルKSP	石丸
H27.11.13	pH基礎セミナー	貸会議室AP横浜駅西口	高居

H27.11.17～18	真菌同定検査に関する技術研修	国立医薬品食品衛生研究所	赤星
H27.11.18	有機溶剤従事者に対する安全衛生教育講習	川崎市労働会館	高居
H27.11.20	原子吸光ユーザーセミナー	アジレント・テクノロジー (株)芝浦オフィス	小林、高居
H27.11.25	平成27年度放射線安全の推進に関する研修	川崎市役所第4庁舎	佐藤
H27.11.25	平成27年度日本水道協会関東地方支部水質研究発表会	新宿明治安田生命ホール	石丸
H27.11.25～26	GCMS操作講習会	(株)島津製作所 東京支社	高居
H27.11.27	平成27年度食品衛生監視員研修(食品監視コース・後期)	神奈川県衛生研究所	熊谷、遠藤
H27.12.11	第341回ガスクロマトグラフィー研究会特別講演会	北とびあ	岸
H27.12.15	日本水環境学会 水中の健康関連微生物研究委員会シンポジウム	発明会館地下ホール(港区)	石丸、原田
H27.12.22	感染症法改正に関する担当者説明会	厚生労働省	清水(英)
H28.1.7	地域包括ケアシステムの推進に向けた研修会	川崎市役所第4庁舎	石丸
H28.1.12	平成27年度川崎市職員不祥事防止委員会コンプライアンス研修	川崎市役所第4庁舎	福田
H28.1.23	平成27年度神奈川県衛生監視員協議会研修会	藤沢市保健所	福田、高居、江崎、鏡淵
H28.1.25	業務管理者を対象としたワーク・ライフ・バランス研修	川崎市役所第4庁舎	福田
H28.1.26～27	感染症制御セミナー	国立感染症研究所	三崎、丸山
H28.1.29	平成27年度衛生検査基礎技術研修	神奈川県衛生研究所	安澤
H28.2.1	食品に関するリスクコミュニケーション～輸入食品の安全性確保に関する意見交換会～	ビジョンセンター東京(中央区)	佐藤
H28.2.3	平成27年度神奈川県衛生監視員研修(専門監視コース)	神奈川県衛生研究所	鏡淵
H28.2.3	平成27年度厚生労働科学研究(食品の安全確保推進研究)シンポジウム	東京証券会館ホール	本間、丸山、清水(智)
H28.2.5	平成27年度生活衛生関係技術担当者研修会	厚生労働省講堂	高居、原田
H28.2.10	平成27年度地方衛生研究所全国協議会衛生理化学分野研修会	国立医薬品食品衛生研究所	高居
H28.2.12	平成27年度衛生研究所特別講演(衛生技術研修)	横浜市衛生研究所	淀谷、安澤
H28.2.12	一般社団法人神奈川県臨床検査技師会「第4回微生物研修会」	かながわ県民センター	安澤
H28.2.13	食品化学学会・奥伊勢BSC共催セミナー“食品科学研究のための基礎セミナー:食品とエビデンス”	アスト津	橋口
H28.2.15	障害者差別解消法施行に伴う管理職向け研修会	川崎市産業振興会館	福田
H28.2.17～18	希少感染症診断技術研修会	国立感染症研究所	松尾、本間、駒根

H28.2.22～2.24	平成27年度公衆衛生実務者研修	神奈川県衛生研究所	淀谷
H28.3.2	平成27年度衛生課関係職員実地研修	コナミスポーツクラブ新百合ヶ丘	高居
H28.3.4	食の安全セミナー	㈱エービー・サイエックス	橋口
H28.3.4	平成27年度神奈川県水道水質検査機関技術研修会	神奈川総合医療会館	高居、原田
H28.3.10	平成27年度水道水質検査精度管理に関する研修会	厚生労働省講堂	高居

(3) 会議等出席実績

年月日	名称	場所	参加者
H27.4.2	第9回厚生科学審議会感染症部会	厚生労働省	岡部
H27.4.3	日本学会会議合同会議	日本学会会議	岡部
H27.4.11	日本公衆衛生学会感染症委員会	日本公衆衛生協会	岡部
H27.4.21	新型インフル対策小委員会	厚生労働省	岡部
H27.4.22	第23回医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議	TKP永田町	岡部
H27.4.22	第9回基本的対処方針等諮問委員会委員情報共有会議	中央合同庁舎8号館	岡部
H27.4.24	第106回疾病・障害認定審査会感染症・予防接種審査分科会	厚生労働省	岡部
H27.4.24	日本ワクチン学会理事会	AP品川アネックス	岡部
H27.5.11	地方衛生研究所全国協議会第1回理事会・総務委員会	東京都健康安全研究センター	岡部
H27.5.13	厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会予防接種基本方針部会	厚生労働省	岡部
H27.5.21	平成27年度第1回川崎市保健・衛生・医療関係専門職人材育成専門部会	ソリッドスクエア	福田
H27.5.22	食品安全委員会	食品安全委員会	岡部
H27.5.25	厚生労働科学研究「行政機関や食品企業における食品防衛の具体的な対策に関する研究」第1回班会議	富国生命ビル	岡部、赤星、荒木
H27.5.28	厚生労働科学研究(倉班)班会議	国立感染症研究所	淀谷、松尾
H27.5.28	東京都感染症予防検討委員会	東京都医師会	岡部、丸山
H27.5.29	厚生科学審議会感染症部会	航空会館	岡部
H27.6.2	食品中の食品添加物分析法検討班会議	横浜市衛生研究所	橋口、牛山
H27.6.3	内閣官房意見交換	ホテルオークラ	岡部
H27.6.4	全国地方衛生研究所長会議	厚生労働省	岡部

H27.6.5	厚生労働科学研究「基準値の策定に資する食品汚染カビ毒の実態調査と生体影響評価に関する研究」班会議	麻布大学	橋口
H27.6.5	平成27年度地方衛生研究所全国協議会臨時総会	東京都健康安全研究センター	三崎
H27.6.9～12	第24回ワクチンで予防可能な疾患に関する技術顧問会議	WHO Regional Office WPRO	岡部
H27.6.11～12	「迅速・網羅的病原体ゲノム解析法を基盤とした感染症対策ネットワーク構築に関する研究」班会議	国立感染症研究所	松島
H27.6.17	厚生労働科学研究(松井班)第1回研究班会議	国立感染症研究所	三崎、丸山
H27.6.18～19	「下痢症ウイルスの分子疫学と感染制御に関する研究」班会議	国立感染症研究所	岡部、清水(英)
H27.6.22	厚生労働科学研究(砂川班)第1回研究班会議	国立感染症研究所	三崎、本間、丸山、小河内
H27.6.22～24	重大感染症リスクガイドライン検討委員会	世界保健機関(ジュネーブ)	岡部
H27.6.24	平成27年度第1回神奈川県外部精度管理調査委員会	かながわ県民活動サポートセンター	石丸
H27.6.28	「ワクチンによって予防可能な疾患のサーベイランス強化と新規ワクチンの創出等に関する研究」第1回班会議	国立感染症研究所	岡部
H27.6.29	エボラ・デング熱等グループ班会議	国立感染症研究所	三崎
H27.6.30	ワクチン接種と乳幼児突然死疫学調査検討会	厚生労働省	岡部
H27.7.1	FETP-J	川崎区役所保健福祉センター	岡部
H27.7.2	第69回地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部総会	やまなしふらざ	岡部
H27.7.3	ワクチン会議	厚生労働省	岡部
H27.7.3	厚生科学審議会新型インフルエンザ対策小委員会	厚生労働省	岡部
H27.7.6	首都圏感染症情報センター連絡会	東京都健康安全研究センター	三崎、丸山、西村、大嶋
H27.7.8	第11回厚生科学審議会感染症部会	厚生労働省	岡部
H27.7.9	日本医師会感染症予防接種委員会	日本医師会館	岡部
H27.7.9	平成27年度第1回神奈川県・政令市合同精度管理専門委員会	神奈川県総合医療会館	湯澤
H27.7.9～10	「麻疹ならびに風疹排除およびその維持を科学的にサポートするための実験室検査に関する研究」班会議	国立感染症研究所	松島
H27.7.10	平成27年度第1回川崎市食の安全確保対策懇談会	経済労働局会議室	福田、松尾
H27.7.10	厚労省未承認薬検討会	厚生労働省	岡部
H27.7.13	神奈川県内衛生研究所等連絡協議会会長会	横浜市衛生研究所	岡部、三崎、福田
H27.7.17	第1回県・市感染症情報センター連絡調整会議	横浜市衛生研究所	三崎、丸山、大嶋
H27.7.17	中東呼吸器症候群(MERS)対策に関する専門家会議	厚生労働省	岡部
H27.7.19	厚生労働科学研究(庵原・神谷班)班会議	国立感染症研究所	岡部、松尾、宮下、淀谷

H27.7.29	平成27年度第1回川崎市感染症対策協議会	川崎市役所第4庁舎	三崎、松尾、丸山、大嶋
H27.7.29	食品安全委員会	食品安全委員会	岡部
H27.7.30	東京都感染症予防検討委員会	東京都医師会	岡部、丸山
H27.8.7	厚生労働科学研究「行政機関や食品企業における食品防 御の具体的な対策に関する研究」実態調査	衛生研究所	福田、赤星、荒木
H27.8.7	MERS情報共有会議	川崎区役所保健福祉セン ター	岡部、三崎、大嶋
H27.8.20	平成27年度指定都市衛生研究所長会	日本料理小田原屋	岡部
H27.8.21	疾病・障害認定審査会感染症・予防接種審査分科会	厚生労働省	岡部
H27.8.27	微生物・ウイルス専門調査会	食品安全委員会	岡部
H27.8.28	日本学会会議微生物連盟会議	日本学会会議	岡部
H27.8.31	平成27年度地方衛生研究所全国協議会第2回理事会・総 務委員会	東京都健康安全研究セン ター	岡部
H27.9.2	第4回連携・協力に関する協議会	川崎生命科学・環境研究 センター1階大会議室	岡部、廣政、三崎、福田、 松尾、清水(英)、橋口、赤 星、熊谷、遠藤
H27.9.7	日本ワクチン学会編集委員会・理事会	AP品川	岡部
H27.9.8	平成27年度地域保健総合推進事業に係る第1回関東甲信 静ブロック会議	山梨県県立図書館	石丸
H27.9.11	新型インフルエンザ小委員会	厚生労働省	岡部
H27.9.17	厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部 会	田中田村町ビル	岡部
H27.9.18	厚生科学審議会感染症部会	厚生労働省	岡部
H27.9.18	疾病・障害認定審査会感染症・予防接種審査分科会	厚生労働省	岡部
H27.9.24	動物慰霊祭	動物愛護センター	福田、鏡淵
H27.9.24	東京都感染症予防検討委員会	東京都医師会	岡部、丸山
H27.9.28	第1回日本ポリオ根絶会議	厚生労働省	岡部
H27.9.29	川崎港保健衛生協議会輸入感染症担当者会議	かわさきファズ物流セン ター	松尾
H27.9.30	平成27年度第1回川崎市感染症発生動向調査委員会	中原休日急患診療所	三崎、松尾、清水(英)、宮 下、本間、丸山、大嶋
H27.10.7	平成26年度地域保健総合推進事業関東甲信静ブロック地 域レファレンスセンター連絡会議及び専門家会議	山梨県立図書館	本間
H27.10.9	平成27年度関東・東海ブロック家庭用品安全対策会議	藤沢市保健所	石丸
H27.10.9	医療・公衆衛生に関する分科会	厚生労働省	岡部
H27.10.14	未承認薬審査会議	厚生労働省	岡部

H27.10.15	平成27年度第2回川崎市保健・衛生・医療関係専門職人材育成専門部会並びに福祉関係専門職人材育成専門部会合同部会	川崎市役所第4庁舎	福田
H27.10.16	第2回結核対策事業検討会	高津区役所	淀谷
H27.10.16	新型インフルエンザ対策ワーキンググループ	厚生労働省	岡部
H27.10.20	川崎市原子力施設安全対策協議会幹事会	災害対策本部室	福田
H27.10.21	第13回厚生科学審議会感染症部会	厚生労働省	岡部
H27.10.21	第110回疾病・障害認定審査会感染症・予防接種審査分科会	厚生労働省	岡部
H27.10.23	日本マイコトキシン学会幹事会	東京大学農学部	橋口
H27.10.26	地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部理化学研究部会役員会	川崎市産業振興会館	福田、石丸
H27.10.29	内閣官房新型インフルエンザ有識者会議	三田共用会議所	岡部
H27.10.29	厚生労働科学審議会予防接種・ワクチン分科会	厚生労働省	岡部
H27.11.3	第66回地方衛生研究所全国協議会総会	ベストウエスタンプレミアホテル長崎	岡部
H27.11.6	薬事・食品衛生審議会医薬品等安全対策部会	厚生労働省	岡部
H27.11.10～12	WHO RCCポリオ根絶監視委員会	国立感染症研究所	岡部
H27.11.16	川崎市感染対策委員会	川崎市産業振興会館	岡部
H27.11.20	平成27年度第2回川崎市食の安全確保対策懇談会	経済労働局会議室	福田、松尾
H27.11.20	内閣官房新型インフルエンザ等発生時対応検討会議	岡山大学病院	岡部
H27.11.24	県内衛生研究所等における平常時連携に係る検討委員会	神奈川県衛生研究所	熊谷、遠藤
H27.11.26	東京都感染対策委員会	公益社団法人東京都医師会	岡部
H27.11.26	日本医師会感染対策委員会	公益社団法人日本医師会	岡部
H27.11.27	日本マイコトキシン学会幹事会	東京大学農学部	橋口
H27.11.27	第16回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会	厚生労働省	岡部
H27.12.2～5	WHOワクチンの安全性に関する国際諮問委員会	世界保健機関(ジュネーブ)	岡部
H27.12.7	平成27年度第2回神奈川県・政令市合同精度管理専門委員会	神奈川県総合医療会館	湯澤
H27.12.8	第1回川崎市保健福祉センター等職員B型肝炎対策委員会	ソリッドスクエア	松尾
H27.12.8	健康危機管理情報支援事業実行委員会	国立保健医療科学院	三崎
H27.12.10～11	「下痢症ウイルスの分子疫学と感染制御に関する研究」班会議	国立感染症研究所	岡部、清水(英)
H27.12.11	厚生労働科学研究「基準値の策定に資する食品汚染カビ毒の実態調査と生体影響評価に関する研究」班会議	麻布大学	橋口

H27.12.11	ワクチン障害認定分科会	厚生労働省	岡部
H27.12.11	新型インフルエンザ対策小委員会	厚生労働省	岡部
H27.12.15～16	「迅速・網羅的病原体ゲノム解析法を基盤とした感染症対策ネットワーク構築に関する研究」班会議	国立感染症研究所	松島
H27.12.17	厚生科学審議会感染症部会	厚生労働省	岡部
H27.12.24	厚生労働科学研究「行政機関や食品企業における食品防衛の具体的な対策に関する研究」事業所実査	群馬県邑楽郡	赤星、荒木
H28.1.8	「地方衛生研究所における病原微生物検査の外部精度管理」班会議	国立感染症研究所	清水(英)
H28.1.8	厚生労働科学研究(松井班)第2回研究班会議	全国障害者総合福祉センター	三崎、丸山
H28.1.14	平成27年度地域保健総合推進事業に係る第2回関東甲信静ブロック会議	山梨県県立図書館	石丸
H28.1.14	厚生労働科学研究「食品用器具・容器包装等に含有される化学物質の分析に関する研究」班会議	国立医薬品食品衛生研究所	高居
H28.1.18	内閣官房第3回新型インフルエンザ等発生時対応検討会議	岡山大学病院	岡部
H28.1.19～20	厚生労働科学研究「行政機関や食品企業における食品防衛の具体的な対策に関する研究」事業所実査	佐賀県鳥栖市	赤星
H28.1.20	竹田班班会議	国立感染症研究所	岡部
H28.1.20	川崎市新型インフル等医療関係5団体連携会議	川崎市役所第3庁舎	岡部
H28.1.20～21	「麻疹ならびに風疹排除およびその維持を科学的にサポートするための実験室検査に関する研究」班会議	国立感染症研究所	松島
H28.1.22	東京オリンピック・パラリンピックのセキュリティ対策に関する検討ワークショップ	東京都庁	岡部
H28.1.22	食品中の食品添加物分析法検討班会議	国立医薬品食品衛生研究所	橋口、牛山
H28.1.25	地方自治体における健康危機対応能力の向上に関する検討会	国立感染症研究所	三崎
H28.1.25	平成27年度地域保健総合推進事業第2回ブロック長等会議	東京都健康安全研究センター	岡部
H28.1.25	麻しん・風しん対策推進会議	厚生労働省	岡部
H28.1.28	公衆衛生情報研究協議会理事会	国立保健医療科学院	岡部
H28.1.28	地方感染症情報センター担当国会議	国立保健医療科学院	岡部、三崎、丸山、大嶋
H28.1.29	平成27年度第2回神奈川県外部精度管理調査委員会	かながわ県民活動サポートセンター	石丸
H28.1.29	首都圏自治体食中毒防止食品衛生検査担当者連絡会	東京都庁	清水(英)
H28.1.29	川崎市結核菌分子疫学調査分析会議	川崎市役所第4庁舎	淀谷、宮下、松尾
H28.1.30	厚生労働科学研究(庵原・神谷班)班会議	国立感染症研究所	岡部、松尾、宮下、淀谷
H28.2.1	厚生労働科学研究「行政機関や食品企業における食品防衛の具体的な対策に関する研究」第2回班会議	航空会館(東京)	岡部、赤星、荒木
H28.2.3	厚労省未承認薬検討会	東海大学校友会館	岡部

H28.2.4	厚生労働科学研究(倉班)班会議	国立感染症研究所	淀谷、松尾
H28.2.5	予防接種・ワクチン分科会基本方針討部会	厚生労働省	岡部
H28.2.5	予防接種健康被害認定審査会	厚生労働省	岡部
H28.2.8	茨城県感染症対策委員会	茨城県庁	岡部
H28.2.10	食品安全確保総合調査事業調査報告会	食品安全委員会	岡部
H28.2.12	厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会	厚生労働省	岡部
H28.2.15	医薬品等規制調和・評価研究事業平成28年度公募ヒアリング審査	国立研究開発法人日本医療研究開発	岡部
H28.2.15	平成27年度第2回川崎市感染症対策協議会	川崎市医師会館	岡部、三崎、松尾、清水(英)、宮下、本間、丸山、大嶋
H28.2.16	平成27年度第3回川崎市食の安全確保対策懇談会	経済労働局会議室	福田、松尾
H28.2.16	千葉大学真菌医学研究センター評価委員会	千葉大学真菌医学研究センター	岡部
H28.2.17	厚生科学審議会生活環境水道部会	厚生労働省	岡部
H28.2.18	公衆衛生学会感染症対策委員会	日本公衆衛生学会	岡部
H28.2.18	神奈川県感染症発生动向調査解析委員会	かながわ県民センター	岡部、三崎、丸山、大嶋
H28.2.19	厚生労働科学研究(砂川班)第2回研究班会議	国立感染症研究所	三崎、本間、丸山、小河内
H28.2.22	厚生科学審議会予防接種ワクチン分科会	厚生労働省	岡部
H28.2.26	厚生科学審議会感染症部会	厚生労働省	岡部
H28.3.1	首都圏感染症情報センター連絡会	東京都健康安全研究センター	三崎、丸山、大嶋
H28.3.2	「インフルエンザ様疾患罹患時の異常行動に関する研究」第1回班会議	AP品川	岡部
H28.3.4	第2回県・市感染症情報センター連絡調整会議	かながわ県民センター	三崎、丸山、大嶋
H28.3.9	川崎港保健衛生協議会委員会(総会)	かわさきフェズ物流センター	岡部
H28.3.9	平成27年度第3回川崎市保健・衛生・医療関係専門職人材育成専門部会並びに福祉関係専門職人材育成専門部会合同部会	川崎市こども家庭センター	福田
H28.3.11	日本医師会予防接種感染症対策委員会	公益社団法人日本医師会	岡部
H28.3.14	結核対策事業検討会	川崎区役所	淀谷
H28.3.15	静岡県新型インフルエンザ等医療専門家会議	静岡ターミナルビル	岡部
H28.3.16	平成27年度食品衛生検査施設における検査等の業務管理(GLP)に関する情報交換会	神奈川県衛生研究所	福田、本間、熊谷、遠藤
H28.3.17	精度管理調査研修会	神奈川県総合医療会館	湯澤

H28.3.18	第14回KAWASAKI地域感染制御協議会	川崎市役所第4庁舎	岡部、三崎、丸山
H28.3.23	平成27年度第2回川崎市感染症発生动向調査委員会	中原区役所	三崎、松尾、清水(英)、宮下、本間、丸山、大嶋
H28.3.25	東京都感染症予防検討委員会	東京都医師会	丸山
H28.3.28	港区感染症対策協議会	みなと保健所	岡部

(4) 講師派遣実績

年月日	名称	講師名	会場
H27.4.4	第11回和歌山感染症・アレルギーフォーラム特別講演	岡部	和歌山県JAビル
H27.4.10	第7回韓国ワクチン学会総会(講演)	岡部	韓国カトリック大学
H27.4.13	第17回実地疫学専門家養成コース初期導入研修	三崎	国立感染症研究所
H27.4.13	東京大学医学部講義	岡部	東京大学
H27.4.16	第89回日本感染症学会学術講演会	岡部	国立京都国際会館
H27.4.21	麻しんミニレクチャー	三崎	中原区役所保健福祉センター
H27.4.27	第17期実地疫学専門家養成コース(FETP)初期導入研修講義	岡部	国立感染症研究所
H27.4.28	麻しんミニレクチャー	三崎	川崎区役所保健福祉センター
H27.4.28	聖マリアンナ医科大学講義	岡部	聖マリアンナ医科大学
H27.5.12	名古屋大学医学部講義	岡部	名古屋大学医学部
H27.6.14	第56回日本臨床ウイルス学会	岡部	岡山大学鹿田キャンパス
H27.6.16	MERSに関する緊急セミナー	三崎	千葉県教育会館
H27.6.16	MERSに関する緊急セミナー	岡部	千葉県教育会館
H27.7.15	長野県看護大学認定看護師教育課程講義	岡部	長野県立こども病院
H27.8.7	感染症危機管理研修会	岡部	川崎市役所第4庁舎
H27.8.25	神奈川県立保健福祉大学感染管理認定看護師教育課程講義	岡部	神奈川県立保健福祉大学
H27.9.3	BCG予防接種研修会	岡部	川崎市総合福祉センター
H27.9.5	第5回レギュラトリーサイエンス学会学術大会	岡部	一橋大学
H27.9.5	病院感染制御担当者育成講習会	岡部	北里大学
H27.9.12	平成27年度第6回茨城県小児科医会学術講演会	岡部	ホテルマロウド筑波

H27.9.14	BCG予防接種研修会	岡部	川崎市医師会館
H27.9.29	川崎港保健衛生協議会輸入感染症担当者会議	三崎	川崎ファズ物流センター
H27.9.29	日本化学生物総合管理学会	岡部	お茶の水女子大学
H27.9.30	養護教員必修研修講義	岡部	川崎市総合教育センター カリキュラムセンター
H27.10.1	丸子地区子育てサロン	三崎	日枝神社 山王会館
H27.10.2	予防接種従事者研修	岡部	予防接種リサーチセンター
H27.10.5	新興再興感染症技術研修	岡部	国立感染症研究所
H27.10.6	臨床基礎医学講義	岡部	東京慈恵会医科大学
H27.10.6～8	平成27年度短期研修 新興再興感染症技術研修	清水(英)	国立感染症研究所
H27.10.8	川崎市健康危機管理対策研修会	三崎	川崎市役所第4庁舎
H27.10.14	感染症危機管理研修会	岡部	国立感染症研究所
H27.10.15	都FETP研修講師	岡部	東京都健康安全研究センター
H27.10.16	日本感染症学会総会中日本地方会・西日本地方会学術集会	岡部	奈良ホテル
H27.10.22	第64回日本感染症学会東日本地方会学術集会	岡部	ロイトン札幌
H27.10.23	The Irigo Conference 2015講演	岡部	伊良湖シーパーク&スパ
H27.10.26	市立川崎病院感染対策院内研修会	三崎	川崎市立川崎病院
H27.10.26	筑波大学大学院共通科目「リスクコミュニケーション入門」講義	岡部	筑波大学東京キャンパス 文京校舎
H27.10.27	九都県市新型インフルエンザ等感染症対策研修会	岡部	横浜市神奈川公会堂
H27.10.28	市立川崎病院感染対策院内研修会	三崎	川崎市立川崎病院
H27.10.29	高病原性鳥インフルエンザ対応訓練	三崎	川崎市消防総合訓練所
H27.11.1	第47回日本小児感染症学会総会・学術集会 シンポジウム	岡部	ザ・セレクトン福島
H27.11.10	平成27年度第2回消費生活モニター意見交換会	橋口	川崎市産業振興会館
H27.11.14	第19回日本ワクチン学会学術集会 高橋賞受賞記念講演	岡部	名鉄犬山ホテル
H27.11.16	新型インフルエンザ研修会	岡部	荒川区保健所
H27.11.19	第43回北陸公衆衛生学会特別講演	岡部	金沢東急ホテル
H27.11.26	川崎南部地区4病院所属薬剤師研修会	岡部	川崎日航ホテル

H27.11.30	市立井田病院院内感染研修会	三崎	川崎市立井田病院
H27.12.6	日本性感染症学会第28回学術大会第223回ICD講習会	岡部	都市センターホテル
H28.1.27	埼玉県朝霞保健所講演会	岡部	埼玉県朝霞保健所
H28.2.8	京都大学医学部講義	岡部	京都大学医学部
H28.2.9	平成27年度地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部細菌研究部会	松尾	静岡県男女共同参画センター
H28.2.10	平成27年度地方衛生研究所全国協議会衛生化学分野研修会	赤星	国立医薬品食品衛生研究所
H28.3.12	シンポジウム「感染症災害にいかに関与するの？」特別講演	岡部	東北大学医学部百周年記念ホール

(5) 研修指導実績

年月日	内容	対象	人数
H27.4.30	第1回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP)初期導入研修修了者	3名
H27.5.13	第2回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP)初期導入研修修了者	5名
H27.5.15	感染症発生動向調査関係システムセキュリティ研修	各区役所保健福祉センター及び健康安全部健康危機管理担当職員	15名
H27.6.3	第3回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP)初期導入研修修了者	5名
H27.6.25	第1回疫学ミーティング	各区役所保健福祉センター等職員	21名
H27.7.1	第4回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP)初期導入研修修了者	4名
H27.7.13~14	保育園サーベイランスシステム研修会	市内公立保育園職員	70名
H27.7.27,31	保育園サーベイランスシステム研修会	市内民間保育園職員	73名
H27.8.14	衛生課職員実務研修(食品の理化学検査に関して)	各区役所保健福祉センター等の食品衛生に係る職員	10名
H27.8.24	第2回疫学ミーティング	各区役所保健福祉センター等職員	11名
H27.8.26	第5回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP)初期導入研修修了者	5名
H27.9.25	第6回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP)初期導入研修修了者	5名
H27.9.29	職場集合研修(食品媒介寄生虫症/品質保証システムと食の安全研究)	健康安全研究所職員、公衆衛生対策に従事する職員	32名
H27.10.28	第7回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP)初期導入研修修了者	5名
H27.11.17	第3回疫学ミーティング	各区役所保健福祉センター等職員	20名
H27.11.27	ノロウイルスに関する研修	各区役所保健福祉センター、市立川崎病院及び井田病院等職員、関東甲信静支部地方衛生研究所ウイルス担当等	65名
H27.12.2	第8回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP)初期導入研修修了者	5名

H27.12.9	平成27年度第2回食品と放射性物質に関する講座 (神奈川県主催)	市民、県民	24名
H27.12.18	感染症情報センター職員研修会	各区役所保健福祉センター等の感染症対策に係る職員	47名
H28.1.20	第9回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP)初期導入研修 修了者	3名
H28.2.22	第4回疫学ミーティング	各区役所保健福祉センター等職員	20名
H28.3.16	第10回FETP-Kミーティング	実地疫学専門家養成コース(FETP)初期導入研修 修了者	4名

(6) 視察・見学受け入れ実績

年月日	名称	人数
H27.4.13	病院局長ほか	3名
H27.4.13	NHKドラマ班、臨海部佐藤係長	4名
H27.4.17	秘書部、臨海部等新任職員	14名
H27.4.21	栄研化学(モダンメディア)	2名
H27.5.1	東日本銀行支店長及びその関係者	3名
H27.5.22	大都市人事主管課会議出席者	41名
H27.5.27	新人市議会議員	15名
H27.6.15	栄研化学(モダンメディア)	4名
H27.6.17	かわさき市民アカデミー	17名
H27.6.24	麻布大学獣医学部学生	1名
H27.7.9	川崎市薬剤師会(薬学部実習生)	55名
H27.7.28	大成建設名古屋支店視察	10名
H27.8.4	夏の科学イベントミステリーツアー	61名
H27.8.7	慶應義塾大学大学院学生	10名
H27.8.12	日本大学獣医学部生	3名
H27.8.28	全国保健所長会指定都市部会保健所長会議	25名
H27.9.14	東海大学・WHO・JICA	13名
H27.9.14	病院局見学会	11名
H27.9.28	病院局見学会	32名
H27.10.8	広島県議会	14名
H27.10.28	静岡県環境衛生科学研究所	4名

H27.10.28	昭和薬科大学学生	21名
H27.10.29	川崎市薬剤師会(薬学部実習生)	40名
H27.10.30	慶應義塾大学医学部学生	4名
H27.11.25	昭和薬科大学学生	21名
H27.12.5	十四大都市医師会連絡協議会	46名
H27.12.9	食品と放射性物質に関する講座	24名
H27.12.10	感染研・海外研究者感染症技術研修	9名
H28.2.4	川崎市薬剤師会(薬学部実習生)	18名
H28.2.17	市立川崎病院 若手医師研修	4名
H28.2.18	市立川崎病院 若手医師研修	5名
H28.2.19	地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部理化学研究部会見学会	77名
H28.2.25	市立川崎病院 若手医師研修	5名
H28.3.9	埼玉県衛生研究所	2名
H28.3.15	仙台市衛生研究所	2名
計	33件	620名

(7) 研修報告会開催実績

当研究所職員が出席した学会や研修会等の内容を所内で情報共有するとともに、プレゼンテーション能力の向上を目的として、研修報告会を月1回開催している。

研修報告会開催実績

開催日	報告内容	報告者
H27.4.23	平成26年度希少感染症診断技術研修会 第49回日本水環境学会年会 有機溶剤の取扱いについて 高圧ガスの取扱いについて バイオセーフティについて	駒根 原田 原田 岸 小河内、清水(智)
H27.5.21	第89回日本感染症学会学術講演会 「国際的な新興再興感染症の動きと日本の状況」 第89回日本感染症学会学術講演会 「学会概要報告」 第89回日本感染症学会学術講演会 「社会福祉施設におけるオウム病の集団発生」 空気呼吸器の取扱いについて(実習形式)	岡部 丸山 三崎 業者による説明
H27.6.30	第109回日本食品衛生学会学術講演会 FETP初期導入コース	江崎 淀谷
H27.7.30	平成27年度食品衛生監視員研修(神奈川県食肉衛生検査所) バイオセーフティ技術講習会(基礎コース第38期) 昆虫ならびにダニの分類法、観察法の研修	鏡淵 原 駒根
H27.8	開催無し	
H27.9.29	第52回アイトープ・放射線研究発表会 第52回アイトープ・放射線研究発表会 第31回 日本食品化学学会シンポジウム	佐藤 江崎 高居
H27.10.26	衛生微生物技術協議会第36回研究会 衛生研究所のバイオセーフティの取組み報告 第15回日本バイオセーフティ学会	清水(智) 荒木 赤星
H27.11.30	第78回神奈川県感染症医学会学術集会 センナ葉形態鑑別研修 第30回関東甲信静支部ウイルス研究部会	湯澤 石丸 石川
H27.12.21	第64回日本感染症学会東日本地方会学術集会 防護服の着脱方法について(実習形式) マスク(N95・サージカルマスク)の装着・フィットテストについて(実習形式)	安澤 清水(智) 業者による説明
H28.1.21	真菌同定研修 第52回全国衛生化学技術協議会年会 第19回日本ワクチン学会学術集会	赤星 牛山 大嶋
H28.2.24	食品衛生監視員研修(キノコによる食中毒について) 平成27年度抗酸菌検査個別研修(後期) 第27回臨床微生物学会総会・学術集会	遠藤 原 本間
H28.3.18	関東甲信静支部細菌研究部会 川崎市における結核分子疫学調査について	湯澤 淀谷

(8) 「キングスカイフロント夏の科学イベント 2015」への出展

多摩川を挟んで羽田空港の対岸に位置する殿町国際戦略拠点キングスカイフロントは、当研究所以外にも、様々な研究機関が集積し、ライフサイエンスや環境分野の研究開発などが行われている。

川崎市総合企画局臨海部国際戦略室が中心となり、子どもたちに科学技術に関心を持ってもらうことを目的とした「夏の科学イベント」を開催しており、例年、当研究所もブースを出展している。

主に小学生を対象に開催されるこのイベントは、キングスカイフロントの進出企業等がそれぞれの特色を出しながら夏休みの学習に役立つ科学実験やクイズラリーなどの体験コーナーを出展するもので、平成 27 年度の「キングスカイフロント夏の科学イベント 2015」では、約 900 人の親子連れが参加した。

ア 開催日時

平成 27 年 8 月 4 日(火) 13:00～16:00

イ 主催(事務局)

川崎市総合企画局臨海部国際戦略室

ウ 会場

川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)、公益財団法人実験動物中央研究所ほか

エ 出展機関

川崎市健康安全研究所、川崎市環境総合研究所、公益財団法人実験動物中央研究所、国立医薬品食品衛生研究所ほか、キングスカイフロントに集積する民間研究機関等

オ 健康安全研究所の出展内容

(7) 健康安全研究所ミステリーツアー

水道水に試薬を入れると無色からピンク色に変化する「残留塩素試験」や電子顕微鏡を用いて蚊の細部の構造を観察するなど、普段入ることのできない健康安全研究所の見学ツアーを行った。

残留塩素試験では、水道水、湯沸し水、レモン果汁を添加した水道水を用いて簡単な実験を行い、塩素が含まれている場合と

塩素が含まれていない場合とでは、試薬の色がどう変化するか解説した。

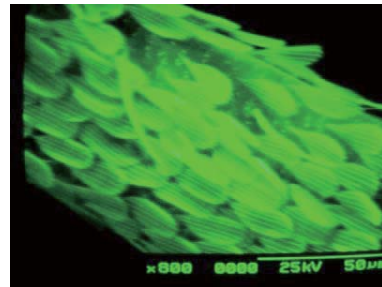


写真1 電子顕微鏡写真(蚊の脚×800倍)

(イ) 固まる不思議な液体(人工イクラ)

塩化カルシウム溶液にアルギン酸ナトリウム水溶液を滴下すると生成するゲル状物質の作成を体験してもらった。アルギン酸ナトリウム水溶液は、絵の具で着色したものを5色用意した。実験を通じて原理の解説や人工イクラに応用されていることの説明を行った。

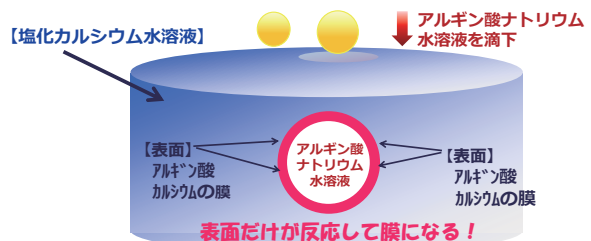


図1 アルギン酸ナトリウムと塩化カルシウムの反応

写真2 アルギン酸ナトリウムと塩化カルシウム水溶液の反応の様子



(アルギン酸ナトリウム(左)を塩化カルシウム水溶液に垂らすとアルギン酸カルシウムが生成。)

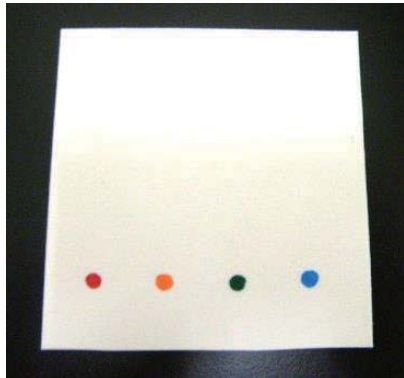
(ウ) カラフルインクであそぼう（ペーパー
クロマトグラフィーとマーブリング）

ペーパークロマトグラフィーでは、水性サインペンで印をつけた紙を水に浸すことで、サインペンの色の成分が分離されることを観察した。この原理は合成着色料の分析に活用されていることについても説明を行った。

また、水を張った容器に数種類のマーブリング用インクを垂らすと水に浮かぶ性質を利用し、模様を描くマーブリングを行った。

この体験では水と油が混ざり合わない性質を確かめた。

写真3 ペーパークロマトグラフィーの様子



(サインペンで点を打った後、水に浸すことで色素が分離される様子を観察した。)

写真4 マーブリングの様子



(油性インクを垂らして水に模様を描いた後、模様を濾紙に転写した。)

【第2章 業務実績】

1 企画調整部門

(1) 企画調整担当

企画調整担当の主な業務は、各種調査研究評価委員会の開催、調査研究に係る企画及び連絡調整、情報発信業務、食品衛生検査に係る信頼性確保業務(食品GLP業務)である。

ア 調査研究評価委員会等の運営

(ア) 内部評価委員会

川崎市健康安全研究所調査研究評価委員会設置要綱に基づき、内部評価委員会を開催した。

内部評価委員会は、当該年度に当研究所で実施の「全研究課題」について、委員である当研究所職員が研究計画の評価及び研究結果の評価を行うもので、平成27年度の開催概要は表のとおりである。

(イ) 外部評価委員会

川崎市健康安全研究所調査研究評価委員会設置要綱に基づき、外部評価委員会を開催した。

外部評価委員会は、内部評価委員会で評価された研究課題のうち、「特に重要な研究課題」について、委員である当研究所職員及び本庁関係課職員並びに外部研究機関の有識者が研究計画の評価及び研究結果の評価を行うもので、平成27年度の開催概要は表のとおりである。

(ウ) 倫理審査委員会

川崎市健康安全研究所倫理審査委員会設置要綱に基づき、倫理審査委員会を開催した。

倫理審査委員会は、当該年度に新たに計画された「人を対象とする医学系研究」について、委員である当研究所職員及び外部の有識者が、倫理指針等に基づき倫理的観点及び科学的観点からその実施の適否に係る審査を行うもので、平成27年度の開催概要は表のとおりである。

イ 信頼性確保部門業務(食品GLP業務)

食品衛生検査の信頼性確保部門として、収去施設及び食品衛生検査施設に対し次の業務を行った。なお、改善措置等が必要であるとされたものについて、講じた改善措置等の報告を求めると、適宜、改善指導を行った。

(ア) 内部点検

収去施設(各区役所保健福祉センター衛生課、健康危機管理担当食品専門監視担当)並びに検査施設(健康安全研究所及び中央卸売市場食品衛生検査所)に対し、内部点検を実施した。

内部点検では、試験検査に係る書類の作成や機械器具の管理等が標準作業書に基づき、適切に行われているかの確認を行った。

(イ) 外部精度管理調査

毎年度、健康安全研究所及び中央卸売市場食品衛生検査所では、第三者機関である公益財団法人食品薬品安全センターが実施する外部精度管理調査に参加し、客観的な評価を受けている。

平成27年度は、食品添加物や残留農薬等の理化学検査、一般細菌数や大腸菌群等の微生物検査、動物を用いる検査について、各検査区分が担当する項目に応じ、企画調整担当が参加手続きを行った。

表 平成27年度調査研究評価委員会等開催概要

年月日	委員会	課題数
H27.5.20	内部評価委員会(研究計画の評価)	31
H27.5.25		
H27.5.28		
H27.7.8	内部評価委員会(研究計画(追加課題)の評価)	1
H27.7.21	外部評価委員会(研究計画の評価)	8
H27.8.5	内部評価委員会(研究計画(追加課題)の評価)	1
H27.8.26	倫理審査委員会	5
H27.12.12	内部評価委員会(研究計画(追加課題)の評価)	2
H27.12.12	内部評価委員会(研究計画変更の評価)	1
H28.3.1	内部評価委員会(研究結果の評価)	34
H28.3.3		
H28.3.24	外部評価委員会(研究結果の評価)	8

(2) 感染症情報センター担当

感染症情報センターの役割は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(以下、「感染症法」という。)」に基づく感染症発生動向調査事業実施要綱に規定されており、「各都道府県等域における患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集、分析し、都道府県等の本庁に報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開することとして、各都道府県等域内に1か所、原則として地方衛生研究所の中に設置する。」と明記されている。

川崎市では、平成25年2月まで、健康福祉局健康安全室(現在の健康福祉局保健所)に感染症情報センターを設置し、感染症発生動向調査事業を実施してきたが、平成25年3月、感染症情報センター機能を健康安全研究所に移管し、従来から実施してきた業務に加えて、感染症情報発信システムの運用や疫学研究等を行い、機能強化を図っている。また、市内における健康危機事象発生時の初動体制及びネットワークを構築するため、FETP* - Kawasakiプランに基づく取組を行っている。

*FETP:Field Epidemiology Training Program

<感染症発生動向調査事業>

感染症発生動向調査事業は、感染症情報センターの主たる業務であり、前述の感染症発生動向調査事業実施要綱により規定されている。

本事業では、医療機関から届出等される対象疾患について、国、県、指定都市の感染症情報センター等を結んで、感染症発生動向調査情報ネットワークを形成し、全国的な規模で感染症の流行状況の把握、患者発生情報及び検査情報の収集、解析、還元を行っている。市内では、健康福祉局保健所及び各区役所保健福祉センター等と連携しながら、患者情報等の収集・解析を行い、関係機関に対して感染症情報を迅速に発信するとともに、市民に対しては広報紙「今、何の病気が流行しているか!」やメールマガジン等を毎週定期的に発行している。

ア 全数把握疾患の発生状況(表1~3)

一類感染症の届出はなかった。

二類感染症では、結核 320 件の届出があり、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(SARS)、中東呼吸器症候群(MERS)、鳥インフルエンザ(H5N1)、鳥インフルエンザ(H7N9)の届出はなかった。なお、鳥インフルエンザ(H7N9)及び中東呼吸器症候群(MERS)は平成27年1月21日から二類感染症となった。

三類感染症では、細菌性赤痢 3 件、腸管出血性大腸菌感染症 39 件の届出があり、コレラ、腸チフス、パラチフスの届出はなかった。なお、細菌性赤痢 3 件については、2 件はインド、1 件はミャンマーへの海外渡航歴があった。腸管出血性大腸菌感染症については集団感染事例の発生はなかった。

四類感染症では、E型肝炎 2 件、A型肝炎 2 件、マラリア 1 件、レジオネラ症 17 件の届出があった。レジオネラ症については、過去 5 年平均と比較して、1.55 倍の届出数であった。

五類感染症では、アメーバ赤痢 19 件、ウイルス性肝炎 4 件、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 26 件、急性脳炎 18 件、クロイツフェルト・ヤコブ病 1 件、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 7 件、後天性免疫不全症候群 18 件、侵襲性インフルエンザ菌感染症 4 件、侵襲性肺炎球菌感染症 42 件、水痘(入院例に限る。)4 件、梅毒 49 件、破傷風 1 件、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1 件、風しん 2 件、麻しん 1 件の届出があった。風しん 2 件及び麻しん 1 件については、いずれも検査診断例として届出があり、抗体価は陽性であったものの、検体採取時期等の問題により、当所における PCR 法による検査結果は陰性であった。

新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症の届出はなかった。

表1 届出数（一～三類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症患者等届出数）

平成27年

	一類感染症	二類感染症		三類感染症					新型インフルエンザ等感染症	指定感染症		総数
	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱	急性灰白髄炎、ジフテリア、SARS、MERS、鳥インフルエンザ（H5N1）、鳥インフルエンザ（H7N9）	結核	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス		鳥インフルエンザ（H7N9）	中東呼吸器症候群（MERS）	
平成25年	-	-	363	-	-	74	1	2	-	-		439
平成26年	-	-	302	-	-	63	1	-	-	-	-	366
平成27年	-	-	320	-	3	39	-	-	-	-	-	362
川崎	-	-	87	-	-	14	-	-	-	-	-	101
幸	-	-	48	-	-	1	-	-	-	-	-	49
中原	-	-	50	-	-	6	-	-	-	-	-	56
高津	-	-	45	-	-	4	-	-	-	-	-	49
宮前	-	-	39	-	1	5	-	-	-	-	-	45
多摩	-	-	29	-	-	2	-	-	-	-	-	31
麻生	-	-	22	-	2	7	-	-	-	-	-	31

注) 鳥インフルエンザ（H7N9）は平成25年5月6日から指定感染症、平成27年1月21日から二類感染症となった。

注) 中東呼吸器症候群（MERS）は平成26年7月26日から指定感染症、平成27年1月21日から二類感染症となった。

表2 届出数（四類感染症患者等届出数）

平成27年

	総数	四類感染症			
		E型肝炎	A型肝炎	マラリア	レジオネラ症
総数	22	2	2	1	17
川崎	3	-	-	1	2
幸	3	-	-	-	3
中原	7	-	1	-	6
高津	3	-	-	-	3
宮前	2	1	1	-	-
多摩	4	1	-	-	3
麻生	-	-	-	-	-

※その他の四類感染症の届出はなかった。

表3 届出数（五類感染症（全数把握疾患）患者等届出数）

平成27年

	総数	五類感染症							
		アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	急性脳炎	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	侵襲性インフルエンザ菌感染症
総数	197	19	4	26	18	1	7	18	4
川崎	62	2	3	2	4	-	-	10	-
幸	9	5	-	-	-	-	-	-	-
中原	34	5	1	4	3	-	2	2	2
高津	12	1	-	2	-	1	-	1	-
宮前	49	-	-	16	8	-	5	1	-
多摩	22	4	-	2	3	-	-	1	2
麻生	9	2	-	-	-	-	-	3	-
	総数	五類感染症							
		侵襲性肺炎球菌感染症	水痘(入院例に限る。)	梅毒	破傷風	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	風しん	麻しん	
総数		42	4	49	1	1	2	1	
川崎		10	1	30	-	-	-	-	
幸		-	-	3	-	1	-	-	
中原		13	-	2	-	-	-	-	
高津		2	-	5	-	-	-	-	
宮前		7	3	7	1	-	1	-	
多摩		10	-	-	-	-	-	-	
麻生		-	-	2	-	-	1	1	

※その他の五類感染症の届出はなかった。

イ 定点把握疾患の発生状況（表4）

平成27年に目立った流行を示したのは、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、手足口病、RSウイルス感染症であった。いずれの疾患も1年間の患者報告数が、平成11年のデータ収集開始以降、過去最多であった。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎については、年当初から1年を通して患者報告数が多く、過去5年平均と比べてかなり高いレベルで推移していた。定点当たり患者報告数は第24週(6月第2週)にピークとなり、過去最多の報告数であった。

手足口病については、6月下旬から9月中旬まで警報レベル(定点当たり5人)を超えて推移していた。患者報告数は過去5年平均と比べて2.30倍であった。

RSウイルス感染症については、秋から冬にかけての流行規模が例年と比べ大きく、患者報告数は過去5年平均と比べて1.60倍であった。

表 4 五類感染症（定点把握疾患）の発生状況

【小児科定点、内科定点、眼科定点対象疾患】

平成 27 年

	総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
総数	38,240	7,382	3,550	2,680	2,928	1,987	2,944	4,445	2,185	1,955	2,067	2,204	3,913
水痘	1,086	124	61	95	98	75	90	81	38	46	98	123	157
流行性耳下腺炎	438	30	10	17	14	19	29	39	22	33	42	71	112
百日咳	24	1	-	-	2	1	-	1	-	5	6	7	1
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	5,438	313	370	522	636	588	668	483	184	246	443	397	588
感染性胃腸炎	13,480	1,312	1,190	1,321	1,409	799	1,005	909	492	495	825	1,214	2,509
手足口病	4,800	37	17	22	108	215	597	1,822	918	739	251	55	19
伝染性紅斑	790	54	40	36	87	62	109	135	43	38	60	57	69
突発性発しん	1,071	69	68	66	121	102	114	118	82	86	82	91	72
ヘルパンギーナ	1,408	2	-	1	3	9	171	722	303	161	34	2	-
咽頭結膜熱	512	25	11	22	43	51	92	83	56	27	22	22	58
RSウイルス感染症	681	50	43	43	22	6	8	15	27	63	169	106	129
インフルエンザ	8,204	5,347	1,719	516	364	28	23	6	2	3	14	31	151
流行性角結膜炎	307	18	20	19	21	32	38	31	18	13	21	28	48
急性出血性結膜炎	1	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

【基幹定点、性感染症定点対象疾患】

平成 27 年

	総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
総数	498	67	35	40	51	43	41	33	47	29	53	27	32
細菌性髄膜炎	8	2	-	-	3	-	-	-	3	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	19	2	-	1	2	-	2	3	3	1	5	-	-
マイコプラズマ肺炎	37	2	-	2	2	2	-	3	6	-	12	4	4
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎(ロタウイルス)	20	-	3	2	13	-	-	-	-	-	-	-	2
インフルエンザ入院サーベイランス	47	32	8	2	2	1	1	-	-	-	-	1	-
淋菌感染症	59	5	1	4	2	8	6	5	7	9	2	7	3
性器クラミジア感染症	169	12	15	16	18	18	19	9	13	10	17	8	14
性器ヘルペスウイルス感染症	39	6	2	4	3	5	3	1	3	2	4	3	3
尖圭コンジローマ	38	2	2	3	1	5	2	1	5	4	7	3	3
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	49	3	4	3	5	3	5	9	6	3	5	1	2
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	13	1	-	3	-	1	3	2	1	-	1	-	1
薬剤耐性緑膿菌感染症	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

ウ 集団施設における感染症発生情報（表 5）

学校保健安全法に規定される対象疾患により出席停止となった患者数について、小学校、中学校からの報告数を集計することにより、集団施設における感染症発生状況を解析し、関係機関及び市民等へ発信している。なお、保育園については、学校欠席者情報収集システム(保育園サーベイランス含む)から収集した情報を集計している。

平成 27 年は、例年と比べて報告数が大きく増加した疾患はなかった。

インフルエンザについては、2014 年/2015 年シーズンは 1 か月程度早く流行が始まり、2015 年/2016 年シーズンは 12 月以降に流行が始まったため、平成 27 年の患者報告数は、過去 5 年平均と比較して 0.56 倍と少なかった。

百日咳については 10 件の報告があり、過去 5 年平均の 1.32 倍であった。

表5 集団施設における感染症発生情報

平成27年

		総数	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
総数	総数	28,383	8,379	4,144	1,872	1,718	1,520	2,125	1,847	1,029	1,137	1,309	1,519	1,784
	保育園	10,481	1,956	942	745	604	457	900	1,325	951	693	583	567	758
	小学校	15,746	5,265	2,873	981	1,005	994	1,150	490	72	403	666	882	965
	中学校	2,156	1,158	329	146	109	69	75	32	6	41	60	70	61
百日咳	総数	10	-	2	2	1	1	2	-	-	-	-	1	1
	保育園	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
	小学校	5	-	2	1	-	-	1	-	-	-	-	-	1
	中学校	4	-	-	1	1	1	1	-	-	-	-	-	-
インフルエンザ様疾患	総数	12,579	7,530	3,253	781	610	112	59	10	-	2	4	25	193
	保育園	2,310	1,475	492	157	85	2	3	1	-	2	-	4	89
	小学校	8,498	4,910	2,451	496	439	84	23	2	-	-	2	14	77
	中学校	1,771	1,145	310	128	86	26	33	7	-	-	2	7	27
麻疹	総数	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	保育園	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	小学校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	中学校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	総数	946	53	39	26	23	39	58	61	24	96	114	193	220
	保育園	184	13	9	5	6	14	8	11	7	26	17	19	49
	小学校	706	38	28	17	14	21	46	47	14	59	90	166	166
	中学校	56	2	2	4	3	4	4	3	3	11	7	8	5
水痘	総数	2,227	219	151	255	186	194	207	116	66	94	177	286	276
	保育園	839	124	72	122	59	14	10	12	53	47	87	140	99
	小学校	1,368	94	78	131	122	179	196	102	13	46	89	143	175
	中学校	20	1	1	2	5	1	1	2	-	1	1	3	2
風しん	総数	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	保育園	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	小学校	2	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1
	中学校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	総数	286	7	8	17	20	16	39	26	16	25	32	43	37
	保育園	124	5	6	7	13	4	18	12	11	9	15	10	14
	小学校	141	2	2	8	7	10	18	12	5	13	13	30	21
	中学校	21	-	-	2	-	2	3	2	-	3	4	3	2
急性出血性結膜炎	総数	9	1	-	-	-	1	2	-	-	-	1	1	3
	保育園	2	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	小学校	7	-	-	-	-	1	2	-	-	-	1	1	2
	中学校	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	総数	362	4	17	9	16	43	68	48	43	41	21	13	39
	保育園	241	-	11	6	13	33	36	26	38	32	14	7	25
	小学校	114	4	6	3	3	10	30	20	5	8	6	5	14
	中学校	7	-	-	-	-	-	2	2	-	1	1	1	-
その他	総数	11,962	565	674	782	861	1,114	1,690	1,586	880	879	960	957	1,014
	保育園	6,780	338	352	448	428	390	825	1,263	842	577	450	386	481
	小学校	4,905	217	306	325	419	689	834	307	35	277	465	523	508
	中学校	277	10	16	9	14	35	31	16	3	25	45	48	25

※保育園は、学校欠席者情報収集システム（保育園サーベイランス含む）から収集した情報

2 理化学部門

(1) 食品担当

食品担当では、「食品衛生法」に基づく食品中の食品添加物検査、食品汚染物検査、成分規格検査、遺伝子組換え食品検査、特定原材料検査、苦情食品検査及びいわゆる健康食品の栄養成分検査等を担当している。平成27年度は食品安全担当、市内7区役所の保健福祉センター、中央卸売市場食品衛生検査所、教育委員会、(公財)川崎市学校給食会及び港湾局から搬入された食品等271検体、1,204項目について検査を実施した。

精度管理については、一般財団法人食品薬品安全センターの実施する食品衛生外部精度管理調査に参加し、食品添加物(着色料、安息香酸)及び動物用医薬品(スルファジミジン)、麻痺性貝毒及び遺伝子組換えパパイア(PRSV-SC)の検査を実施した。また、国立医薬品食品衛生研究所代謝生化学部長からの依頼による「安全性未承認遺伝子組換えジャガイモ(E12,F10,J3系統)の定性検査法の妥当性確認試験」、星薬科大学からの依頼による「アフラトキシン分析における外部精度管理試験」への協力、国立研究開発法人産業技術総合研究所計量標準総合センター及び国立研究開発法人水産総合研究センター中央水産研究所が主催する「ホタテガイ中腸線中のオカダ酸群分析に関する試験所間比較試験」に参加した。

ア 食品添加物検査

450項目(保存料、着色料、酸化防止剤等)について使用基準に係る検査を実施した。結果はすべて使用基準を満たしていた(表1)。

イ 残留動物用医薬品検査

国産及び輸入畜水産食品について、妥当性評価を実施し、残留農薬等の妥当性評価ガイドラインを満たした動物用医薬品22項目について検査を実施し、国産豚肉1検体より残留基準値を超えるスルファメトキサゾールを検出した。検査を実施した項目の内訳を表2に示す。

ウ 遺伝子組換え食品検査

大豆、トウモロコシ加工品、コム、コム加工品及び小麦加工品計21検体の遺伝子組換え食品検

査を実施した。結果はすべて不検出または陰性であった(表3)。

エ 特定原材料検査

小麦を対象に5検体及び卵を対象に3検体について特定原材料検査を実施した(表4)。いずれも10µg/g以上を検出した検体はなく、スクリーニング検査はすべて陰性であった。

オ 自然毒及び化学物質検査

東扇島東公園人工海浜に自生する二枚貝を含め、市内流通食品9検体について貝毒検査を実施した。また、ふぐ毒検査を2検体、かび毒検査を4検体及びヒスタミン検査を6検体実施した(表5)。

カ 苦情食品検査

保健所へ苦情品として届けられたもののうち、当検査室へ検体が搬入された事例は6例であった。その結果を表6-1、6-2に示す。

表1 食品化学検査内訳

検査内容		項目数
食品中の食品添加物	保存料	164
	合成着色料	51
	発色剤	26
	甘味料	37
	漂白剤	26
	酸化防止剤	35
	品質保持剤	16
	防かび剤	28
	不許可添加物	63
	その他の添加物	4
	小計	450
食品汚染物	ふぐ毒	2
	貝毒	18
	かび毒	4
	動物用医薬品	582
	小計	606
規格	牛乳	12
	乳製品	10
	小計	22
食品の品質等の試験		62
遺伝子組換え食品検査		24
特定原材料検査		16
その他		24
総計		1,204

表2 残留動物用医薬品検査結果

検体種類		牛乳	豚		鶏			えび	サーモン	
			筋肉		筋肉		卵			
国産 or 輸入		国産	国産	輸入	国産	輸入	国産	輸入	輸入	
検体数		1	4	4	5	3	10	9	6	
項目数		5	59	72	81	57	167	63	78	
検査項目名	1	ジフロキサシン		3	4	4	3	9	8	
	2	ミロキサシン		3	4	4	3			6
	3	オキシリニック酸				4	3	9	5	6
	4	ナリジクス酸		3	4	4	3	9		6
	5	フルメキン	1	3	4	4	3	9		
	6	ピロミド酸		3	4	4	3			
	7	5-プロピルスルホニル-1H-ベンズイミダゾール-2-アミン	1	3	4	4	3	9	5	6
	8	トリメプリム						10	7	
	9	オルメプリム						9	7	
	10	スルファジアジン	1	4	4	5	3	10		6
	11	スルファチアゾール	1							
	12	スルファピリジン		3	4	4	3	9	3	6
	13	スルファメラジン		4	4	4	3	9	4	6
	14	スルファジミジン(スルファメサジン)		4	4	5	3	10	3	6
	15	スルファメキシピリダジン		3	4	4	3	9	4	6
	16	スルファモノメキシ		3	4	5	3	9	3	6
	17	スルファクロピリダジン		3	4	4	3			
	18	スルファドキシ	1	3	4	4	3	9	2	6
	19	スルファメキサゾール		4	4	4	3	9	6	6
	20	スルファキノキサリン		3	4	5	3	10		
	21	スルファジメキシ		4	4	5	3	10	4	6
	22	スルファニトラン		3	4	4	3	9	2	

表3 遺伝子組換え食品検査結果

品目	検体数	検査対象	安全性	試験方法	結果	
コメ加工品	12	害虫抵抗性遺伝子組換えコメ	未審査	定性PCR	陰性	12
小麦加工品	4	コムギ MON71800		定性PCR	陰性	4
トウモロコシ加工品	3	CBH351		定性PCR	陰性	3
コメ	1	害虫抵抗性遺伝子組換えコメ		定性PCR	陰性	1
		LL601	定性PCR	陰性	1	
大豆穀粒	1	RRS	審査済	定量PCR	不検出	1
		RRS2			不検出	1
		LLS			不検出	1

表4 特定原材料スクリーニング検査結果

検査対象	品目	検体数	使用ELISAキット	結果	
小麦	菓子類	4	日本ハム(株)製FASTKITエライザ Ver.Ⅲ 小麦	不検出	2
				10µg/g未満	2
			(株)森永生科学研究所製モリナガFASPEKエライザⅡ 小麦(グリアジン)	不検出	1
				10µg/g未満	3
	豆類加工品	1	日本ハム(株)製FASTKITエライザ Ver.Ⅲ 小麦	不検出	1
				(株)森永生科学研究所製モリナガFASPEKエライザⅡ 小麦(グリアジン)	不検出
卵	菓子類	3	日本ハム(株)製FASTKITエライザ Ver.Ⅲ 卵	不検出	3
				(株)森永生科学研究所製モリナガFASPEKエライザⅡ 卵(卵白アルブミン)	不検出

表5 自然毒及び化学物質検査結果

品目	検体数	検査項目	自然毒分類	結果	
ふぐ加工品	2	テトロドトキシン	ふぐ毒	5 MU/g 以下	2
二枚貝	9	麻痺性貝毒	貝毒	1.8 MU/g 未満	9
		下痢性貝毒		0.05 MU/g 未満	9
小麦粉	1	デオキシニバレノール	かび毒	不検出	1
りんごジュース	3	パツリン		不検出	3
魚介類加工品	6	ヒスタミン	化学物質	不検出	6

表6-1 苦情品検査結果

品名	苦情内容	検査項目	検査結果
ハンバーグ	異物	外観 鏡検 (走査電子顕微鏡) FT-IR (赤外分光光度法)	横約10mm、縦約9mm、厚さ約2mm、重さ0.24gの不定形異物。色調は上半分は褐色から濃茶色、下半分は乳白色で光沢があった。表面は、乳白色部分は平滑な部分があったが、褐色部分は粗く一様でなかった。異物は硬く、ピンセット等の先端で強く押ししても変形しなかった。 褐色部分の表面の一部に、直径約1~2µmの無数の孔が確認された。 異物の表面の一部をFT-IRで分析した結果、リン酸カルシウム由来(1030cm ⁻¹ 付近)や油由来(2850cm ⁻¹ 及び2920cm ⁻¹ 付近)、たんぱく質由来(1550cm ⁻¹ 及び1650cm ⁻¹ 付近)と考えられるピークが認められた。 異物は動物の歯の一部と推測された。
じゃがいも	有症	ソラニン	ゆでじゃがいも:39.7, 64.8, 48.8, 34.7, 67.4 µg/g じゃがいも:105.6, 61.1, 42.7, 53.9 µg/g

表 6-2 苦情品検査結果

品名	苦情内容	検査項目	検査結果
粉ミルク	異物	鏡検(実体顕微鏡)	複数の繊維状物質が不規則に絡み合っていた。繊維状物質は直径約0.02mm、それぞれ単色で、黒色、白色(半透明)、赤橙色のものがあった。ピンセットでほぐしたところ、先端が複数に分かれたため、さらに細い繊維状物質が合わさって一本の繊維状物質が構成されているものと思われる。
1 ぶりねぎ塩 (販売店残品)	有症	ヒスタミン(1)	423.2mg/100g
2 //		ヒスタミン(2)	不検出
まんじゅう	異物	外観 燃焼試験 鏡検(実体顕微鏡) 鏡検(生物顕微鏡)	異物は褐色の細い繊維状物質で10数本程度あり、饅頭の餡と絡み合っていた。異物を水で洗浄したところ、長さ約5~25mm、太さ約0.3mmで、一部が裂けているものもあった。異物のうち長いもの10本は長さ約25mmと揃っていた。 異物を水洗し乾燥後、アルコールランプで燃焼したところ、異物は瞬時に灰化した。また、燃焼時にピンセットで挟んでいた部分は炭化した。 異物は、虫体の一部と考えられる形態を有しなかった。異物のうち長いものは、一端は裂けていたりささくれていたりしており、もう一端は人為的に切断されているようであった。 異物の一部に道管が認められた。 異物は植物組織の一部であると推定された。
1 かつ丼中の異物 2 対照品(飲食店調理室内コンロ用のブラシ)	異物	外観(1) 外観(2) 鏡検(実体顕微鏡) ICP-MSによる定性及び定量(1) ICP-MSによる定性及び定量(2)	長さ約18mm、太さ0.09~0.15mm、重量:4.2mgの針金状異物で、銀鼠色からすす竹色の色調であった。 対照品のブラシの毛部分を一部取り観察したところ、太さ0.07~0.14mm、苦情品と同様の色調の針金状であった。 異物及び対照品ともに表面には光沢があり、湾曲部の形状等も酷似していた。 鉄 90.2%、マンガン 0.5%、クロム 0.01%、ニッケル 0.02% その他、銅、亜鉛、ヒ素、セレン、モリブデン、カドミウム、アンチモン、鉛、ウランについて測定を行い、含有していないことを確認した。 鉄 98.9%、マンガン 0.5%、クロム 0.02%、ニッケル 0.01% その他、銅、亜鉛、ヒ素、セレン、モリブデン、カドミウム、アンチモン、鉛、ウランについて測定を行い、含有していないことを確認した。 異物は対照品のブラシの毛部分と同様の物質と推定される。

(2) 水質・環境担当

水質・環境担当では、「水道法」に基づく(井戸水、貯水槽水等)の水質基準項目検査、クリプトスポリジウム検査、「災害時における飲料水及び生活用水の供給源としての井戸及び受水槽の有効活用に関する要綱」に基づく災害用井戸水検査、「神奈川県水浴場等に関する条例」に基づくプール水検査、「川崎市公衆浴場法施行条例」に基づく浴槽水検査及びシャワー水検査、「有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律」に基づく家庭用品検査、「食品衛生法」に基づく食品の成分規格等検査、「医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律」に基づく健康食品中医薬品成分検査を担当し、検査を実施した。

精度管理については、厚生労働省が実施する水道水質検査精度管理のための統一試料調査(亜硝酸態窒素、ジェオスミン、2-メチルイソボルネオール)及び、神奈川県が実施する外部精度管理調査(塩素酸、クロロ酢酸、ジクロロ酢酸、トリクロロ酢酸)に参加し、検査を実施した。

ア 飲料水検査

平成 27 年度に検査を実施した飲料水は 121 検体であった。検査検体の内訳は、井戸水(災害用選定の生活用水井戸を含む)98 検体、貯水槽水 10 検体、小規模水道水 6 検体、専用水道水 7 検体であった(表 1)。

イ プール水、浴槽水等検査

市内プール水 87 検体、浴槽水 83 検体、シャワー水 53 検体、計 223 検体について検査を実施した(表 2)。

ウ 家庭用品検査

市販の家庭用品(繊維製品)31 検体についてホルムアルデヒドの検査を実施したところ、全て基準に適合していた(表 3)。

エ 清涼飲料水の規格基準検査

清涼飲料水(ジュース、ミネラルウォーター等)11 検体、粉末清涼飲料 2 検体について 6 項目(混濁、沈殿物又は固形の異物、ヒ素、鉛、カドミウム、スズ)の規格検査を実施したところ、全て基準に適合していた。

オ おもちゃの規格基準検査

塩化ビニル製おもちゃ 2 検体について 8 項目(過マンガン酸カリウム消費量、重金属、カドミウム、蒸発残留物、ヒ素、フタル酸ジ-n-ブチル、フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)、フタル酸ベンジルブチル)の規格検査を実施したところ、全て基準に適合していた。

折り紙 2 検体について 2 項目(重金属、ヒ素)の規格検査を実施したところ、全て基準に適合していた。

カ 器具及び容器包装の規格基準検査

ガラス製品 2 検体、陶磁器 1 検体について 2 項目(カドミウム、鉛)の規格検査を実施したところ、全て基準に適合していた。

キ 豆類、生あんの規格基準検査

ベビーライマ豆 1 検体、白あん 1 検体についてシアン化合物の規格検査を実施したところ、2 検体とも基準に適合していた。

ク 寒天の規格基準検査

粉末寒天 2 検体についてホウ素化合物の規格検査を実施したところ、2 検体とも基準に適合していた。

ケ 魚介類の環境汚染物質検査

多摩川で採取したあゆ 2 検体について PCB 等の環境汚染物質検査を実施した(表 4)。

コ 医薬品成分検査

健康安全部から搬入された市販の健康食品 16 検体及びローション類 3 検体について、医薬品成分 18 項目の検査を実施した。結果は全て不検出であった(表 5)。

表1 飲料水検査結果

種類	災害用井戸水 (生活用水)	貯水槽水	小規模水道水	専用水道水	その他	計	
検体数	98 (99)	10 (6)	6 (4)	7 (3)	0 (1)	121 (113)	
不適合件数	31 (41)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	31 (42)	
不 適 合 項 目 件 数	一般細菌	9 (23)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (23)
	大腸菌	12 (16)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	12 (16)
	亜硝酸態窒素	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
	硝酸態窒素及び 亜硝酸態窒素	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
	鉄及びその化合物	14 (16)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	14 (17)
	塩化物イオン	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	カルシウム、マグネシウム等 (硬度)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
	有機物 (全有機炭素(TOC)の量)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
	pH値	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	味	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	臭気	2 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (5)
	色度	12 (9)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	12 (10)
	濁度	9 (12)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	9 (12)
	鉛及びその化合物	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

※災害用井戸水に対して水質基準値は設定されていないため、水道法に基づく水道水質基準をあてはめて評価しています。

():前年度

表2 プール水、浴槽水、シャワー水検査

種類	検査件数	検査項目
プール水	87 (73)	濁度 過マンガン酸カリウム消費量
浴槽水	83 (184)	濁度 過マンガン酸カリウム消費量
シャワー水	53 (0)	色度、濁度 過マンガン酸カリウム消費量
計	223 (257)	

():前年度

表3 家庭用品試買試験検査結果

検査項目	対象家庭用品	検体数	違反数
ホルムアルデヒド	繊維製品	31 (44)	0 (0)
メタノール	家庭用エアゾル製品	0 (2)	- (0)
テトラクロロエチレン	家庭用エアゾル製品	0 (2)	- (0)
トリクロロエチレン	家庭用エアゾル製品	0 (2)	- (0)
総 数		31 (50)	0 0

() : 前年度

表4 多摩川で採取した魚介類の検査結果

(単位 : ppm)

項目	中原地区	多摩地区	基準値	定量下限値
総水銀	0.02	0.02	0.4 (暫定規制値)	0.01
銅	0.4	0.6	—	0.3
鉛	不検出	0.2	—	0.1
カドミウム	不検出	不検出	—	0.05
マンガン	2.6	4.2	—	0.1
クロム	不検出	不検出	—	0.1
亜鉛	9.1	13	—	0.3
ヒ素	0.13	0.15	—	0.05
トリブチルスズ化合物	不検出	不検出	—	0.1
トリフェニルスズ化合物	不検出	不検出	—	0.1
ジブチルスズ化合物	不検出	不検出	—	0.1
PCB	不検出	不検出	3 (内海内湾産魚介類暫定規制値)	0.01

表5 健康食品中医薬品成分検査結果

	検査項目	検体数	検出	不検出
痩身成分	フェノールフタレイン	7	0	7
	フェンフルラミン			
	N-ニトロソフェンフルラミン			
	シブトラミン			
	マジンドール			
	クロルプロパミド			
	トルブタミド			
	オリストット			
	センノシド	2	0	2
強壮成分	シルデナフィル	7	0	7
	タダラフィル			
	バルデナフィル			
	ホンデナフィル			
	チオキナピペリフィル			
	キサントアントラフィル			
	グリベシクラミド			
	ヨヒンビン			
局所麻酔成分	リドカイン	3	0	3

※合計19検体 18項目

(3) 残留農薬・放射能担当

残留農薬・放射能検査担当では、食品衛生法に基づき、市内産農産物を含めた市内流通食品の残留農薬検査及び食品・水道水・海水等の放射能検査を実施した。

精度管理については、一般財団法人食品薬品安全センターの実施する食品衛生外部精度管理調査に参加し、重金属検査(カドミウム)及び残留農薬検査(I:個別試験、II:一斉試験)の検査を実施した。また、産業技術総合研究所計量標準総合センター(NMIJ)の実施する農薬残留分析の信頼性向上のための技能試験(第4回)に参加し、玄米中の農薬分析を実施した。

ア 残留農薬検査

健康安全部及び市内7区役所の保健福祉センター、中央卸売市場食品衛生検査所、教育委員会、(公財)川崎市学校給食会から依頼のあった食品、総数58検体・2,420項目について残留農薬検査を実施した。

(7) 国内産農産物の検査

健康安全部、各区役所保健福祉センター及び中央卸売市場食品衛生検査所依頼分の45検体・計1,930項目について検査を実施した(表1及び表2-1、2-2、2-3)。国内産農産物のうち市内産は10検体・計440項目、その他の国内産は34検体・計1,490項目を行った。

市内産で農薬の検出が認められた検体は、アゾキシストロビンが「きゅうり」麻生区産1検体(0.3mg/kg、基準値1mg/kg)、ホスチアゼートが「トマト」麻生区産1検体(0.02mg/kg、基準値0.2mg/kg)であり、その他は不検出であった。その他の国内産農産物では、アゾキシストロビンが「トマト」栃木県産1検体(0.009mg/kg、基準値3mg/kg)、熊本県産1検体(0.005mg/kg、基準値3mg/kg)、「にんじん」千葉県産1検体(0.008mg/kg、基準値1mg/kg)、クロルフェナピルが「トマト」山梨県産1検体(0.048mg/kg、基準値1mg/kg)、ジエトフェンカルブが「トマト」熊本県産1検

体(0.019mg/kg、基準値5.0mg/kg)、ダイアジノンが「こまつな」群馬県産1検体(0.02mg/kg、基準値0.1mg/kg)、ビフェントリンが「日本なし」千葉県産1検体(0.02mg/kg、基準値0.5mg/kg)、ピリダベンが「きゅうり」神奈川県産1検体(0.012mg/kg、基準値0.7mg/kg)、「トマト」山梨県産1検体(0.014mg/kg、基準値5mg/kg)、熊本県産1検体(0.013mg/kg、基準値5mg/kg)、フェンピロキシメートが「トマト」熊本県産1検体(0.015mg/kg、基準値0.7mg/kg)、ブプロフェジンが「トマト」熊本県産1検体(0.026mg/kg、基準値1mg/kg)、フルフェノクスロンが「ほうれんそう」栃木県産1検体(0.020mg/kg、基準値10mg/kg)、群馬県産1検体(0.029mg/kg、基準値10mg/kg)、ホスチアゼートが「こまつな」群馬県産1検体(0.02mg/kg、基準値0.1mg/kg)であり、その他は不検出であった。

表1 市内産農産物の残留農薬検査結果

(単位:mg/kg)

農産物名	かぼ ち ゃ	き ゃ べ つ	き ゆう り		こ まつ な		ト マ ト	に ん じ ん	ピー マ ン	ほう れ ん そ う
			麻 生 区	麻 生 区	宮 前 区	宮 前 区				
検体数(全11件)	1	1	1	1	1	1	1	1	2	1
検査依頼項目数	50	50	20	50	50	50	20	50	50	50
検出項目数	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0
検査 依 頼 項 目	1	EPN	○	○			○	○		○
	2	アクリナトリン				○		○		○
	3	アジンホスメチル	○				○	○		○
	4	アゾキシストロビン			○	0.3	○	○	○	○
	5	アトラジン	○	○			○	○		○
	6	アニコホス					○	○		○
	7	アラクロール					○	○		○
	8	イサゾホス	○				○	○		○
	9	エチオン	○	○	○	○	○	○		○
	10	エディフェンホス	○				○	○		○
	11	エトプロホス	○			○	○	○		○
	12	エトリムホス	○				○	○		○
	13	エンドスルフアン	○	○			○	○		○
	14	カズサホス	○		○	○	○	○		○
	15	キナルホス	○	○			○	○		○
	16	キノクラミン(ACN)		○						
	17	クレソキシムメチル	○	○					○	○
	18	クロルピリホス	○	○			○	○		○
	19	クロルピリホスメチル	○	○			○	○		○
	20	クロルフェナピル		○	○				○	
	21	クロルフェンビンホス	○	○			○	○		○
	22	クロルプロファミ					○	○		○
	23	サリチオン	○	○			○	○		○
	24	シアナジン	○	○			○	○		○
	25	シアンホス	○	○			○	○		○
	26	ジエトフェンカルブ			○	○		○		
	27	ジクロフェンチオン	○	○			○	○		○
	28	ジクロラン			○	○		○		
	29	ジフェノコナゾール			○	○		○		○
	30	シフルトリン								○
	31	シフルフェナミド			○	○				○
	32	シメコナゾール	○	○						○
	33	ジメチピン	○						○	○
	34	ジメチルビンホス	○	○			○	○		○
	35	ジメトエート			○	○		○		○
	36	ダイアジン	○	○	○	○	○	○		○
	37	テトラクロルビンホス	○	○	○	○	○	○		○
	38	デルタメトリン								○
	39	テルブホス	○	○			○	○		○
	40	トリアレート					○	○		○
	41	トルクロホスメチル	○	○	○	○	○	○		○
	42	パラチオン(パラチオンエチル)	○	○	○	○	○	○		○
	43	パラチオンメチル	○	○			○	○		○
	44	ピフェントリン	○	○			○	○		○
	45	ピペロホス					○	○		○
	46	ピラクロホス					○	○		○
	47	ピラゾホス								○
	48	ピリダフェンチオン					○	○		

○:不検出

表1 市内産農産物の残留農薬検査結果

(単位:mg/kg)

農産物名	かぼちや		きやべつ		きゆうり		こまつな		トマト	にんじん	ピーマン	ほうれんそう
	麻生区	高津区	麻生区	麻生区	宮前区	宮前区	麻生区	宮前区	麻生区	宮前区	麻生区	多摩区
49	ピリダベン			○	○			○				
50	ピリホスメチル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
51	フィプロニル	○	○		○						○	
52	フェナミホス	○	○		○	○	○		○			○
53	フェナリモル	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
54	フェニトロチオン(MEP)	○	○			○	○	○	○	○	○	○
55	フェンスルホチオン		○			○	○					
56	フェンチオン		○									
57	フェントエート	○	○			○	○		○			○
58	フェンバレレート	○	○								○	
59	フェンプロパトリン	○	○	○	○						○	
60	ブタミホス	○	○		○				○	○		
61	プロフェジン	○	○	○	○			○		○		
62	フルシトリネート				○				○	○		
63	フルトラニル	○			○						○	○
64	フルバリネート										○	
65	プロチオホス		○									
66	プロパホス		○									
67	プロピコナゾール				○							
68	プロフェノホス	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○
69	プロモプロピレート	○	○			○	○		○	○	○	○
70	ホサロン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
71	ホスチアゼート	○	○		○	○	○	0.02	○	○		
72	ホスファミドン		○		○	○	○		○	○	○	○
73	ホノホス		○									
74	ホレート	○	○		○	○	○		○			○
75	マラチオン(マラソン)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
76	ミクロブタニル	○	○	○					○			○
77	メチダチオン	○	○			○	○		○	○		○
78	メビンホス	○	○			○	○		○	○		○
79	レナシル	○	○			○	○		○	○		○

○:不検出

表2-1 国内産農産物の残留農薬検査結果

(単位:mg/kg)

農産物名	かぼちや		きやべつ					日本なし				
	北海道	山梨	群馬	千葉		神奈川	千葉	福島				
検体数(全12件)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
検査依頼項目数	50	50	20	50	50	50	50	50	50	50	20	20
検出項目数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
検査依頼項目	1	EPN	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	2	γ-BHC(リンデン)										
	3	アクリナトリン										
	4	アザコナゾール				○	○					
	5	アジンホスメチル										
	6	アジキシストロピン			○	○	○	○	○	○	○	○

○:不検出

表2-1 国内産農産物の残留農薬検査結果

(単位:mg/kg)

農産物名		かぼちや			きゃべつ							日本なし	
		北海道			山梨	群馬	千葉		神奈川		千葉	福島	
検査依頼項目	7	アトラジン	○			○	○	○	○	○	○		
	8	アニコホス											
	9	アラクロール				○	○		○	○	○		
	10	イサゾホス											
	11	イソプロチオラン								○			
	12	イマザリル											
	13	エチオン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	14	エディフェンホス	○										
	15	エトプロホス	○			○	○		○			○	
	16	エトリムホス	○			○	○		○			○	
	17	エンドスルファン	○			○	○		○	○	○	○	
	18	オキサジキシル											
	19	オキサミル											
	20	カズサホス	○			○	○		○	○	○	○	
	21	カルバリル											
	22	カルプロパミド											
	23	キナルホス	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
	24	キノクラミン(ACN)	○			○	○		○	○	○	○	
	25	クレソキシムメチル	○						○		○	○	
	26	クロフェンテジン											
	27	クロメプロップ							○		○		
	28	クロルピリホス	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
	29	クロルピリホスメチル	○	○	○	○	○		○	○	○	○	
	30	クロルフェナビル	○							○			○
	31	クロルフェンゾン							○		○		
	32	クロルフェンビンホス	○			○	○		○		○	○	
	33	クロルフルアズロン											
	34	クロルプロファミ				○	○		○	○	○	○	○
	35	サリチオン											
	36	シアナジン	○			○	○			○	○	○	
	37	シアノホス	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
	38	ジエトフェンカルブ											○
	39	ジクロフェンチオン				○	○		○		○		
	40	ジクロプロトラゾール							○	○	○		
	41	ジクロラン							○				
	42	ジチオピル							○	○			
	43	シハロホップブチル							○				
	44	ジフェノコナゾール				○	○		○	○	○	○	○
	45	シフルフェナミド							○				
	46	ジフルベンズロン											
	47	シメコナゾール	○						○	○		○	
	48	ジメチピン											
	49	ジメチルビンホス				○	○			○		○	
	50	ジメトエート										○	○
	51	シラフルオフエン											
	52	ダイアジノン	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
	53	チアベンダゾール											
	54	テトラクロルビンホス	○	○	○	○	○		○	○	○	○	
	55	テブフェノジド											
	56	テフルベンズロン											
	57	テルブホス	○	○	○	○	○		○	○	○	○	
	58	トリアゾホス											
	59	トリアレート				○	○		○	○	○	○	○
	60	トリブホス(DEF)							○	○	○		
	61	トルクロホスメチル	○	○	○	○	○		○	○	○	○	

○:不検出

表2-1 国内産農産物の残留農薬検査結果

(単位:mg/kg)

農産物名		かぼちや			きやべつ							日本なし		
		北海道			山梨	群馬	千葉			神奈川	千葉	福島		
検査 依頼 項目	62	パラチオン(パラチオンエチル)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	63	パラチオンメチル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	64	ピフェノックス												
	65	ピフェントリン	○			○	○	○	○	○	○	○	○	0.02
	66	ピペロニルブトキシド												
	67	ピペロホス						○						
	68	ピラクロホス				○	○	○	○	○	○	○	○	
	69	ピラゾホス						○		○	○			
	70	ピリダフェンチオン				○	○	○				○		
	71	ピリダベン												
	72	ピリミカーブ												
	73	ピリミホスメチル	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○
	74	フィプロニル	○			○	○		○	○	○	○	○	○
	75	フェナミホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	76	フェナリモル	○			○	○	○	○	○	○	○	○	
	77	フェニトロチオン(MEP)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	78	フェノプロカルブ												
	79	フェンクロールホス						○						
	80	フェンスルホチオン	○			○	○	○				○		
	81	フェンチオン	○											
	82	フェントエート	○			○	○		○	○	○	○	○	○
	83	フェンバレレート	○											
	84	フェンピロキシメート												
	85	フェンプロパトリン	○			○	○	○	○	○	○	○	○	
	86	フサライド	○					○						
	87	ブタミホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	88	ブプロフェジン	○					○	○	○				○
89	フルキンコナゾール												○	
90	フルジオキシニル													
91	フルシトリネート													
92	フルトラニル	○			○	○	○	○	○	○	○	○		
93	フルバリネート													
94	フルフェノクスロン													
95	プロチオホス	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	
96	プロパニル													
97	プロパホス				○	○					○			
98	プロピコナゾール												○	
99	プロフェノホス	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○		
100	プロモプロピレート	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	
101	プロモホス(プロモホスメチル)						○	○	○					
102	ヘキサコナゾール													
103	ペンディメタリン												○	
104	ホサロン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
105	ホスチアゼート	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		
106	ホスファミドン				○	○	○	○	○	○	○	○		
107	ホノホス						○							
108	ホレート	○												
109	馬拉チオン(マラソン)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
110	ミクロブタニル	○							○	○			○	
111	メチダチオン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
112	メパニピリム													
113	メピンホス	○											○	
114	メフェナセツト													
115	リニューロン													
116	ルフェヌロン													
117	レナシル	○			○	○	○		○	○	○	○		

○:不検出

表2-2 国内産農産物の残留農薬検査結果

(単位:mg/kg)

農産物名	きゅうり				こまつな			トマト		
	山形	福島	茨城	神奈川県	茨城	群馬	栃木	山梨	熊本	
検体数(全10件)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
検査依頼項目数	50	20	50	50	50	50	50	50	50	
検出項目数	0	0	0	1	0	0	2	1	2	
検査依頼項目	1	EPN	○		○	○		○		
	2	γ-BHC(リンデン)								
	3	アクリナトリン	○	○		○				
	4	アザコナゾール								
	5	アジンホスメチル						○		
	6	アゾキシストロビン	○	○	○	○	○	○	0.009	○
	7	アトラジン	○		○	○	○	○	○	○
	8	アニロホス						○		
	9	アラクロール		○		○	○	○		
	10	イサゾホス						○		
	11	イソプロチオラン								
	12	イマザリル						○	○	
	13	エチオン	○		○	○	○	○	○	○
	14	エディフェンホス								
	15	エトプロホス	○		○	○	○	○	○	○
	16	エトリムホス						○		
	17	エンドスルフエン	○		○	○	○	○	○	○
	18	オキサジキシル								
	19	オキサミル	○			○				
	20	カズサホス	○	○	○	○	○	○	○	○
	21	カルバリル						○		
	22	カルプロパミド						○		
	23	キナルホス	○		○	○	○	○	○	○
	24	キノクラミン(ACN)	○			○	○	○	○	
	25	クレソキシムメチル	○		○	○	○			
	26	クロフェンテジン								
	27	クロメプロップ								
	28	クロルピリホス	○	○	○	○	○	○		○
	29	クロルピリホスメチル	○	○	○	○	○	○		○
	30	クロルフェナピル	○	○		○			0.048	○
	31	クロルフェンソル								
	32	クロルフェンビンホス	○		○	○	○	○	○	○
	33	クロルフルアズロン						○	○	
	34	クロルプロファム	○		○	○	○	○	○	○
	35	サリチオン						○		
	36	シアナジン	○		○	○	○	○	○	○
	37	シアノホス	○		○	○	○	○	○	○
	38	ジエトフェンカルブ	○	○	○	○			○	0.019
	39	ジクロフェンチオン						○		
	40	ジクロブトラゾール						○		
	41	ジクロラン		○	○	○	○			
	42	ジチオピル						○		
	43	シハロホップブチル								
	44	ジフェノコナゾール			○	○	○			○
	45	シフルフェナミド	○		○	○				
	46	ジフルベンズロン	○		○			○	○	
	47	シメコナゾール	○		○	○	○		○	○
	48	ジメチピン	○		○	○			○	○

○:不検出

表2-2 国内産農産物の残留農薬検査結果

(単位:mg/kg)

農産物名		きゅうり				こまつな		トマト			
		山形	福島	茨城	神奈川	茨城	群馬	栃木	山梨	熊本	
検査依頼項目	49	ジメチルビンホス							○		
	50	ジメトエート			○				○		○
	51	シラフルオフェン							○		
	52	ダイアジン	○	○	○	○	○	0.02	○	○	○
	53	チアベンダゾール	○			○				○	
	54	テトラクロルビンホス	○		○	○	○	○	○	○	○
	55	テブフェナジド								○	
	56	テフルベンズロン	○			○				○	
	57	テルブホス	○		○	○	○	○	○	○	○
	58	トリアゾホス							○		
	59	トリアレート	○		○	○	○	○		○	○
	60	トリブホス(DEF)									
	61	トルクロホスメチル			○		○	○	○		
	62	パラチオン(パラチオンエチル)	○		○	○	○	○	○	○	○
	63	パラチオンメチル	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	64	ピフェノックス						○			
	65	ピフェントリン	○		○	○	○	○			
	66	ピペロニルブトキシド									
	67	ピペロホス							○		
	68	ピラクロホス	○		○	○	○	○	○	○	○
	69	ピラゾホス						○			
	70	ピリダフェンチオン					○	○		○	
	71	ピリダベン	○	○	○	0.012				0.014	0.013
	72	ピリミカーブ								○	
	73	ピリミホスメチル		○	○		○	○	○		○
	74	フィプロニル	○			○				○	○
	75	フェナミホス	○		○	○	○	○	○	○	○
	76	フェナリモル	○		○	○	○	○			
	77	フェニトロチオン(MEP)		○	○		○	○	○		○
	78	フェノブカルブ	○			○				○	
79	フェンクロールホス										
80	フェンスルホチオン					○	○	○	○	○	
81	フェンチオン										
82	フェントエート					○	○	○			
83	フェンバレレート										
84	フェンピロキシメート								○	0.015	
85	フェンプロパトリン			○							
86	フサライド										
87	ブタミホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
88	ブプロフェジン			○						0.026	
89	フルキンコナゾール										
90	フルジオキソニル										
91	フルシトリネート								○	○	
92	フルトラニル	○		○	○	○	○		○	○	
93	フルバリネート									○	
94	フルフェノクスロン										
95	プロチオホス		○			○	○	○			
96	プロパニル										
97	プロバホス						○	○			
98	プロピコナゾール	○		○	○				○	○	
99	プロフェノホス	○		○	○	○	○	○		○	
100	プロモプロピレート			○		○	○	○		○	

○:不検出

表2-2 国内産農産物の残留農薬検査結果

(単位:mg/kg)

農産物名	きゅうり				こまつな			トマト		
	山形	福島	茨城	神奈川	茨城	群馬	栃木	山梨	熊本	
検査依頼項目	101									
	102									
	103								○	○
	104			○		○	○	○		○
	105	○	○	○	○	○	○	0.02	○	○
	106	○		○	○	○	○	○	○	○
	107							○		
	108			○		○	○			
	109	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	110			○		○	○			○
	111	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	112	○			○				○	
	113					○	○	○	○	○
	114									
	115	○			○				○	
	116	○			○				○	
	117	○		○	○	○	○	○	○	○

○:不検出

表2-3 国内産農産物の残留農薬検査結果

(単位:mg/kg)

農産物名	にんじん				ピーマン			ほうれんそう					
	埼玉	千葉			福島	茨城	茨城	栃木		群馬			
検体数(全12件)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	
検査依頼項目数	50	50	50	50	50	20	20	50	50	50	50	50	
検出項目数	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	
検査依頼項目	1		○		○				○	○	○	○	
	2			○									
	3												
	4												
	5												
	6	○	○	○	○	0.008			○	○	○	○	○
	7	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○
	8												
	9								○	○	○	○	○
	10												
	11												
	12												
	13	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	14												
	15												
	16		○		○								
	17		○	○	○	○			○	○	○	○	○
	18			○									
	19	○	○		○	○							
	20					○	○	○	○	○	○	○	○

○:不検出

表2-3 国内産農産物の残留農薬検査結果

(単位:mg/kg)

農産物名	にんじん					ピーマン		ほうれんそう					
	埼玉	千葉				福島	茨城	茨城	栃木	群馬			
21	カルバリル					○							
22	カルプロバミド												
23	キナルホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
24	キノクラミン(ACN)												
25	クレソキシムメチル	○		○		○							
26	クロフェンテジン			○					○		○		○
27	クロメプロップ												
28	クロルピリホス					○	○	○	○	○	○	○	○
29	クロルピリホスメチル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
30	クロルフェナピル			○		○							
31	クロルフェンゾン												
32	クロルフェンビンホス	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○
33	クロルフルアズロン	○				○			○	○	○	○	○
34	クロルプロファム	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○
35	サリチオン												
36	シアナジン	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○
37	シアノホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
38	ジエトフェンカルブ												
39	ジクロフェンチオン												
40	ジクロプロラゾール												
41	ジクロラン	○	○	○	○	○							
42	ジチオピル												
43	シハロホップブチル												
44	ジフェノコナゾール	○	○	○	○	○							
45	シフルフェナミド												
46	ジフルベンズロン	○	○		○	○			○	○	○	○	○
47	シメコナゾール			○					○	○	○	○	○
48	ジメチピン	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○
49	ジメチルピンホス												
50	ジメエート	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○
51	シラフルオフェン												
52	ダイアジン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
53	チアベンダゾール	○	○		○	○			○	○	○	○	○
54	テトラクロルピンホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
55	テブフェノジド	○											
56	テフルベンズロン	○	○		○	○			○	○	○	○	○
57	テルブホス					○	○						
58	トリアゾホス												
59	トリアレート	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○
60	トリブホス(DEF)												
61	トルクロホスメチル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
62	パラチオン(パラチオンエチル)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
63	パラチオンメチル	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
64	ピフェノックス												
65	ピフェントリン	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○
66	ピペロニルブトキシド			○									
67	ピペロホス												
68	ピラクロホス	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○
69	ピラゾホス												
70	ピリダフェンチオン												
71	ピリダベン												
72	ピリミカーブ	○	○		○	○			○	○	○	○	○
73	ピリミホスメチル	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○
74	フィプロニル												
75	フェナミホス	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○
76	フェナリモル	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○

○:不検出

表2-3 国内産農産物の残留農薬検査結果

(単位:mg/kg)

農産物名	にんじん					ピーマン		ほうれんそう					
	埼玉	千葉				福島	茨城	茨城	栃木	群馬			
77	フェニトロチオン(MEP)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
78	フェノプカルブ	○	○		○	○			○	○	○	○	○
79	フェンクロルホス												
80	フェンスルホチオン												
81	フェンチオン												
82	フェントエート	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○
83	フェンバレレート												
84	フェンピロキシメート								○	○	○	○	○
85	フェンプロパトリン												
86	フサライド												
87	ブタミホス	○	○	○	○	○	○	○					○
88	ブプロフェジン												
89	フルキンコナゾール												
90	フルジオキシニル			○									
91	フルシトリネート		○	○	○	○							
92	フルトラニル	○							○	○	○	○	○
93	フルバリネート												
94	フルフェノクスロン	○	○		○	○			○	0.020	○	○	0.029
95	プロチオホス												
96	プロパニル			○									
97	プロバホス												
98	プロピコナゾール												
99	プロフェノホス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
100	プロモプロピレート	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○
101	プロモホス(プロモホスメチル)												
102	ヘキサコナゾール			○									
103	ペンディメタリン												
104	ホサロン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
105	ホスチアゼート	○	○	○	○	○	○	○					
106	ホスファミドン	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○
107	ホノホス												
108	ホレート	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○
109	マラチオン(マラソン)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
110	マイクロブタニル	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○
111	メチダチオン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
112	メパニピリム												
113	メピンホス	○	○	○	○	○	○	○					
114	メフェナセット									○		○	
115	リニューロン	○	○		○	○			○	○	○	○	○
116	ルフェヌロン												
117	レナシル	○	○	○	○	○			○	○	○	○	○

○:不検出

(イ) 輸入農産物の検査

健康安全部、各区役所保健福祉センター及び中央卸売市場食品衛生検査所依頼分の7検体・計350項目について検査を実施した(表3)。

輸入農産物で農薬の検出が認められた検体は、クロルピリホスが「グレープフルーツ」

南アフリカ産 3 検体 (0.016mg/kg、0.005mg/kg、0.006mg/kg、基準値1mg/kg)、ブプロフェジンが「グレープフルーツ」南アフリカ産1検体(0.005mg/kg、基準値3mg/kg)、マイクロブタニルが「かぼちゃ」メキシコ産1検体(0.017mg/kg、基準値1mg/kg)であり、その他は不検出であった。

表3 輸入農産物の残留農薬検査結果

(単位:mg/kg)

農産物名	グ レ ル プ ツ			パ プ リ カ	か ぼ ち ゃ				
	南アフリカ			オランダ	メキシコ				
検体数(全7件)	1	1	1	1	1	1	1		
検査依頼項目数	50	50	50	50	50	50	50		
検出項目数	1	1	2	0	0	0	1		
検査依頼項目	1	EPN		○			○	○	○
	2	アザコナゾール	○				○		○
	3	アジンホスメチル					○		○
	4	アゾキシストロビン				○			
	5	アトラジン	○	○	○	○	○	○	○
	6	アニロホス		○					
	7	アラクロール					○		○
	8	イサゾホス		○			○		○
	9	イソプロチオラン	○				○		○
	10	エチオン	○	○	○	○	○	○	○
	11	エディフェンホス			○		○		○
	12	エトプロホス		○		○	○		
	13	エトリムホス			○	○	○		○
	14	エンドスルフアン	○	○	○	○	○	○	○
	15	カズサホス	○	○	○	○			○
	16	キナルホス	○	○	○	○	○	○	○
	17	キノクラミン(ACN)					○	○	○
	18	クレソキシムメチル	○	○	○	○	○	○	○
	19	クロメプロップ					○		○
	20	クロルピリホス	0.016	0.005	0.006	○	○	○	○
	21	クロルピリホスメチル	○	○	○	○	○	○	○
	22	クロルフェナピル					○	○	○
	23	クロルフェンゾン							○
	24	クロルフェンビンホス	○	○	○	○		○	○
	25	クロルプロファミ	○	○	○	○			○
	26	サリチオン						○	○
	27	シアナジン				○	○	○	○
	28	シアノホス	○	○	○	○	○	○	○
	29	ジクロフェンチオン	○		○			○	○
	30	ジクロブトラゾール	○		○				○
	31	ジクロラン							○
	32	ジチオピル	○		○				○
	33	シハロホップブチル							○
	34	ジフェノコナゾール				○			
	35	シフルトリン				○			
	36	シフルフェナミド				○			
	37	シメコナゾール	○	○	○		○	○	○
	38	ジメチピン					○		○
	39	ジメチルビンホス		○				○	○
	40	ジメトエート				○			
	41	ダイアジン	○	○	○	○	○	○	○
	42	テトラクロルビンホス		○		○	○	○	○
	43	デルタメトリン				○			
	44	テルブホス	○	○	○	○	○	○	○
	45	トリアレート	○	○	○	○			○
	46	トリブホス(DEF)							○
	47	トルクロホスメチル	○	○	○	○	○	○	○
	48	パラチオン(パラチオンエチル)	○	○	○	○	○	○	○

○:不検出

表3 輸入農産物の残留農薬検査結果

(単位:mg/kg)

農産物名		グ レ ル プ ツ			パ プ リ カ	か ぼ ち や			
生産国		南アフリカ			オランダ	メキシコ			
検査 依頼 項目	49	パラチオンメチル	○	○	○	○	○	○	○
	50	ハルフェンプロックス							○
	51	ビフェノックス							○
	52	ビフェントリン	○	○	○	○	○	○	○
	53	ピペロホス							○
	54	ピラクロホス				○			○
	55	ピラゾホス	○						○
	56	ピリダフェンチオン		○					○
	57	ピリミホスメチル	○	○	○	○	○	○	
	58	フィプロニル	○	○	○	○	○	○	○
	59	フェナミホス	○	○	○		○	○	
	60	フェナリモル	○	○	○	○	○	○	
	61	フェニトロチオン(MEP)	○	○	○	○	○	○	
	62	フェンクロホス			○				
	63	フェンスルホチオン							○
	64	フェンチオン	○	○	○				○
	65	フェントエート	○	○	○		○	○	
	66	フェンバレレート	○	○	○	○	○	○	
	67	フェンプロパトリン	○	○	○	○	○	○	
	68	ブタミホス				○	○	○	
	69	ブプロフェジン	○	○	0.005	○	○	○	
	70	フルシトリネート	○	○	○	○			
	71	フルトラニル				○			
	72	フルバリネート				○			
	73	プロチオホス	○	○	○	○			○
	74	プロパホス		○					○
	75	プロフェノホス	○	○	○	○	○	○	
	76	プロモプロピレート	○	○	○	○	○	○	
	77	プロモホス(プロモホスメチル)	○						
	78	ベンフルラリン	○	○					
79	ホサロン	○	○	○	○	○	○		
80	ホスチアゼート			○	○	○	○		
81	ホスファミドシ	○	○	○	○			○	
82	ホノホス			○				○	
83	ホレート	○	○	○		○	○		
84	マラチオン(マラソン)	○	○	○	○	○	○		
85	マイクロブタニル	○				○	○	0.017	
86	メタグリホス		○	○					
87	メチダチオン	○	○	○	○	○	○		
88	メビンホス	○	○	○	○	○	○		
89	モリネート	○		○					
90	レナシル	○	○	○	○	○	○		

○:不検出

(ウ) 学校給食用食材の検査

教育委員会及び(公財)川崎市学校給食
会依頼分の7検体・計140項目について検
査を実施した(表4)。

農薬の検出が認められた検体は無かつ
た。

表4 学校給食食材の残留農薬検査結果

(単位:mg/kg)

農産物名	きやべつ		きゆうり	こまつな	日本なし	にんじん	ほうれんそう	
	北海道	神奈川	埼玉	茨城	茨城	千葉	群馬	
検体数(全7件)	1	1	1	1	1	1	1	
検査依頼項目数	20	20	20	20	20	20	20	
検出項目数	0	0	0	0	0	0	0	
検査依頼項目	1	EPN	○	○				
	2	アゾキシストロビン	○	○	○	○	○	○
	3	アトラジン		○	○	○	○	○
	4	アラクロール		○		○	○	○
	5	イソプロチオラン				○		
	6	カズサホス		○	○		○	○
	7	キナルホス			○			
	8	クレソキシムメチル		○	○		○	
	9	クロルピリホス	○		○	○		○
	10	クロルピリホスメチル			○	○	○	○
	11	クロルフェナピル	○		○	○		
	12	クロルプロファム	○		○			
	13	シアナジン			○		○	
	14	シアノホス	○		○			
	15	ジエトフェンカルブ			○			
	16	ジクロプロラゾール				○		
	17	ジフェノコナゾール	○			○	○	
	18	シフルフェナミド			○			
	19	ジメチピン					○	○
	20	ジメトエート				○	○	○
	21	ダイアジノン	○	○		○	○	○
	22	テルブホス			○	○		
	23	トルクロホスメチル	○			○		○
	24	バラチオンメチル				○		○
	25	ピフェントリン	○	○		○	○	
	26	ピリダベン				○		
	27	ピリミホスメチル	○	○		○	○	○
	28	フィプロニル	○		○			
	29	フェナミホス			○	○		○
	30	フェナリモル				○	○	
	31	フェニトロチオン(MEP)	○	○		○	○	○
	32	フェントエート	○	○		○		○
	33	フェンプロバトリン	○	○				
	34	フサライド		○				
	35	ブタミホス	○	○	○		○	
	36	ブプロフェジン		○		○		
	37	フルシトリネート					○	
	38	フルトラニル	○	○	○			○
	39	フルバリネート				○		
	40	プロチオホス	○	○		○	○	
	41	プロフェノホス	○		○			
	42	プロモプロピレート				○		
	43	ホサロン				○	○	
	44	ホスチアゼート		○		○	○	
	45	マラチオン(マラソン)	○	○		○	○	○
	46	ミクロブタニル		○		○		○
	47	メチダチオン			○	○	○	○
	48	レナシル				○		○

○:不検出

イ 放射性物質検査（輸入食品）

チェルノブイリ原発事故後、放射性セシウム(Cs-134 と Cs-137)について、平成元年から市内に流通する輸入食品を対象に行っている。今年度は、食品安全担当依頼分の3検体について、放射能検査を実施した(表 5)。検

査結果は、ベルギー産「ブルーベリーコンポート」において放射性セシウム(Cs-137)が37.2 Bq/kg 検出されたが、その他は不検出(基準値(Cs-134 及び 137 の合計で100 Bq/kg 以下))であった。

表5 輸入食品の放射性物質検査結果

品名	原産国	検体件数 (計3件)	放射性セシウム (Bq/kg)	
			Cs-134	Cs-137
ブルーベリーコンポート	ベルギー	1	不検出	37.2
ザワークラフト	ドイツ	1	不検出	不検出
ザクロジュース	トルコ	1	不検出	不検出

ウ 放射能検査（国産食品及び環境試料）

平成 23 年 3 月 11 日の福島第一原発事故後より放射性ヨウ素(ヨウ素 131)と放射性セシウム(Cs-134とCs-137)について測定を行っている。食品安全担当、農業振興センター、教育委員会、(公財)川崎市学校給食会、港湾局港営課及び上下水道局水道水質課、環境局処理計画課から依頼のあった、総数312検体・計 636 項目(内訳、食品 225 検体 450 項目、水など環境試料 87 検体 186 項目)について放射能検査を実施した。

(ア) 市内産農産物

経済労働局農業振興センター依頼分の市内産農産物について 28 検体の検査を実施した(表 6)。検査結果は、全て不検出(基準値(Cs-134 及び 137 の合計で 100 Bq/kg 以下))であった。

(イ) 市内流通食品

食品安全担当依頼分の、市内に流通する食品 60 検体(内訳、一般食品 46 検体、牛乳 4 検体、乳児用食品 2 検体、飲料水 8 検体)について検査を実施したところ、一般食品区分(基準値:Cs-134 及び 137 の合計で 100 Bq/kg 以下)の「ほしいも」1検体に 1.7Bq/kg、「まいたけ」1 検体に 2.5Bq/kg、「青大豆」1検体に 1.9Bq/kg の検出を認めた。それ以外は全て不検出であった(表 7)。

(ウ) 学校給食

教育委員会及び(公財)川崎市学校給食会依頼分の75検体について検査を実施したところ、全て不検出であった(表 8)。

(エ) 川崎港生息魚介類モニタリング調査

食品安全担当と環境局放射線安全推進室及び処理計画課との連携により、平成 25 年 4 月の焼却灰の埋立開始に際しての放流に伴い、外海への影響を確認するため、川崎港内(浮島埋立処分場周辺の公共用水域)で魚介類を採取し、全 62 検体についてその放射性セシウム濃度を測定した(表 9)。

検査結果は、放射性セシウム(Cs-137)の検出が「スズキ」1 検体に 1.5Bq/kg 認められたが、基準値以下であり(Cs-134 及び 137 の合計で 100 Bq/kg)以下)、その他は全て不検出であった。

(オ) 水道水

上下水道局水道水質課依頼分の水道原水及び配水 60 検体について検査を実施したところ検査結果は、全て不検出であった(表 10)。この内 12 検体については、平成 28 年 1 月の北朝鮮核実験の実施発表を受けて放射性ヨウ素(I-131)を併せて測定したが、いずれも不検出であった。

(カ) 海水

港湾局港営課より依頼のあった海水 27 検体について検査を実施したところ、全て不検出であった(表 11)。

表6 市内産農産物の放射性物質検査結果

品名	産地	検体件数 (計28件)	放射性セシウム (Bq/kg)	
			Cs-134	Cs-137
うめ	麻生区	1	不検出	不検出
カリフラワー	高津区	1	不検出	不検出
キャベツ	高津区	1	不検出	不検出
きゅうり	麻生区	1	不検出	不検出
こまつな	中原区	1	不検出	不検出
さつまいも	麻生区	2	不検出	不検出
	高津区	1	不検出	不検出
さといも	麻生区	1	不検出	不検出
じゃがいも	高津区	1	不検出	不検出
トマト	高津区	1	不検出	不検出
なす	宮前区	1	不検出	不検出
のらぼうな	多摩区	1	不検出	不検出
ぶどう	多摩区	1	不検出	不検出
ブルーベリー	麻生区	1	不検出	不検出
ブロッコリー	高津区	1	不検出	不検出
ほうれんそう	中原区	1	不検出	不検出
みかん	麻生区	1	不検出	不検出
らっかせい	麻生区	1	不検出	不検出
柿	麻生区	1	不検出	不検出
玉ネギ	高津区	1	不検出	不検出
大根(根)	宮前区	1	不検出	不検出
大根(葉)	宮前区	1	不検出	不検出
日本なし	多摩区	2	不検出	不検出
	麻生区	1	不検出	不検出
	宮前区	1	不検出	不検出
	高津区	1	不検出	不検出

表7 市内流通食品の放射性物質検査結果

基準値 適応区分	品名	検体件数 (計60件)	放射性セシウム (Bq/kg)	
			Cs-134	Cs-137
一般食品	いちごジャム	1	不検出	不検出
	うどん	1	不検出	不検出
	うるい	1	不検出	不検出
	えのきたけ	1	不検出	不検出
	エリンギ	1	不検出	不検出
	お粥(レトルト)	1	不検出	不検出
	こんにゃく	2	不検出	不検出
	さやいんげん	1	不検出	不検出
	サンマ缶詰	1	不検出	不検出
	しらたき	1	不検出	不検出
	そば粉	1	不検出	不検出
	たくあん漬	1	不検出	不検出
	なめこ(瓶詰)	1	不検出	不検出
	のりつくだに	1	不検出	不検出
	パックご飯	1	不検出	不検出
	ぶなしめじ	2	不検出	不検出
	ほしいも	1	不検出	1.7
	まいたけ	1	不検出	2.5
	めかぶ	1	不検出	不検出
	ヨーグルト	1	不検出	不検出
	りんごジュース	3	不検出	不検出
	りんご缶詰	1	不検出	不検出
	ワイン	1	不検出	不検出
	わかめ	1	不検出	不検出
	牛肉	2	不検出	不検出

表7 市内流通食品の放射性物質検査結果

基準値 適応区分	品名	検体件数 (計60件)	放射性セシウム (Bq/kg)	
			Cs-134	Cs-137
一般食品	吟醸酒	1	不検出	不検出
	茎わかめ	1	不検出	不検出
	玄米	1	不検出	不検出
	鮭	1	不検出	不検出
	手羽もと	1	不検出	不検出
	精米	2	不検出	不検出
	青大豆	1	不検出	1.9
	赤かぶ漬け	1	不検出	不検出
	白菜漬	1	不検出	不検出
	味噌	2	不検出	不検出
	味噌漬け(大根)	1	不検出	不検出
	餅	1	不検出	不検出
	洋なし(缶詰)	1	不検出	不検出
	卵	1	不検出	不検出
飲料水	ミネラルウォーター	6	不検出	不検出
	煎茶(茶葉)	2	不検出	不検出
牛乳	牛乳	4	不検出	不検出
乳児用食品	乳児用飲料	1	不検出	不検出
	粉ミルク	1	不検出	不検出

表8 教育委員会・学校給食用食材の放射性物質検査結果

基準値 適応区分	品名	検体件数 (計75件)	放射性セシウム (Bq/kg)	
			Cs-134	Cs-137
一般食品	いちごジャム	1	不検出	不検出
	いり大豆	1	不検出	不検出
	ウインナー	1	不検出	不検出
	うずらの卵(水煮)	1	不検出	不検出
	えだ豆	1	不検出	不検出
	かんぴょう	1	不検出	不検出
	キムチ	1	不検出	不検出
	キャベツ	1	不検出	不検出
	こまつな	1	不検出	不検出
	コロッケ	1	不検出	不検出
	こんにゃく	1	不検出	不検出
	さつまあげ	1	不検出	不検出
	さんまファイル	1	不検出	不検出
	さんま切り身	1	不検出	不検出
	しらす干し	2	不検出	不検出
	ゼリー	5	不検出	不検出
	たけのこ(水煮)	2	不検出	不検出
	ちくわ	1	不検出	不検出
	トマトケチャップ	1	不検出	不検出
	なると	1	不検出	不検出
	ニンジン	1	不検出	不検出
	ハム	1	不検出	不検出
	ハンバーグ	2	不検出	不検出
	ピーマン	1	不検出	不検出
	ひなあられ	1	不検出	不検出
	ほうとう	1	不検出	不検出
	ほうれんそう	1	不検出	不検出
	みかんジャム	1	不検出	不検出
	わかめ	2	不検出	不検出
	高野豆腐	1	不検出	不検出

表8 教育委員会・学校給食用食材の放射性物質検査結果

基準値 適応区分	品名	検体件数 (計75件)	放射性セシウム (Bq/kg)	
			Cs-134	Cs-137
一般食品	生クリーム	2	不検出	不検出
	精米	3	不検出	不検出
	大根(根)	1	不検出	不検出
	団子	1	不検出	不検出
	長ネギ	1	不検出	不検出
	梅	1	不検出	不検出
	白玉もち	1	不検出	不検出
	白菜	1	不検出	不検出
	米粉	2	不検出	不検出
揚げボール	1	不検出	不検出	
牛乳	牛乳	23	不検出	不検出

表9 川崎港生息魚介類(モニタリング)放射性物質検査結果

品名	検体件数 (計62件)	放射性セシウム (Bq/kg)	
		Cs-134	Cs-137
アサリ	5	不検出	不検出
アジ	2	不検出	不検出
イシモチ	5	不検出	不検出
カサゴ	4	不検出	不検出
カマス	3	不検出	不検出
コノシロ	1	不検出	不検出
サバ	2	不検出	不検出
スズキ	1	不検出	1.5
	11	不検出	不検出
タナゴ	6	不検出	不検出
ボラ	8	不検出	不検出
メジナ	4	不検出	不検出
メバル	3	不検出	不検出
黒ダイ	7	不検出	不検出

表10 水道水等の放射性物質検査結果

品名		検体件数 (計60件)	放射性セシウム (Bq/kg)		放射性ヨウ素 (Bq/kg)
			Cs-134	Cs-137	I-131
長沢水道水	原水	12	不検出	不検出	不検出
		3	不検出	不検出	不検出
	配水	12	不検出	不検出	不検出
		3	不検出	不検出	不検出
生田水道水	原水	12	不検出	不検出	不検出
		3	不検出	不検出	不検出
	配水	12	不検出	不検出	不検出
		3	不検出	不検出	不検出

表11 川崎港付近の海水の放射性物質検査結果

品名	検体件数 (計27件)	放射性セシウム (Bq/kg)	
		Cs-134	Cs-137
海水	27	不検出	不検出

3 微生物部門

(1) 消化器・食品細菌担当

腸管系細菌検査では、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)」に基づく届出や市内の食中毒の発生により消化器症状(下痢、腹痛等)を呈した患者やその接触者から腸管系感染症(コレラ菌、赤痢菌、腸・パラチフス菌、腸管出血性大腸菌等)の分離・同定を行い、市内における食中毒被害の拡大防止や感染症のまん延防止に寄与している。また、分離された原因菌について、遺伝子解析を行い得られた分子疫学解析結果を保健所等の行政機関に還元している。

食品細菌検査では、食中毒予防のため、川崎市食品衛生監視指導計画に基づき保健所、7保健所支所及び中央卸売市場食品衛生検査所から搬入された市内流通食品(食肉製品、乳製品、弁当類、そうざい等)について、食品衛生法に基づく成分規格検査や衛生指導検査(細菌数、大腸菌群、サルモネラ属菌、黄色ブドウ球菌、腸管出血性大腸菌等)を実施している。また、食中毒菌汚染実態調査や教育委員会並びに(公財)川崎市学校給食会からの検体についても衛生検査を実施している。

川崎市食品 GLP の対応として、外部精度管理調査(一般細菌数測定、黄色ブドウ球菌、サルモネラ属菌、大腸菌群、E.coli 検査)に年 5 回参加している。

ア 腸内細菌

(7) 感染性細菌検査

感染症の発生に伴う感染性細菌検査や市内医療機関で分離された菌株について、283 検体、682 項目の検査を実施した。月別検査件数は、表 1 のとおりである。また、菌種別の検出状況は、表 2 のとおりである。分離又は搬入された腸管出血性大腸菌 41 検体についての血清型及び毒素型は、表 3 に示すとおりである。カルバペネム耐性腸内細菌科細菌(CRE)は、届出対象外も含め、33 検体が搬入された。菌種別カルバペネマーゼ遺伝子の保有状況は、表 4 のとおりである。

(イ) 細菌性食中毒検査

市内の食中毒や有症苦情及び他都市食中毒関連調査の検体が 314 検体搬入された。月別検査件数は、表 5 のとおりで、カンピロバクター・ジェジュニが最も多く検出された。また、平成 27 年度の市内細菌性食中毒の発生状況は 4 件で表 6 に示すとおりである。

イ 食品細菌

食品細菌検査は、表 7 に示すとおりである。平成 27 年度の総検体数は 2,148 検体で、不適項目(食品衛生法成分規格及び川崎市の食品等の衛生指導基準による)は、延べ 243 件(11.3%)で、食品衛生法成分規格違反は無く、成分規格目標及び川崎市衛生指導基準による不適件数であった。

不適率の高い検体は、漬物(37.8%)、その他の魚介類及びその加工品(36.2%)、弁当類(33.8%)、生食用鮮魚介類(32.6%)、豆腐(29.0%)、生菓子(24.8%)であった。

食品別の細菌検出状況については、大腸菌群は非加熱そうざい、食肉、生菓子里、サルモネラ属菌やカンピロバクターやリステリア菌は食肉に、セレウス菌は非加熱そうざいや豆腐に、黄色ブドウ球菌は手指拭取から多く検出された。

表1 感染性細菌検査における月別検査件数（菌株含む）

項目	検体数	コレラ菌	赤痢菌	チフス菌	パラチフス菌	下痢原性大腸菌	サルモネラ属菌 (チフス・パラチフスを除く)	腸炎ビブリオ(コレラ菌を除く)	カンピロバクター・ジエジュニ	カンピロバクター・コリ	エルシニア・エンテロコリチカ	ナグビブリオ	ビブリオ・フルビアリス	ビブリオ・ファーンシイ	エロモナス・フィドロフィラ	エロモナス・ソプリア	プレシオモナス・シゲロイデス	カルバベネム耐性腸内細菌科細菌	その他	総項目数
月																				
4月	4	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
5月	10	1	1	1	1	12	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2	0	29
6月	39	7	7	7	7	67	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	0	0	172
7月	41	0	0	0	0	39	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	41
8月	48	0	12	0	0	33	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	48
9月	51	0	8	0	0	37	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	51
10月	35	2	6	2	2	28	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	9	2	73
11月	28	8	9	8	8	54	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	5	0	180
12月	16	2	2	2	2	22	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	0	54
1月	8	1	1	1	1	8	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	3	1	27
2月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3
総計	283	21	46	25	21	300	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	32	6	682

表2 感染性細菌検査における検出状況（菌株含む）

項目	コレラ菌	赤痢菌	チフス菌	パラチフス菌	下痢原性大腸菌 (腸管出血性大腸菌を除く)	腸管出血性大腸菌	サルモネラ属菌 (チフス・パラチフスを除く)	腸炎ビブリオ (コレラ菌を除く)	カンピロバクター・ジエジュニ	カンピロバクター・コリ	エルシニア・エンテロコリチカ	ナグビブリオ	ビブリオ・フルビアリス	ビブリオ・ファーンシイ	エロモナス・フィドロフィラ	エロモナス・ソプリア	プレシオモナス・シゲロイデス	カルバベネム耐性腸内細菌科細菌	その他	検出細菌数合計
月																				
4月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5月	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	3
6月	0	0	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
7月	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	13
8月	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	8
9月	0	2	0	0	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	14
10月	0	1	0	0	0	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	9	2	17
11月	0	0	0	0	0	4	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	5	0	10
12月	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	6
1月	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	5
2月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
3月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	3
検出件数	0	3	0	0	0	42	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	32	6	85

表3 腸管出血性大腸菌の血清型及び毒素型

血清型	毒素型	株数
O157:H7	VT1&2	12
O157:H7	VT2	14
O157:H-	VT2	1
O26:H11	VT1	5
O26:H-	VT1	2
O111:H-	VT1&2	2
O113:H21	VT2	1
O121:H19	VT2	2
O168:H8	VT2	1
O91:H14	VT1	1
計		41

表4 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌（CRE）の菌種別遺伝子検出状況（平成27年4月～平成28年3月）

菌種	遺伝子検査 実施数	カルバペネマーゼ遺伝子 保有数	カルバペネマーゼ遺伝子 保有割合(%)
<i>Enterobacter cloacae</i>	14	7*	50.0
<i>Enterobacter aerogenes</i>	9	0	0
<i>Escherichia coli</i>	4	0	0
<i>Klebsiella pneumoniae</i>	3	0	0
<i>Citrobacter freundii</i>	3	0	0
計	33	7	21.2

※届出対象外 4株含む

表5 細菌性食中毒検査における月別検査件数及び検出状況（菌株含む）

項目	検体数	赤痢菌	サルモネラ属菌 (チフス菌、パラチフスA菌を除く)	病原性大腸菌 (腸管出血性大腸菌を除く)	腸管出血性大腸菌	腸炎ビブリオ (コレラ菌含む)	黄色ブドウ球菌	カンピロバクター・ジェジュニ	カンピロバクター・コリ	ウェルシュ菌	エルシニア・エンテロコリチカ	ナグビブリオ (コレラ菌非O1、ビブリオ・ミミカス)	ビブリオ・フルビアリス	ビブリオ・ファーンシイ	エロモナス・フィドロフィラ	エロモナス・ソプリア	プレシオモナス・シゲロイデス	セレウス菌	検出細菌数合計
月																			
4月	30	0	0	0	0	0	3	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
5月	4	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
6月	101	0	0	0	0	0	6	7	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14
7月	11	0	0	0	0	0	1	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	6
8月	17	0	0	0	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
9月	20	0	0	0	0	0	1	10	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	13
10月	24	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
11月	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
12月	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
1月	11	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3
2月	24	0	0	0	0	0	3	4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10
3月	66	0	0	0	0	0	2	7	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	9
総計	314	0	1	0	0	0	18	45	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	70

表6 市内細菌性食中毒発生事例（平成27年4月～平成28年3月）

No.	発生日	摂食者数	患者数	死者数	原因食品 (種別)	病因物質	原因施設	措置
1	27. 6. 5	7	6	0	その他 (6. 3提供の食事)	カンピロバクター・ジェジュニ	飲食店	営業停止2日間
2	27. 6.22	15	12	0	その他 (6.19提供の食事)	カンピロバクター・ジェジュニ	飲食店	営業停止2日間
3	27. 9.18	22	15	0	その他 (9.14又は9.15提供の食事)	カンピロバクター・ジェジュニ	飲食店	なし
4	28. 3.26	9	4	0	その他 (3.23提供の食事)	カンピロバクター・ジェジュニ	飲食店	営業停止2日間

表7 食品細菌検査（平成27年4月～平成28年3月）

魚介類及びその加工品	不適件数	検査件数	一般細菌数	大腸菌群	黄色ブドウ球菌	サルモネラ属菌	セレウス菌	ウェルシュ菌	EHEC0157	EHEC	大腸菌	E・coli	E・coli(MPN)	腸炎ビブリオ	腸炎ビブリオ(MPN)	真菌類	カンピロバクター	NAGビブリオ	コレラ菌	赤痢菌	その他の食中毒菌	リステリア菌	ボツリヌス菌	緑膿菌	腸球菌	クロストリジウム属菌	その他	総項目数
生食用生かき	0 (0.0%)	3	0	-	-	0	-	-	-	-	-	-	0	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	0
生食用鮮魚介類	15 (32.6%)	46	2	15	1	0	0	-	-	-	-	0	0	0	0	-	-	0	0	0	-	1	-	-	-	-	19	
魚肉わり製品	0 (0.0%)	6	0	0	0	0	-	-	-	-	-	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	
その他	17 (36.2%)	47	6	14	2	0	-	-	0	0	0	2	1	0	0	-	-	0	0	0	-	0	-	-	-	-	25	
食肉	0 (0.0%)	79	0	35	0	11	-	-	0	0	0	4	0	0	0	-	11	-	-	-	-	5	-	-	-	-	66	
生食用食肉	0 (0.0%)	7	-	-	-	0	-	-	0	0	0	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	
食肉製品	0 (0.0%)	24	0	0	0	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	1	1	
卵	0 (0.0%)	4	0	0	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	
卵加工品	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	
乳	0 (0.0%)	3	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	
乳製品	0 (0.0%)	8	0	0	0	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	
乳類加工品	0 (0.0%)	1	-	-	-	0	-	-	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	0	
穀類・豆類及びその加工品	0 (0.0%)	23	0	1	0	0	0	-	-	-	-	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
めん類	9 (29.0%)	31	6	4	1	0	17	-	-	-	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	28	
豆腐	0 (0.0%)	14	0	1	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
その他	17 (37.8%)	45	15	16	0	0	0	-	0	0	2	3	0	0	0	-	6	-	-	-	-	-	0	-	-	-	6	
漬物	0 (0.0%)	90	0	3	0	0	1	-	0	0	2	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6	
野菜・果物及びその加工品	25 (33.8%)	74	7	18	1	0	1	-	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	27	
弁当類	10 (19.6%)	51	2	9	1	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12	
野菜・果物・その他	47 (13.3%)	353	38	98	4	0	19	0	0	0	0	7	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	166	
調理パン	25 (6.7%)	373	3	27	1	0	4	0	0	0	0	1	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	36	
非加熱そうざい	0 (0.0%)	4	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	
加熱そうざい	34 (24.8%)	137	7	35	3	0	2	-	0	0	0	2	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	49	
調味料(みそ・しょうゆ等)	0 (0.0%)	10	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	
菓子類	0 (0.0%)	13	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	
生菓子	0 (0.0%)	12	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	
菓子	0 (0.0%)	1	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	
清涼飲料水・粉末清涼飲料	0 (0.0%)	4	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	
冷凍食品	0 (0.0%)	12	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	
米菓	0 (0.0%)	1	0	0	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	
レトルト	0 (0.0%)	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	
その他の食品	0 (0.0%)	53	0	3	0	0	0	-	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	3	
ふきとり	29 (7.5%)	387	7	27	1	0	1	-	-	-	-	2	0	0	0	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	38	
手指拭取	15 (8.3%)	181	7	5	7	0	2	-	-	-	-	1	0	0	0	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	22	
その他	0 (0.0%)	64	0	10	0	0	0	-	-	-	-	0	0	0	0	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	10	
ふきん・おしぼり	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	
不適件数合計	243	100	322	11	47	0	0	0	4	22	0	1	0	0	0	6	11	0	0	0	0	6	0	0	0	0	10	
検査件数合計	2,148	1,994	1,989	1,842	1,387	711	62	402	286	123	1,302	5	135	44	12	86	45	45	47	32	37	8	2	6	10	10,614		
%	11.3	5.0	16.2	1.2	0.8	6.6	0.0	0.0	0.0	3.3	1.7	0.0	0.7	0.0	50.0	12.8	0.0	0.0	0.0	0.0	16.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0	

(2) 呼吸器・環境細菌担当

結核菌・レジオネラ属菌・溶血性レンサ球菌・インフルエンザ菌・百日咳菌などの呼吸器系細菌や髄膜炎菌等の検査ならびに研究を行っている。

ア 結核関連検査

(7) 塗抹・培養検査・遺伝子検査

結核登録患者管理者検診、結核患者接触者健診対象者に対して塗抹・培養検査を実施している。

平成 27 年度は 121 件の搬入があり、このうち 3 件は遺伝子検査として LAMP 法を行った。結果は、塗抹陽性 0 件、培養陽性 1 件、LAMP 法陽性 0 件であった。

(4) I G R A 検査

結核患者接触者健診において T-SPOT・TB 検査を実施している。年間の検査件数は 741 件だった。検査結果は、表 1 に示すとおり、陽性 44 件(5.94%)、陽性判定保留 21 件(2.84%)、陰性判定保留 37 件(4.99%)、判定不可 17 件(2.29%)、陰性 622 件(83.94%)であった。

(5) 結核分子疫学解析

川崎市分子疫学調査として、平成 25 年度より川崎市内で発生届のあった患者の菌株を収集し、JATA15-VNTR 法で遺伝子解析を行っている。

平成 27 年度は菌株 80 株が搬入され、遺伝子解析を行った。更に、患者の疫学情報とあわせて分析を行い、菌バンクとしてデータを蓄積した。

また、特定の患者同士の突合依頼が 8 件あり、分析を行った。

イ レジオネラ属菌検査

「レジオネラ症防止指針」に記載されている「ろ過濃縮法」を用い検査を実施した。患者由来の喀痰や環境検体、浴槽水、冷却塔水等の環境水中のレジオネラ属菌の分離培養、また、遺伝子検査として LAMP 法を行った。

レジオネラ属菌検査の総数は 354 件、LAMP 法は 57 件だった。各検査材料別の件

数および血清型は表 2 に示すとおりである。

ウ 感染症発生動向調査

(7) 百日咳菌検査

平成 27 年度の検査依頼はなかった。

(4) A 群溶血性レンサ球菌検査

平成 27 年度は 13 件の搬入があった。

T 型別は T1 が 4 件、T3 が 1 件、T4 が 3 件、T12 が 1 件であった(表 3)。

エ 感染症細菌検査

髄膜炎菌 3 株、インフルエンザ菌 4 株、劇症型溶血性レンサ球菌 10 株の菌株が搬入され、検査を行った。

髄膜炎菌は *Neisseria meningitidis* 血清群 Y が 1 株、non-typable が 2 株であった。

インフルエンザ菌は 4 株すべて non-typable (NTHi) であり、劇症型溶血性レンサ球菌は、A 群 6 株、B 群 1 株、C 群 1 株、G 群 2 株であった。

表1 T-SPOT・TB検査

依頼件数	陽性	陽性判定保留	陰性判定保留	陰性	判定不可
741	44(5.94%)	21(2.84%)	37(4.99%)	622(83.94%)	17(2.29%)

表2 レジオネラ属菌検出状況

		環境					感染症		計
		浴槽水	シャワー水	冷却塔水	採暖槽水・プール	その他	喀痰	患者関連	
<i>L.pneumophila</i>	SG1	4 ^{**}	2 ^{**}		2 ^{**}		3	2 ^{**}	13 ^{**}
	SG2								
	SG3				4 ^{**}			1 ^{**}	5 ^{**}
	SG5	3 ^{**}			3 ^{**}			2 ^{**}	8 ^{**}
	SG6	2 ^{**}			4 ^{**}				6 ^{**}
	SG7							2	2
	SG8	1	1		1 ^{**}				3 ^{**}
	SG9	1							1
	SG10								0
	SG11								0
	SG12	1 ^{**}							1 ^{**}
		血清群不明	2						
計		14	3	0	14	0	3	7	41
総検体数		143	130	0	42	6	6	27	354

※同一検体より複数の血清群が分離されたもの

表3 A群溶血性レンサ球菌 T 型別

区分	T 型別					計
	T1	T3	T4	T12	型別不能	
件数	4	1	3	1	3	12

(3) ウイルス・衛生動物担当

ウイルス・衛生動物検査担当では、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（感染症法）」に基づく感染症発生動向調査事業ならびに感染症対策における積極的疫学調査等により採取された検体のウイルス、リケッチア及びクラミジア検査、「食品衛生法」に基づくノロウイルス等食中毒起因ウイルス検査及び衛生動物検査を行っている。

ア 感染症発生動向調査事業におけるウイルス検査

市内定点医療機関において咽頭結膜熱、手足口病、無菌性髄膜炎、インフルエンザ、感染性胃腸炎ならびに脳炎・脳症等と診断された患者から採取された 288 検体について、細胞によるウイルス分離培養、PCR等で検査を行ったところ 226 件からウイルスが検出された。その月別件数を表 1、疾患別件数を表 2 に示した。

イ 感染症対策におけるウイルス検査

(7) 集団かぜ患者のインフルエンザ検査

小・中学校の集団かぜ初発患者から鼻腔ぬぐい液を採取し、PCR及びウイルス分離培養にて検査を行った。その結果、8 集団でインフルエンザウイルスが検出された（表 3）。

(4) 発熱発疹性ウイルス検査

麻しんウイルス疑い症例における病原ウイルス検索のため、患者 20 名の検体について RT-PCR+シーケンス法を行った。その結果、麻しんウイルス 4 例が検出された（表 4）。

(ウ) デングウイルス検査

海外渡航歴ならびに国内発生事例においてデングウイルス感染を疑う患者 15 名について RT-PCR 法ならびにリアルタイム PCR 法による検査を行ったところ、デングウイルスが 3 例検出された（表 5）。

(イ) A 型肝炎ウイルス検査

医療機関において A 型肝炎と診断され

た患者等 110 名について RT-PCR を行ったところ、16 名から A 型肝炎ウイルスが検出された（表 6）。

(オ) リケッチア・クラミジア検査

ツツガムシ病・日本紅斑熱が疑われる患者 5 名について PCR を行ったところ、1 名から日本紅斑熱群リケッチアが検出された（表 7）。

ウ ライトトラップによる蚊の捕獲と蚊媒介ウイルス検査

市内 7 箇所 8 地点の保健所等でライトトラップを設置し、平成 27 年 5 月から 10 月まで蚊を毎週 1 回捕集した。種別した雌蚊 167 プールについてウエストナイルウイルスの保有状況を、また、ヒトスジシマカについてはデングウイルス及びチクングニヤウイルスの保有状況も併せて調査した。その結果、ウイルスは検出されなかった（表 8）。

エ 食中毒等起因ウイルスならびに食品等のウイルス検査

食中毒等で搬入された 226 検体についてリアルタイム PCR 及び RT-PCR を行ったところ、ノロウイルス 115 件が検出された（表 9）。また、食中毒に伴う食品検査ならびに市内に流通している食品（生かき）等 62 検体について RT-PCR を行ったところ、ノロウイルスは検出されなかった（表 10）。

表1 感染症発生動向調査におけるウイルス検出状況（月別）

発症年月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
検査件数	9	6	15	17	5	9	16	21	10	66	88	26	288
検出数	6	2	10	10	3	8	6	7	7	65	82	20	226
インフルエンザウイルスAH1pdm09									2	31	45	6	84
インフルエンザウイルスAH3			2			1		3		9	4	1	20
インフルエンザウイルスBビクトリア系統	1							1		9	12	4	27
インフルエンザウイルスB山形系統	1	1	1						1	10	17	7	38
インフルエンザウイルスB系統不明											1		1
RSウイルス									1				1
ムンプスウイルス	1		1							3	1		6
ヒトメタニューモウイルス		1											1
アデノウイルス2型								1					1
アデノウイルス3型						2		1	1				4
アデノウイルス4型								1					1
アデノウイルス31型							1						1
アデノウイルス37型			1										1
アデノウイルス53型										2	1		3
アデノウイルス56型												1	1
コクサッキーウイルスA5型			1	1									2
コクサッキーウイルスA6型				4		3	1						8
コクサッキーウイルスA10型				1									1
コクサッキーウイルスA16型	2		3	2		1							8
エコーウイルス9型					1								1
エコーウイルス16型	1												1
エンテロウイルス68型						1							1
ヒトパレコウイルス1型			1										1
ヒトパレコウイルス3型					2								2
バルボウイルスB19				1									1
サイトメガロウイルス				1									1
水痘ウイルス												1	1
ヘルペスウイルス7型							4				1		5
ロタウイルスG2P[4]									1				1
ノロウイルスGⅡ.3									1				1
アストロウイルス1型										1			1

表2 感染症発生動向調査におけるウイルス検出状況（疾患別）

	インフルエンザ	ヘルパンギーナ	手足口病	咽頭結膜熱	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	流行性耳下腺炎	感染性胃腸炎	脳炎・脳症	合計
検出数	170	3	16	4	6	4	6	4	13	226
インフルエンザウイルスAH1pdm09	84									84
インフルエンザウイルスAH3	20									20
インフルエンザウイルスB型外リア系統	27									27
インフルエンザウイルスB山形系統	38									38
インフルエンザウイルスB系統不明	1									1
RSウイルス								1		1
ムンプスウイルス							6			6
ヒトメタニューモウイルス								1		1
アデノウイルス2型								1		1
アデノウイルス3型				3	1					4
アデノウイルス4型					1					1
アデノウイルス31型								1		1
アデノウイルス37型					1					1
アデノウイルス53型				1	2					3
アデノウイルス56型					1					1
コクサッキーウイルスA5型		2								2
コクサッキーウイルスA6型			7						1	8
コクサッキーウイルスA10型		1								1
コクサッキーウイルスA16型			8							8
エコーウイルス9型						1				1
エコーウイルス16型						1				1
エンテロウイルス68型			1							1
ヒトパレコウイルス1型								1		1
ヒトパレコウイルス3型								2		2
パルボウイルスB19								1		1
サイトメガロウイルス						1				1
水痘ウイルス						1				1
ヘルペスウイルス7型								5		5
ロタウイルスG2P[4]								1		1
ノロウイルスGⅡ.3								1		1
アストロウイルス1型								1		1

表3 集団かぜ患者のインフルエンザ検査

検体採取日	学校名	検体数	インフルエンザウイルス検査				ウイルス型
			AH1pdm09	A香港型	B型山形系統	B型外リア系統	
H27.6.29	川崎区中学校	2	0/2	2/2	0/2	0/2	A香港型
H28.1.19	高津区小学校	3	3/3	0/3	0/3	0/3	AH1pdm09
H28.1.20	宮前区小学校	3	0/3	0/3	3/3	0/3	B型山形系統
H28.1.21	多摩区小学校	5	0/5	5/5	0/5	0/5	A香港型
H28.1.25	中原区小学校	5	0/5	0/5	0/5	5/5	B型外リア系統
H28.1.27	麻生区小学校	5	3/5	0/5	0/5	0/5	AH1pdm09
H28.1.27	幸区小学校	5	5/5	0/5	0/5	0/5	AH1pdm09
H28.2.2	川崎区小学校	3	3/3	0/3	0/3	0/3	AH1pdm09

表4 発熱発疹性ウイルス検査

検査年月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
検査件数	3	3	5	4	1	1	1	0	0	1	1	0	20
麻疹ウイルスD8		2	1										3
麻疹ウイルスD9	1												1

表5 デングウイルス検査

検査年月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
検査件数	1	0	1	1	3	6	0	0	0	0	1	2	15
デングウイルス1型	1												1
デングウイルス2型						1							1
デングウイルス3型					1								1

表6 A型肝炎ウイルス検査

検査年月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
検査件数	11	86	4	4	0	0	0	0	1	2	1	1	110
A型肝炎ウイルス1A	6	3	2						1	1	1	1	15
A型肝炎ウイルス3A	1												1

表7 リケッチア・クラミジア検査

検査年月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
検査件数	0	0	0	1	3	1	0	0	0	0	0	0	5
ツツガムシ群リケッチア													0
日本紅斑熱群リケッチア				1									1
オウム病クラミジア													0

表8 ライトトラップにおけるウエストナイルウイルス、デングウイルス
及びチクングニアウイルスの検査数と蚊の種別捕集数

採取年月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	総計
川崎保健所	5	9	10	10	7	4	45
幸保健所	4	12	4	5	4	3	32
中原保健所	1	3	3	6	3	2	18
高津保健所	2	9	4	7	6	0	28
宮前保健所	2	5	5	5	3	2	22
多摩保健所	0	4	0	1	0	2	7
麻生保健所	1	3	4	4	1	2	15
合計	15	45	30	38	24	15	167

蚊の種類(雌雄合計匹数)	5月	6月	7月	8月	9月	10月	総計
アカイエカ群	7	51	18	26	16	3	121
ヒトスジシマカ	56	418	410	881	494	53	2312
コガタアカイエカ	0	0	0	0	2	1	3
キンバラナガハシカ	1	1	0	0	0	0	2
ヤマトヤブカ	0	8	1	0	0	3	12
カラツイエカ	0	0	1	0	0	0	1
総計	64	478	430	907	512	60	2451
ウエストナイルウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
デングウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
チクングニアウイルス	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性

表9 食中毒起因ウイルス検査

検査年月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
検査件数	19	6	51	11	2	13	22	17	7	23	14	41	226
検出遺伝子型	13	1	22	1	0	2	11	15	3	22	11	14	115
ノロウイルスG I.2	7												7
ノロウイルスG I.3	2		11	1		2							16
ノロウイルスG I.5												1	1
ノロウイルスG I.6										1			1
ノロウイルスG I.8							1						1
ノロウイルスG I.9							1						1
ノロウイルスG I型不明									1				1
ノロウイルスG II.2							2	6					8
ノロウイルスG II.3			3					4	1	1			9
ノロウイルスG II.4			1					1	1	17	2	10	32
ノロウイルスG II.17	4	1	7				6	4		3	8	2	35
ノロウイルスG II.21							1						1
ノロウイルスG II型不明											1	1	2

表10 食品からのノロウイルス検査

検査年月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
検査件数	0	0	19	0	0	0	7	0	9	0	4	23	62
ノロウイルス													0

【第3章 試験検査】

1 月別検査件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
結核	分離・同定・検査・検出	7	8	14	11	4	11	10	11	16	9	9	10	120
	核酸検査	24	1	4	9	3	3	17	6	9	7	0	1	84
	化学療法剤に対する耐性検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	梅毒	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
性病	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	分離・同定・検出	30	36	68	74	72	45	55	37	25	95	99	41	677
	ウイルス	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2
	リケッチア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
病原性微生物の動物試験	クラミジア・マイコプラズマ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	ウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	リケッチア	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	クラミジア・トロコモテイス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
原虫・寄生虫等	病原性微生物の動物試験	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	原虫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	寄生虫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	そ族・節足動物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
食中毒	真菌・その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	病原性微生物検査	26	4	66	11	8	20	16	1	5	11	18	41	227
	細菌	19	8	51	11	2	13	22	17	7	23	14	41	228
	ウイルス	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
臨床検査	核酸検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	理化学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	血液検査(血液一般検査)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
生化学検査	エイズ(HIV)検査	1	2	1	0	2	1	1	1	1	2	0	0	12
	HBs抗原・抗体検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他HCV	51	31	56	53	70	83	101	63	51	90	53	86	788
	先天性代謝異常検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
尿検査	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	尿一般	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	神経芽細胞腫	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アレルギー検査(抗原検査・抗体検査)	アレルギー検査(抗原検査・抗体検査)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	
食品等検査	微生物学的検査	180	134	306	223	247	147	362	220	167	171	112	2,320	
	理化学的検査(残留農薬・食品添加物)	39	44	58	85	53	43	62	99	64	26	82	710	
	動物を用いる試験	2	1	1	0	2	0	1	0	2	0	0	3	12
	その他(ウイルスも含む)	0	4	5	0	31	33	5	0	3	0	0	0	81
	(上記以外) 細菌検査	分離・同定・検出	13	19	48	45	49	53	41	38	29	5	9	366
		核酸検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		抗体検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		化学療法剤に対する耐性検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		医薬品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		医薬部外品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	医薬品・家庭用品等検査	化粧品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		医療用品	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		毒劇物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
家庭用品		0	0	0	0	0	0	0	0	0	35	27	62	
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	25	25	
水道等水質検査		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
栄養関係検査		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
廃棄物関係検査	水道原水	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	細菌学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	理化学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	生物学の検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	細菌学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	理化学的検査	0	35	5	0	22	40	7	13	53	2	3	11	121
	生物学の検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	細菌学的検査	0	0	25	93	136	103	79	80	38	29	39	6	628
	理化学的検査	0	0	5	42	75	35	20	11	18	5	12	0	223
	一般廃棄物	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
産業廃棄物	理化学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	生物学の検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	細菌学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	理化学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
環境・公害関係検査	大気検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射能	水質検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
温泉(鉱泉)泉質検査	騒音・振動	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
花粉	土壌・低質検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射能	環境生物検査	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射能	藻類・プランクトン・魚介類	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射能	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射能	一般室内環境	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射能	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
放射能	環境試料(雨水・空気・土壌等)	2	3	2	2	2	2	3	2	2	2	2	3	27
放射能	食品	19	22	28	21	27	25	22	27	23	32	21	21	288
放射能	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2 依頼別・項目別検査件数

		依頼によるもの				依頼によらないもの(5)	検査件数合計	検査項目又は検体名	延検査項目数(小計)	
		住民(1)	保健所(2)	保健所以外の行政機関(3)	その他(医療機関、学校、事務所)(4)					
結核	分離・同定・検出	0	120	0	0	0	120		44	
	核酸検査	0	84	0	0	0	84		40	
	化学療法剤に対する耐性検査	0	0	0	0	0	0		0	
性病	梅毒	0	0	0	0	0	0		(0)	
		1 STS定性							0	
		2 STS定量							0	
		3 TPHA定性							0	
		4 TOHA定量							0	
		5 梅毒(ELISA)							0	
	6 その他							0		
	その他	0	0	0	0	0	0		(0)	
1 淋病							0			
2 その他							0			
ウイルス・リケッチア等検査	ウイルス	0	677	0	0	0	677		(1,065)	
		1 細胞培養							388	
		2 鶏卵培養							0	
		3 酵素抗体							0	
		4 蛍光抗体							0	
		5 遺伝子増幅							677	
		6 その他							0	
	分離・同定・検出	リケッチア	0	2	0	0	0	2		(2)
			1 細胞培養							0
			2 鶏卵培養							0
			3 酵素抗体							0
			4 蛍光抗体							0
			5 遺伝子増幅							2
	6 その他							0		
	クラミジア・マイコプラズマ	0	0	0	0	0	0	0		(0)
			1 細胞培養							0
			2 鶏卵培養							0
			3 酵素抗体							0
			4 蛍光抗体							0
			5 遺伝子増幅							0
	ウイルス	0	0	0	0	0	0	0		(0)
			1 中和試験							0
			2 HI試験							0
3 CP試験									0	
4 酵素抗体									0	
5 ワイル・フェリックス反応									0	
6 その他							0			
抗体検査	リケッチア	0	0	0	0	0	0		0	
		クラミジア・トラコマティス	0	0	0	0	0	0		(0)
			1 性器クラミジア抗体IgA							0
							IgG	0		
病原微生物の動物試験	0	0	0	0	0	0		0		

		依頼によるもの				依頼によらないもの(5)	検査件数合計	検査項目又は検体名	延検査項目数(小計)	
		住民(1)	保健所(2)	保健所以外の行政機関(3)	その他(医療機関、学校、事務所)(4)					
原虫・寄生虫	原虫	0	0	0	0	0	0	(0)		
								1 アメーバー赤痢	0	
								2 その他	0	
	寄生虫	0	0	0	0	0	0	(0)		
								1 蟻虫	0	
								2 その他2	0	
	そ族・節足動物	0	0	0	0	0	0	(0)		
								1 害虫動物	0	
								2 殺虫効力試験	0	
								3 生態習性試験	0	
							4 その他	0		
真菌・その他	0	0	0	0	0	0	0			
食中毒	病原微生物検査	細菌	0	227	0	0	0	227	(4201)	
									1 食中毒病原菌14菌種	4,158
									2 腸管出血大腸菌O157	0
									3 その他の細菌	43
		0	228	0	0	0	0	228	(228)	
								1 SRSV電子顕微鏡	0	
								2 NV遺伝子増幅	228	
								3 その他の細菌	0	
核酸検査	0	0	0	0	0	0	0	0		
理化学的検査	0	0	0	0	0	0	0	0		
その他	0	0	0	0	0	0	0	0		
臨床検査	血液検査(血液一般検査)	0	0	0	0	0	0	0		
	血液等検査	エイズ(HIV)検査	0	12	0	0	0	12	(12)	
									1 PA法	0
									2 確認試験(W,B)	12
		HBs抗原、抗体検査	0	0	0	0	0	0	(0)	
									1 HBs抗原	0
									2 HBs抗体	0
							3 HBe抗原	0		
							4 HBe抗体	0		
							5 IgMHBc抗体	0		
							6 その他	0		
	その他	0	788	0	0	0	0	788	(306)	
								1 HCV抗体	0	
								2 QFT	0	
							3 その他	306		
生化学検査	先天性代謝異常検査	0	0	0	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0	0	0	0		
尿検査	尿一般	0	0	0	0	0	0	0		
	神経芽細胞腫	0	0	0	0	0	0	0		
	その他	0	0	0	0	0	0	0		
アレルギー検査(抗原検査・抗体検査)	0	0	0	0	0	0	0			
その他	0	0	0	0	0	0	0			

	依頼によるもの				依頼によらないもの(5)	検査件数合計	検査項目又は検体名	延検査項目数(小計)	
	住民(1)	保健所(2)	保健所以外の行政機関(3)	その他(医療機関、学校、事務所)(4)					
食品等検査	微生物学的検査	0	1,774	479	49	18	2,320	(12,187)	
	食品細菌	0	1,626	479	49	18	2,172	(10,491)	
								1 生菌数	1,994
								2 大腸菌数	1,987
								3 その他の細菌	6,510
	食中毒細菌(食品・ふき取り等)	0	85	0	0	0	85	(1,633)	
								1 食中毒病原菌14菌種	1,617
								2 腸管出血大腸菌O157	0
								3 その他の細菌	16
	食中毒ウイルス(食品等)	0	63	0	0	0	63	(63)	
								1 電子顕微鏡	0
								2 遺伝子増幅	63
								3 その他	0
	理化学的検査(残留農薬・食品添加物等)	0	206	92	21	391	710	(34,070)	
	食品添加物	0	177	62	21	237	497	(3,829)	
1 食品添加物								678	
2 動物用医薬品								2,978	
3 遺伝子組換え食品								36	
4 その他								137	
残留農薬	0	29	30	0	154	213	(30,241)		
							1 残留農薬	30,241	
							2 金属類	0	
							3 その他	0	
動物を用いる試験	0	2	9	0	1	12	25		
その他	0	22	2	0	57	81	(507)		
							1 金属類	465	
							2 炭化水素等	0	
							3 その他	42	
(上記以外)細菌検査	分離・同定・検出	0	362	0	1	3	366	(665)	
								1 赤痢菌	43
								2 サルモネラ(腸・パラ含む)	24
								3 病原大腸菌	128
								4 腸炎ビブリオ	20
								5 コレラ菌	20
								6 病原ブドウ球菌	12
								7 カンピロバクター・ジエジユ/コリー	40
								8 腸管出血大腸菌O157	134
								9 その他の腸管病原菌	164
								10 レンサ球菌	63
	11 その他の細菌	17							
核酸検査	0	0	0	0	0	0	0		
抗体検査	0	0	0	0	0	0	0		
化学療法剤に対する耐性検査	0	0	0	0	0	0	0		

	依頼によるもの				依頼によらないもの(5)	検査件数合計	検査項目又は検体名	延検査項目数(小計)	
	住民(1)	保健所(2)	保健所以外の行政機関(3)	その他(医療機関、学校、事務所)(4)					
医薬品・家庭用品等検査	医薬品	0	0	0	0	0		0	
	医薬部外品	0	0	0	0	0		0	
	化粧品	0	0	0	0	0		0	
	医療用具	0	0	0	0	0		0	
	毒劇物	0	0	0	0	0		0	
	家庭用品	0	0	31	0	31	62	(62)	
							1 ホルムアルデヒド	31	
							2 有機水銀化合物	31	
							3 トルフェニル錫化合物	0	
							4 トリブチル錫化合物	0	
							5 酸/アルカリ定量	0	
						6 容器試験	0		
						7 テトラクロロエチレン	0		
						8 トリクロロエチレン	0		
						9 メタノール	0		
						10 蛍光	0		
						11 その他	0		
その他	0	0	21	0	4	25	1 健康食品等	121	
栄養関係検査	0	0	0	0	0	0	1 成分検査	0	
水道等水質検査	水道原水	細菌学的検査	0	0	0	0	0		0
		理化学的検査	0	0	0	0	0		0
		生物学的検査	0	0	0	0	0		0
	飲用水	細菌学的検査	0	121	0	0	0	121	(231)
								1 一般細菌数	109
								2 大腸菌等	99
								3 その他	23
		理化学的検査	0	109	0	0	70	179	(1,396)
								1 井戸水	980
								2 貯水槽水	110
							3 船舶水	0	
							4 簡易水道水	0	
							5 専用水道水	0	
						6 水道直結栓水	0		
						7 その他	306		
(プール水等を含む)	細菌学的検査	0	628	0	0	0	628	(849)	
							1 一般細菌数	221	
							2 大腸菌群	221	
							3 その他	407	
	理化学的検査	0	223	0	0	0	223	(223)	
							1 プール水	87	
							2 その他	136	

		依頼によるもの				依頼によらないもの(5)	検査件数合計	検査項目又は検体名	延検査項目数(小計)		
		住民(1)	保健所(2)	保健所以外の行政機関(3)	その他(医療機関、学校、事務所)(4)						
廃棄物関係検査	一般廃棄物	細菌学的検査	0	0	0	0	0	0	0		
		理化学的検査	0	0	0	0	0	0	0		
		生物学的検査	0	0	0	0	0	0	0		
	産業廃棄物	細菌学的検査	0	0	0	0	0	0	0		
		理化学的検査	0	0	0	0	0	0	0		
		生物学的検査	0	0	0	0	0	0	0		
環境・公害関係	大気汚染	SO ₂ ・NO ₂ ・O _x 等	0	0	0	0	0	0	0		
		浮遊粒子状物質	0	0	0	0	0	0	0		
		降下煤塵	0	0	0	0	0	0	0		
		有害化学物質・重金属	0	0	0	0	0	0	0		
		酸性雨	0	0	0	0	0	0	0		
		その他	0	0	0	0	0	0	0		
	水道検査	公共用水		0	0	0	0	0		(0)	
			1 河海水底質							0	
			2 その他							0	
		工場・事業場排水		0	0	0	0	0	0		(0)
			1 工場・事業場排水							0	
			2 その他							0	
			浄化槽放流水	0	0	0	0	0	0	0	
			その他	0	0	0	0	0	0		(0)
	1 一般細菌数							0			
	2 大腸菌群							0			
	3 その他							0			
	騒音・振動	0	0	0	0	0	0	0	0		
	土壌・低質検査	0	0	0	0	0	0	0	0		
	環境生物検査	藻類・プランクトン・魚介類	0	0	0	0	0	0	0		
		その他	0	0	0	0	0	0	0		
一般室内環境	0	0	0	0	0	0	1 落下細菌	0			
その他	0	0	0	0	0	0		0			
放射能	環境試料(雨水・空気・土壌等)		0	0	27	0	0	27		(54)	
		1 セシウム134							27		
		2 セシウム137							27		
		3 ヨウ素131							0		
	食品		0	0	288	0	0	288		(588)	
		1 セシウム134							288		
		2 セシウム137							288		
		3 ヨウ素131							12		
	その他		0	0	0	0	0	0		(0)	
		1 セシウム134							0		
2 セシウム137								0			
3 ヨウ素131								0			
温泉(鉱泉)泉質検査	0	0	0	0	0	0		0			
その他	0	0	0	0	0	0		0			
計	0	5,585	949	71	575	7,180		56,876			

3 食品別検査項目内訳

(1) 食品別検査項目内訳（理化学検査）

区分	項目	総検体数	総項目数	着色料	保存料	発色剤	漂白剤	甘味料	強化剤	殺菌料	酸化防止剤	品質保持剤	防かび剤	酸味料	その他の添加物	不許可添加物	水分活性	品質検査	シアン化合物	マイコトキシン	魚介毒	塩分濃度	酸価過酸化物価	動物用医薬品	規格試験	食品成分	P C B	残留農薬	放射能	重金属	遺伝子組換え食品検査	特定原材料検査	その他					
魚介類		88	274				2														20			98			2			130	16			6				
魚介類	ねり製品	12	34	6	13	5		4																					6									
加工品	その他	31	102	1	12	1	3				16				8								43						18									
食肉及びその加工品	食肉	13	198																				196						2									
卵及びその加工品	食肉製品	32	132	7	21	19																	73						12									
穀類及びその加工品	卵及びその加工品	12	171																				167						4									
野菜果実類及び漬物	穀類及びその加工品	54	88		6		2				2	16				6				1									34									
その加工品	野菜果実類及び漬物	37	97	3	18		1	6			1					6						14							12									
豆類及びその加工品	その加工品	143	2,791	7	13		5	2			1		28			14													2,598	114					9			
乳及びその加工品	豆類及びその加工品	12	18	4																									12									
乳製品	乳及びその加工品	30	66																										54									
調味料	その加工品	14	32		4										4	1							5	10					8									
菓子類	調味料	13	53	1	40		1	2			2					7																						
清涼飲料水	菓子類	24	72	4	12		4	10			2					7													10			3	16			4		
酒精飲料	清涼飲料水	30	103	7	10		1	8								6													20									
油脂類	酒精飲料	7	31	5	5		5	5								7													4									
健康食品	油脂類	2	4																																			
その他の食品	びん詰・缶詰食品	17	53	6	10	1	2				11					9													14									
食品添加物	健康食品	0	0																																			
器具及び容器包装	その他の食品	1	2																										2									
おもちゃ	食品添加物	0	0																																			
その他	器具及び容器包装	3	6																																			
合計	おもちゃ	4	20																						10													11
	その他	6	11																																			
	合計	585	4,358	51	164	26	26	37	0	0	35	16	28	0	4	63	0	48	2	4	20	14	0	582	54	0	2	2,598	456	58	24	16		30				

(2) 食品別検査項目内訳 (食品細菌検査)

区分	項目	総検体数	総項目数	一般細菌数	大腸菌群	黄色ブドウ球菌	サルモネラ	セレウス菌	ウェルシュ菌	EHEC0157	EHEC	大腸菌	E・coli	E・coli (MPN)	腸炎ビブリオ	腸炎ビブリオ (MPN)	真菌類	カンピロバクター	NAGビブリオ	コレラ菌	赤痢菌	その他の食中毒菌	リステリア菌	ボツリヌス菌	緑膿菌	腸球菌	クロストリジウム属菌	その他	
																													3
魚介類及びその加工品	生食用生かき	3	14	3			1							3		3						1							
	生食用鮮魚介類	46	315	40	40	40	26	2						30	9	41			10	10		11							
食肉及びその加工品	魚肉ねり製品	6	36	6	6	6	2						6		4														
	その他	47	265	42	42	41	12		1				28	40					3	3		3							
卵及びその加工品	食肉	79	407	51	51	8	77		59	19	3	16	2					27											
	生食用食肉	7	35				7		5	5	4							7											
穀類・豆類及びその加工品	食肉製品	24	141	17	17	21	23		8	4																	6		
	卵	4	10	1			5																						
野菜・果物及びその加工品	卵加工品	0	0																										
	乳	3	9	3	3																								
調味料(みそ・しょうゆ等)	乳製品	8	40	5	5	3	5		5	3		3																	
	乳類加工品	1	5						1	1																			
菓子類	めん類	23	142	23	23	23	12	18																					
	豆腐	31	199	31	31	31	29	26																					
そうざい類	その他	14	82	14	14	13	9	8																					
	漬物	45	332	34	35	35	22	9	41	43	14	27	9					12											
生菓子類	野菜・果物・その他	90	344	17	17	8	31	4	48	46	71	6												6					
	弁当類	74	492	74	74	74	74	30	7	7			2	5															
清涼飲料水・粉末清涼飲料	調理パン	51	328	51	51	51	51	22																					
	非加熱そうざい	353	2,608	353	353	347	346	223	16	88	87	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14
米菓	加熱そうざい	373	2,659	373	373	341	371	172	46	108	60	17	306	22															
	調味料(みそ・しょうゆ等)	4	21	4	4	1	1	3					3																
レトルト	生菓子	137	875	137	137	137	136	65		3	3	120																	
	菓子	10	67	10	10	10	10	5		1	1	10																	
ふきとり	清涼飲料水・粉末清涼飲料	13	44	12	13				1	1															2	2			
	冷凍食品	12	48	12	9	1	5	1					7																
その他	米菓	1	6	1	1	1	1																						
	レトルト	4	8																										
ふきとり	その他	53	285	48	48	37	35	15		24	6	17																	
	器具拭取	387	1,807	387	387	378	64	48					26																
ふきん・おしぼり	手指拭取	181	831	181	181	180	9	44				4																	
	その他	64	307	64	64	64	55	22	16																				
合計		2,148	10,614	1,994	1,989	1,842	1,387	711	62	402	286	123	1,302	5	135	44	12	86	45	45	47	32	37	8	2	2	6	10	

【第4章 調査研究】

1 平成27年度調査研究課題一覧

平成27年度に当研究所で実施した調査研究課題を次に示す。

平成27年度調査研究課題一覧

研究課題名	担当	研究の種類
食品中の食品添加物分析法の設定(発色剤亜硝酸ナトリウムの分析法)	食品	共同研究
食品への毒物混入事件時における衛生研究所での「人体試料の検査手法」の標準化	食品	共同研究
カビ毒の実態調査等に関する研究(継続)	食品	共同研究
チョウセンアサガオの誤食疑い事例における原因究明検討	食品	経常研究
準特定原材料(大豆)検査の健康食品等への適用検討及び実態調査	食品	共同研究
家庭用品における有機水銀スクリーニング検査法の検討	水質・環境	経常研究
環境水中ウイルスの定量方法について	水質・環境	共同研究
QuEChERS法を応用した食品中の残留農薬検査法の検討	残留農薬・放射能	経常研究
生体試料中の農薬分析法の検討	残留農薬・放射能	経常研究
川崎市で分離されたカンピロバクターの血清型別と薬剤耐性状況について	消化器・食品細菌	経常研究
マルチプレックスPCR法を用いた、病原大腸菌における病原性関連遺伝子検出法の検討	消化器・食品細菌	経常研究
市内流通鮮魚介類におけるクドア属粘液胞子虫の保有状況について	消化器・食品細菌	共同研究
肺炎球菌の血清型特異的multiplex PCR法の検討	呼吸器・環境細菌	共同研究
レジオネラ属菌における分子疫学解析法の検討及び遺伝子検査法の検討	呼吸器・環境細菌	共同研究
感染性胃腸炎患者から検出されるロタウイルスのバイオインフォマティクス解析	ウイルス・衛生動物	経常研究
感染性胃腸炎を引き起こす新型アデノウイルス65型ならびに67型候補株の体内における感染機構の解明	ウイルス・衛生動物	共同研究
出血性膀胱炎を引き起こすアデノウイルス11型ならびに34型組換え株の遺伝子学的解析	ウイルス・衛生動物	共同研究
「迅速・網羅的病原体ゲノム解析法を基盤とした感染症対策ネットワーク構築に関する研究(厚生労働科学研究 黒田班)」の研究協力	ウイルス・衛生動物	共同研究
マーモセットにおける下痢症ウイルスの遺伝子学的解析	ウイルス・衛生動物	共同研究
「麻疹ならびに風疹排除およびその維持を科学的にサポートするための実験室検査に関する研究(厚生労働科学研究 竹田班)」の研究協力	ウイルス・衛生動物	共同研究
電流検出型DNAチップを用いた簡易自動検査技術における食中毒菌、ノロウイルス同時検出の検討	ウイルス・衛生動物	共同研究
下痢症ウイルス流行の分子疫学解析(先駆的分子疫学解析法の導入・普及)	ウイルス・衛生動物	共同研究
優れた導入効率もしくは独自の機能を持つ新規ウイルスベクターの作出とその応用	ウイルス・衛生動物	共同研究
ナノバイオマテリアル技術を利用した新興・再興感染症の超高速・高感度検出法の開発	ウイルス・衛生動物	共同研究

研究課題名	検査担当	研究の種類
感染症が疑われる患者検体を用いた感染症迅速診断キットに関する検討(追加・継続3)	ウイルス・衛生動物	受託研究
新規アデノウイルス感染症迅速診断キットにおける咽頭拭い検体を対象とした性能評価に関する研究	ウイルス・衛生動物	受託研究
ロタウイルスならびにアデノウイルス抗原検出試薬の検討に関する研究	ウイルス・衛生動物	受託研究
川崎市におけるワクチン予防可能疾患に対するワクチン接種率に関する研究	感染症情報センター	経常研究
川崎市における感染症拡大傾向の数理モデル構築に関する研究	感染症情報センター	共同研究
広域・複雑化する食中毒に対応する調査手法の開発に関する研究	感染症情報センター	共同研究
川崎市健康安全研究所における職員の麻疹抗体価調査	感染症情報センター	経常研究
インフルエンザ様疾患罹患時の異常行動に関する研究	所長	共同研究
データベースを用いたVPD(ワクチンで予防可能疾患)の小児における入院サーベイランスに関するパイロット研究	所長	共同研究
ワクチンによって予防可能な疾患のサーベイランス強化と新規ワクチンの創出等に関する研究	所長	共同研究
		計 34課題

※研究の種類について

研究の種類	内容	課題数
経常研究	職員の通常業務上からの発想に基づく研究	9
共同研究	国、地方公共団体、大学及び民間企業等と研究内容を分担し、共同で実施する研究	22
受託研究	他の機関から委託を受けて行う研究	3
合計		34

2 調査研究報告等実績一覧

平成27年度の調査研究成果の報告実績を次に示す。

(1) 平成27年度学会発表実績(口演発表)

○:発表者 下線:健康安全研究所職員

年月日	演題名	学会名	場所	発表者(共同研究者等も含む)
H27.9.12	川崎市における麻疹の発生状況	第78回神奈川県感染症医学会	横浜情報文化センター	○佐々木国玄, <u>三崎貴子</u> , <u>丸山 絢</u> , 小牧文代, 小泉祐子, 平岡真理子, 林 露子, <u>岡部信彦</u>
H27.9.12	川崎市で分離されたサルモネラ属菌の薬剤感受性について	第78回神奈川県感染症医学会	横浜情報文化センター	○湯澤栄子, 本間幸子, <u>窪村亜希子</u> , <u>小河内麻衣</u> , <u>安澤洋子</u> , <u>松尾千秋</u> , <u>岡部信彦</u>
H27.10.1	新規遺伝子型GII.P17を含むノロウイルスGII.17の遺伝子解析	第30回関東甲信静支部ウイルス研究部会	With You さいたま	○石川真理子, <u>松島勇紀</u> , <u>清水智美</u> , <u>駒根綾子</u> , <u>清水英明</u>
H27.10.19	川崎市における梅毒の発生状況について	平成27年度川崎市健康福祉研究発表会	川崎市役所 第4庁舎	○大嶋孝弘, <u>西村光世</u> , <u>丸山 絢</u> , <u>三崎貴子</u>
H27.10.19	「食品防御対策ガイドライン(食品製造工場向け)」について -厚生労働科学研究「食品防御の具体的な対策の確立と実行検証に関する研究」-	平成27年度川崎市健康福祉研究発表会	川崎市役所 第4庁舎	○赤星千絵, <u>荒木啓佑</u> , <u>岡部信彦</u>
H27.10.19	家庭用接着剤中のトリブチル錫化合物及びトリフェニル錫化合物試験における疑義事例について	平成27年度川崎市健康福祉研究発表会	川崎市役所 第4庁舎	○原田怜, <u>安宅香織</u> , <u>高居久義</u> , <u>小林亨</u> , <u>石丸陽子</u> , <u>福田依美子</u> , <u>平野有美</u>
H27.10.19	レジオネラ属菌における分子疫学解析法の検討	平成27年度川崎市健康福祉研究発表会	川崎市役所 第4庁舎	○ <u>澁谷雄亮</u> , <u>原 俊吉</u> , <u>宮下安子</u> , <u>松尾千秋</u>
H27.10.21 ~23	川崎市における肝炎意識調査のアンケート結果について	第64回日本感染症学会東日本地方会総会学術集会	ロイトン札幌	○ <u>三崎貴子</u> , <u>丸山 絢</u> , 小泉祐子, <u>岡部信彦</u>
H27.10.21 ~23	川崎市における無料肝炎ウイルス検査に関する疫学解析	第64回日本感染症学会東日本地方会総会学術集会	ロイトン札幌	○ <u>三崎貴子</u> , <u>丸山 絢</u> , 小泉祐子, <u>岡部信彦</u>
H27.10.23	腸管出血性大腸菌の分子疫学解析法の検討	第61回神奈川県公衆衛生学会	神奈川県総合医療会館	○ <u>小河内麻衣</u> , <u>安澤洋子</u> , <u>窪村亜希子</u> , <u>湯澤栄子</u> , 本間幸子, <u>松尾千秋</u> , <u>岡部信彦</u> , <u>佐藤弘康</u>
H27.10.29 ~30	日本に流通する食品中のT-2トキシン、HT-2トキシンおよびゼアラレノン汚染実態調査(平成26年度)	第110回日本食品衛生学会学術講演会	京都パルスプラザ	○谷口 賢, 中島正博, 吉成知也, 竹内 浩, <u>橋口成喜</u> , 脇ますみ, 田端節子, 田中敏嗣, 佐藤孝史, 秋山 裕, 伊佐川 聡, 石黒瑛一, 小西良子
H27.10.31 ~11.1	川崎市における急性脳炎・脳症の届出の現状	第47回日本小児感染症学会総会・学術集会	ザ・セレクトン福島、ホテル福島グリーンパレス他	○ <u>三崎貴子</u> , <u>大嶋孝弘</u> , <u>丸山 絢</u> , <u>清水英明</u> , <u>岡部信彦</u>
H27.10.31 ~11.1	A型肝炎の小児例についての検討	第47回日本小児感染症学会総会・学術集会	ザ・セレクトン福島、ホテル福島グリーンパレス他	○小牧文代, <u>三崎貴子</u> , <u>丸山 絢</u> , 佐々木国玄, 林 露子, 瀬戸成子, <u>岡部信彦</u>
H27.11.13	新規遺伝子型GII.P17を含むノロウイルスGII.17の遺伝子解析	第36回日本食品微生物学会学術総会	川崎市教育文化会館	○石川真理子, <u>松島勇紀</u> , <u>清水智美</u> , <u>駒根綾子</u> , <u>清水英明</u>
H27.12.5 ~6	川崎市における梅毒の発生状況について -過去10年間の動向と近年の特徴について-	日本性感染症学会第28回学術大会	都市センターホテル	○ <u>大嶋孝弘</u> , <u>西村光世</u> , <u>丸山 絢</u> , <u>三崎貴子</u> , <u>岡部信彦</u>
H28.2.9 ~10	川崎市におけるカルバペネム耐性腸内細菌科細菌の分離状況について	第28回地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部細菌研究部会総会・研究会	静岡県男女共同参画センター「あざれあ」	○湯澤栄子, <u>安澤洋子</u> , <u>小河内麻衣</u> , 本間幸子, <u>松尾千秋</u> , <u>岡部信彦</u>

(1) 平成27年度学会発表実績(口演発表)

○:発表者 下線:健康安全研究所職員

年月日	演題名	学会名	場所	発表者(共同研究者等も含む)
H27.2.21	風疹流行に伴う川崎市の緊急ワクチン接種事業と数理モデルを用いた有効な接種方法の検証	予防接種に関する研究報告会	新大宗ビル FORUM8	○大嶋孝弘, 丸山 絢, 三崎貴子, 占部千由, 田中剛平, 合原一幸, 岡部信彦
H27.2.21	川崎市内における侵襲性肺炎球菌感染症の血清型分布状況について	予防接種に関する研究報告会	新大宗ビル FORUM8	○淀谷雄亮, 宮下安子, 松尾千秋, 大嶋孝弘, 丸山 絢, 三崎貴子, 常 彬, 岡部信彦
H28.3.12	川崎市における梅毒の発生状況ー過去10年間の動向と近年の特徴についてー	第79回神奈川県感染症医学会	ソリッドスクエア	○大嶋孝弘, 西村光世, 丸山 絢, 三崎貴子, 岡部信彦
H28.3.12	Multiplex RT-PCR 法による発熱発疹性疾患の病原体検索	第79回神奈川県感染症医学会	ソリッドスクエア	○松島勇紀, 清水智美, 駒根綾子, 石川真理子, 清水英明, 塚越博之, 水越文徳, 土井育子, 松尾千秋, 三崎貴子, 木村博一, 竹田誠, 岡部信彦

(2) 平成27年度学会発表実績(示説発表)

○:発表者 下線:健康安全研究所職員

年月日	演題名	学会名	場所	発表者(共同研究者等も含む)
H27.4.16 ～17	川崎市感染症情報発信システム(KIDSS)によるリアルタイムサーベイランスの実施状況	第89回日本感染症学会学術講演会	国立京都国際会館	○丸山 絢, 三崎貴子, 岡部信彦
H27.4.16 ～17	社会福祉施設におけるオウム病の集団発生	第89回日本感染症学会学術講演会	国立京都国際会館	○三崎貴子, 丸山 絢, 岩瀬耕一, 岡部信彦, 山口朋禎, 望月徹
H27.4.16 ～17	所轄保健所との連携で迅速な診断治療が出来たオウム病の1例	第89回日本感染症学会学術講演会	国立京都国際会館	○望月 徹, 山口朋禎, 野口周作, 上野ひろむ, 小林綾乃, 吉岡美香, 三崎貴子, 丸山 絢, 清水英明, 松尾千秋, 岩瀬耕一, 岡部信彦
H27.5.14 ～17	Acute encephalitis and encephalopathy surveillance in Kawasaki city, Japan	The 13th Asian and Oceanian Congress of Child Neurology	Taipei International Convention Center (TICC)	○三崎貴子, 大嶋孝弘, 丸山 絢, 清水英明, 岡部信彦
H27.10.31 ～11.1	川崎市内における小児侵襲性肺炎球菌感染症の血清型分布状況について	日本小児感染症学会	ザ・セレクトン福島、ホテル福島グリーンパレス他	○淀谷雄亮, 飯高順子, 宮下安子, 松尾千秋, 大嶋孝弘, 丸山 絢, 三崎貴子, 常 彬, 岡部信彦
H27.11.4 ～6	川崎市における梅毒の発生状況について	第74回日本公衆衛生学会総会	長崎ブリックホール	○大嶋孝弘, 西村光世, 丸山 絢, 三崎貴子, 岡部信彦
H27.11.4 ～6	自治体における腸管出血性大腸菌感染症散发事例のリスク推定の試行	第74回日本公衆衛生学会総会	長崎ブリックホール	○丸山 絢, 八幡裕一郎, 三崎貴子, 岡部信彦
H27.11.4 ～6	川崎市における疫学情報を含めた結核菌分子疫学解析について	第74回日本公衆衛生学会総会	長崎ブリックホール	○淀谷雄亮, 宮下安子, 松尾千秋, 岡部信彦
H27.12.3 ～4	川崎市におけるチョウセンアサガオの誤食事例についてーLC-MS/MSによるトロパン系アルカロイドの検出ー	第52回全国衛生化学技術協議会年会	静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」	○牛山温子, 大澤伸彦, 赤星千絵, 橋口成喜, 岩瀬耕一
H27.12.3 ～4	川崎市におけるチョウセンアサガオの誤食事例についてー遺伝子鑑別による原因植物の同定ー	第52回全国衛生化学技術協議会年会	静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」	○赤星千絵, 大澤伸彦, 牛山温子, 橋口成喜, 清水英明, 岩瀬耕一
H27.12.3 ～4	衛生研究所における人体(血液・尿等)試料の取扱いについてーアンケート結果報告ー	第52回全国衛生化学技術協議会年会	静岡県コンベンションアーツセンター「グランシップ」	○赤星千絵, 橋口成喜, 岩瀬耕一, 岡部信彦

(3) 平成27年度学会発表実績(誌上発表)

下線:健康安全研究所職員

年月日	演題名	学会名	場所	発表者(共同研究者等も含む)
H27.10.19	食品中の動物用医薬品検査に係る妥当性評価への取り組みについて	平成27年度川崎市健康福祉研究発表会	川崎市役所 第4庁舎	橋口成喜, 鏡淵渉, 牛山温子, 赤星千絵, 栗田史子, 福田依美子
H27.10.19	おもちゃ中のフタル酸エステル類分析における精製方法の検討	平成27年度川崎市健康福祉研究発表会	川崎市役所 第4庁舎	石丸陽子, 原田愼, 高居久義, 小林亨, 福田依美子, 平野有美
H27.10.19	食品中の残留農薬検査に係る妥当性評価への取り組みについて	平成27年度川崎市健康福祉研究発表会	川崎市役所 第4庁舎	岸美紀, 江崎康司, 荒木啓佑, 佐藤英子, 福田依美子
H27.10.19	川崎市における腸管凝集性大腸菌の分離状況及び病原遺伝子保有状況と病原性の検討	平成27年度川崎市健康福祉研究発表会	川崎市役所 第4庁舎	窪村亜希子, 小河内麻衣, 湯澤栄子, 本間幸子, 松尾千秋, 佐藤弘康
H27.10.19	川崎市におけるT-SPOT・TB検査について	平成27年度川崎市健康福祉研究発表会	川崎市役所 第4庁舎	宮下安子, 淀谷雄亮, 原俊吉, 松尾千秋

(4) 平成27年度学術誌等掲載実績

下線:健康安全研究所職員

題名	学術誌等の名称・掲載ページ等	執筆者(共同執筆者等も含む)
川崎市における感染症情報発信システム(KIDSS)の導入とその後の取り組み	小児科 Vol.56No.12,2015 p1933-1943	丸山 絢, 大嶋孝弘, 三崎貴子, 岡部信彦
社会福祉施設におけるオウム病の集団発生	JVM 獣医畜産新報 Vol.68No.4,2015 p264-266	三崎貴子, 大嶋孝弘, 丸山 絢, 中島関子, 石川真理子, 松島勇紀, 駒根綾子, 清水英明, 飯高順子, 淀谷雄亮, 松尾千秋, 岩瀬耕一, 岡部信彦
焼肉店で発生した腸管出血性大腸菌O157食中毒事例の対応	公衆衛生情報 Vol.45/No.4,2015.7 p24-26	三崎貴子, 岡部信彦
地方衛生研究所における食物アレルギー対策への取り組み	小児科(金原出版) 第56巻第11号(平成27年10月1日発行) Vol.56 No.11 p.1783-1790 2015	赤星千絵
Molecular Evolution of the Capsid Gene in Norovirus Genogroup I.	Scientific Reports. 2014; 5: 13806.	Kobayashi M, Yoshizumi S, Kogawa S, Takahashi T, Ueki Y, Shinohara M, Mizukoshi F, Tsukagoshi H, Sasaki Y, Suzuki R, Shimizu H, Iwakiri A, Okabe N, Shirabe K, Shinomiya H, Kozawa K, Kusunoki H, Ryo A, Kuroda M, Katayama K, Kimura H.
Characterization of an A (H1N1)pdm09 Virus Imported from India in March 2015	Jpn J Infect Dis. 2016;69(1):83-6.	Takashita E, Fujisaki S, Shirakura M, Nakamura K, Kishida N, Kuwahara T, Ohmiya S, Sato K, Ito H, Chiba F, Nishimura H, Shindo S, Watanabe S, Odagiri T; Influenza Virus Surveillance Group of Japan..
Genetic analyses of G II.17 norovirus strains in diarrheal disease outbreaks from December 2014 to March 2015 in Japan reveal a novel polymerase sequence and amino acid substitution in the capsid region	Eurosurveillance.2015;20(26):pii=21173	Matsushima Y, Ishikawa M, Shimizu T, Komane A, Kasuo S, Shinohara M, Nagasawa K, Kimura H, Ryo A, Okabe N, Haga K, Doan YH, Katayama K, Shimizu H.
インフルエンザウイルス迅速診断キット～最近の診断キットの評価とこれから～	Pharma Medica. 2015; 33(11): 33-3.	清水英明
新しい迅速診断法 - 銀増幅イムノクロマトグラフィ法を用いたインフルエンザ診断システム	インフルエンザ.2015; 16 (1): 49-56.	三田村敬子, 山崎雅彦, 市川正孝, 片田順一, 和田淳彦, 野田裕二, 川上千春, 清水英明

(4) 平成27年度学術誌等掲載実績

下線:健康安全研究所職員

題名	学術誌等の名称・掲載ページ等	執筆者(共同執筆者等も含む)
マルチカラー粒子を用いた新規インフルエンザウイルス抗原迅速検出キットの検討	医学と薬学. 2015;72(9): 1615-1622.	三田村敬子, 清水英明, 山崎雅彦, 市川正孝, 安倍隆, 八角有紀, 許斐康司, 市川陽子, 川田敏夫, 吉原成哲, 原田典明, 石崎昌実, 櫛桁久美, 藤野高志
新規遺伝子型ノロウイルスGII.P17-GII.17の流行	IASR. 2015; 36(9) 175-178.	松島勇紀, 石川真理子, 清水智美, 駒根綾子, 清水英明, 松尾千秋, 三崎貴子, 岡部信彦, 篠原美千代, 峯岸俊貴, 小川泰卓, 粕尾しず子, 中沢春幸, 水越文徳, 鈴木尚子, 船渡川圭次, 梁明秀, 木村博一, 長澤耕男, 片山和彦, 芳賀慧, Doan Hai Yen
日本を取り巻く感染症ー現在・未来ー	Animus 83:3-10, 2015.	岡部信彦, 谷口清州(対談)
川崎市における腸管病原性大腸菌及び腸管凝集性大腸菌の分離状況と細胞付着性試験等による病原性の検討	感染症学雑誌 89:37-45, 2015.	窪村亜希子, 小嶋由香, 岡部信彦
新規遺伝子型ノロウイルスGII.P17-GII.17の流行	病原微生物検出情報 2015,36(9),175-8.	松島勇紀, 石川真理子, 清水智美, 駒根綾子, 清水英明, 松尾千秋, 三崎貴子, 岡部信彦 他
川崎市における梅毒の発生状況ー過去10年間の動向と近年の特徴についてー	日本性感染症学誌 27(1):127-133, 2016.	大嶋孝弘, 丸山 絢, 三崎貴子, 岡部信彦
Molecular Evolution of the Capsid Gene in Norovirus Genogroup I.	Sci Rep 2015;5:13806.	Kobayashi M, Yoshizumi S, Kogawa S, Takahashi T, Ueki Y, Shinohara M, Mizukoshi F, Tsukagoshi H, Sasaki Y, Suzuki R, Shimizu H, Iwakiri A, Okabe N, Shirabe K, Shinomiya H, Kozawa K, Kusunoki H, Ryo A, Kuroda M, Katayama K, Kimura H.
Description of Hospitalized Cases of Influenza A(H1N1)pdm09 Infection on the Basis of the National Hospitalized-Case Surveillance, 2009.2010, Japan	Jpn. J. Infect. Dis., 68, 151-158, 2015.	Shimada T, Sunagawa T, Taniguchi K, Yahata Y, Kamiya H, Ueno-Yamamoto K, Yasui Y and Okabe N.
Kudoa septempunctata-Induced Gastroenteritis in Humans after Flounder Consumption in Japan. -a Case-control Study.	JJID 68(2):119-123, 2015.	Yahata Y, Sugita-Konishi Y, Ohnishi T, Toyokawa T, Nakamura N, Taniguchi K and Okabe N.
Life-Threatening Abnormal Behavior Incidence in 10-19 Year Old Patients Administered Neuraminidase Inhibitors.	PLoS ONE 10(7): e0129712. doi:10.1371/journal.pone.0129712, 2015.	Nakamura Y, Sugawara T, Ohkusa Y, Taniguchi K, Miyazaki C, Momoi M and Okabe N.
Risk of haemolytic uraemic syndrome caused by shiga-toxinproducing Escherichia coli infection in adult women in Japan Epidemiol.	Infect., Page 1 of 10. © Cambridge University Press 2015 doi:10.1017/S0950268815002289	Fujii J, Mizoue T, Kita T, Kishimoto H, Joh K, Nakada Y, Ugajin S, Naya Y, Nakamura T, Tada Y, Okabe N, Maruyama Y, Saitoh H, and Kurozawa Y.
Social contacts, vaccination decisions and influenza in Japan.	J Epidemiol Community Health 2015;0:1-6. doi:10.1136/jech-2015-205777.	Ibuka Y, Ohkusa Y, Sugawara T, Chapman GB, Yamin D, Atkins KE, Taniguchi K, Okabe N and Galvani AP
東京薬科大学入学年齢層の麻疹、風疹、ムンプス、水痘血清抗体価解析について	医療薬学 41(12):907-915, 2015.	今井達男, 岡部信彦
予防接種・ワクチンの歴史	JOHNS 31(5):545-548, 2015.	岡部信彦
麻疹排除に向けてー国内における麻疹の現状と課題	ワクチンジャーナル 2(2):66-71, 2015.	岡部信彦

(4) 平成27年度学術誌等掲載実績

下線:健康安全研究所職員

題名	学術誌等の名称・掲載ページ等	執筆者(共同執筆者等も含む)
予防接種 第3版 2015.3 少年写真新聞社	同左	岡部信彦
予防接種 この5年で変わったのはここ!これから10年で変わりそうなのはここ!	まるわかりワクチンQ&A 編・著:中野貴司 P.2-5 2015.4. 日本医事新報社	岡部信彦
世界と日本の予防接種制度	予防接種のキホン 編著:庵原俊昭、寺田喜平 P.12-21 2015.4 中外医学社	岡部信彦
感染症(編集協力・著)	医学大辞典 第20版 南山堂 2015.4.	岡部信彦
日本を取り巻く感染症-現在・未来-	Animus No.83:3-10, 2015.	岡部信彦, 谷口清州
予防接種・ワクチンの歴史	JOHNS 31(5):545-548, 2015.	岡部信彦
感染症予防必携 第3版 日本公衆衛生協会 2015.6	同左	岡部信彦(編集委員長・著)、岩本愛吉、大西 真、西條政幸、谷口清州、野崎智義、宮崎義継
肺炎球菌ワクチンの接種の現状と留意事項	Medical Practice 32(6):1062-1065, 2015.	岡部信彦
輸入感染症ー我が国に侵入の可能性はあるかー	東京小児科医報 34(1):42-47, 2015 .	岡部信彦
WHO麻疹排除 (measles elimination) 認定 - 2015年3月	小児科臨床 68(7):439-1443, 2016.	岡部信彦
予防接種に関するQ&A集 2015 日本ワクチン産業会 2015.8	同左	岡部信彦, 多屋馨子
我が国の麻疹排除認定(2015年3月)	小児科 56(8):1079-1087, 2015.	岡部信彦
学校保健安全法における感染症予防	小児科 56(9):1545-1546, 2015.	岡部信彦
祝・我が国の麻疹排除(measles elimination) 認定 2015年3月	臨床とウイルス 43(4):177-183, 2015.	岡部信彦
世界の感染症とその現況	独協医学会雑誌 42(2):163-169, 2015	岡部信彦
ノロウイルス最新情報	プレホスピタル・ケア 28(6):73, 2015.	岡部信彦
グローバル化と感染の危機の拡大 -世界の感染症とその現状、わが国への影響と対策-	都市問題 Vol.11, 88-96, 2015.	岡部信彦
インフルエンザの基本と対策	保育の友 Vol.12 10-15, 2015.	岡部信彦

(4) 平成27年度学術誌等掲載実績

下線:健康安全研究所職員

題名	学術誌等の名称・掲載ページ等	執筆者(共同執筆者等も含む)
最近話題になった感染症-鳥インフルエンザ、デング熱、エボラ、MERSなど、わが国に侵入の可能性はあるか-	安全工学 55(1):10-16, 2016.	<u>岡部信彦</u>
麻疹排除 (measles elimination) 達成	小児保健研究 75(1):8-13, 2016.	<u>岡部信彦</u>
気になる感染症 第1回ジカウイルス感染症	プレホスピタル・ケア 29(2):64-65, 2016.	<u>岡部信彦</u>
ノロウイルス感染症と新型ノロウイルスの出現	看護実践の科学 41(2):44-49, 2016.	<u>岡部信彦</u>
医療におけるワクチンの重要性 -そもそもワクチンとは-	薬局 67(3):11-15, 2016.	<u>岡部信彦</u>
感染症に対する平常時・アウトブレイク時のリスク管理-平常時からの情報収集と分析そして情報還元(サーベイランス)	日本原子力学会誌 58(3):148-149, 2016.	<u>岡部信彦</u>
ワクチンの歴史	小児の予防接種ハンドブック 渡辺 宏・編集 P.3-7 総合医学社 2016.3	<u>岡部信彦</u>
ジカウイルス感染症の現状	小児科 57(3):303-306, 2016	<u>岡部信彦</u>
梅毒の現状と傾向	性と健康 15(1):6-9, 2016.	<u>岡部信彦</u>

(5) 平成27年度行政報告等実績

下線:健康安全研究所職員

題名	報告書の名称・掲載ページ等	報告者(共同研究者等も含む)
デング熱に対する保健所の対応への助言	平成27年度地域保健総合推進事業(新興再興感染症危機管理支援事業), 2015.4	中里栄介, 長谷川麻衣子, 杉下由行, 緒方剛, 佐野 正, 金成由美子, 中島一敏, <u>三崎貴子</u> , 山岸拓也, 村井賢二
中東呼吸器症候群(MERS)に対する保健所の対応への助言	平成27年度地域保健総合推進事業(新興再興感染症危機管理支援事業), 2015.6	中里栄介, 緒方 剛, 佐野 正, 金成由美子, 稲葉静代, 長谷川麻衣子, 杉下由行, 中島一敏, <u>三崎貴子</u> , 山岸拓也
新興再興感染症危機管理支援事業班報告書	平成27年度地域保健総合推進事業(全国保健所長会協力事業), 2016.3	中里栄介, 稲葉静代, 大西宏昭, 緒方剛, 金成由美子, 坂本龍彦, 佐野正, 杉下由行, 高橋幸広, 瀧口俊一, 竹之内直人, 豊田誠, 長井大, <u>三崎貴子</u> 他
腸管出血性大腸菌O157感染症の散発事例におけるリスクの推定及び人口寄与危険率の算出の試み検討	厚生労働科学研究「広域・複雑化する食中毒に対応する調査手法の開発に関する研究」平成27年度研究報告書, 30-44, 2016.3	八幡裕一郎, 春日文子, 砂川富正, <u>丸山 絢</u> , <u>三崎貴子</u> , <u>岡部信彦</u> 他
自治体における腸管出血性大腸菌感染症散発事例のリスク推定の試行	厚生労働科学研究「広域・複雑化する食中毒に対応する調査手法の開発に関する研究」平成27年度研究報告書, 96-116, 2016.3	<u>丸山 絢</u> , 八幡裕一郎, <u>三崎貴子</u> , <u>岡部信彦</u>
地方感染症情報センターの立場からの感染症発生動向調査の評価と改善	厚生労働科学研究「新興・再興感染症の発生に備えた感染症サーベイランスの強化とリスクアセスメント」平成27年度研究報告書, 17-21, 2016.3	中村廣志, 高橋智恵子, 片山 丘, 中野道晴, 市橋大山, 林 志直, 神谷信行, <u>三崎貴子</u> , <u>丸山 絢</u> , 鈴木智之, 児玉洋江, 吹屋貞子, 小野塚大介他

(5) 平成27年度行政報告等実績

下線:健康安全研究所職員

題名	報告書の名称・掲載ページ等	報告者(共同研究者等も含む)
複数自治体情報を提供するホームページの試み	厚生労働科学研究「新興・再興感染症の発生に備えた感染症サーベイランスの強化とリスクアセスメント」平成27年度研究報告書, 26-30, 2016.3	神谷信行, 中野道晴, 市橋大山, 林志直, <u>丸山 絢</u>
食品への毒物等混入事件時における衛生研究所での「人体(血液・尿等)試料の検査手法」の標準化	厚生労働科学研究費補助金(食品の安全確保推進研究事業)「行政機関や食品企業における食品防御の具体的な対策に関する研究」平成27年度 総括・分担研究報告書, 4, 1-10, 2016	<u>岡部信彦</u> , <u>赤星千絵</u> , <u>荒木啓祐</u>
食品汚染カビ毒の実態調査	厚生労働科学研究「基準値の策定に資する食品汚染カビ毒の実態調査と生体影響評価に関する研究」平成27年度 総括・分担研究報告書	小西良子, 吉成知也, 脇ますみ, 竹内浩, 田中敏嗣, 谷口賢, 田端節子, <u>橋口成喜</u> , 中島正博, 秋山裕, 伊佐川聡, 石黒瑛一, 佐藤孝史
食品汚染カビ毒の実態調査	厚生労働科学研究「基準値の策定に資する食品汚染カビ毒の実態調査と生体影響評価に関する研究」平成25～27年度 総合研究報告書	小西良子, 吉成知也, 脇ますみ, 竹内浩, 田中敏嗣, 谷口賢, 田端節子, <u>橋口成喜</u> , 中島正博, 秋山裕, 伊佐川聡, 石黒瑛一, 佐藤孝史

(6) 平成27年度表彰等受賞実績

表彰の名称	演題・研究課題名等	表彰対象者
学術奨励賞(第79回神奈川県感染症医学会)	川崎市における梅毒の発生状況 ー過去10年間の動向と近年の特徴についてー	大嶋孝弘
川崎市長職員表彰	新規遺伝子型ノロウイルスGⅡ.P17-GⅡ.17の発見	ウイルス・衛生動物担当職員一同

2 調査研究報告

平成 27 年度調査研究結果並びに事例等の一部を次ページ以降で報告する。

- (1) 川崎市における梅毒の発生状況ー過去 10 年間の動向と近年の特徴についてー 90
(研究代表者：感染症情報センター担当 大嶋 孝弘)

- (2) 川崎市感染症情報発信システム (KIDSS) によるリアルタイムサーベイランスの実施状況 91
(研究代表者：感染症情報センター担当 丸山 絢)

- (3) 食品中の残留農薬検査に対する STQ 法導入へ向けた取り組みについて 92
(研究代表者：残留農薬・放射能担当 荒木 啓佑)

- (4) 川崎市におけるカルバペネム耐性腸内細菌科細菌の分離状況について 97
(研究代表者：消化器・食品細菌担当 湯澤 栄子)

川崎市における梅毒の発生状況—過去 10 年間の動向と近年の特徴について—

川崎市健康安全研究所 大嶋孝弘 西村光世 丸山 絢 三崎貴子 岡部信彦

【背景及び目的】

近年、先進国における梅毒の報告は、MSM (men who have sex with men) を中心に増加しており、国内でも同様である。今回、川崎市における発生状況をまとめたので報告する。

【方法】

2006 年 1 月～2015 年 6 月に、市内で「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」に基づき届出のあった梅毒症例 149 例を対象に、流行状況等をまとめた。

【結果】

梅毒の発生は 2009 年以降増加傾向で、2009 年に 5 件であった届出数は 2014 年には 31 件、2015 年には半年間で 30 件となった。2009 年～2013 年は女性の割合が 13%～30%で推移していたが、2014 年は 39%、2015 年は 47%と徐々に増加している。

男性では 2010 年～2013 年にかけて同性間性的接触を原因とする届出が増加し、2013 年には 60%を占めていたが、2014 年は 38%、2015 年は 13%と減少し、逆に異性間性的接触を原因とする届出が 2014 年に 50%、2015 年に 87%と増加した。女性では、同性間性的接触を原因とする届出はなかった。

診断時の病期は、男性では早期顕症梅毒 (Ⅱ期) が 39 例 (38%) と最も多く、女性では無症状病原体保有者が 23 例 (50%) と最多であった。

【考察】

2010 年～2013 年は、男性の同性間性的接触を原因とする届出が増えており、MSM など特定の集団内での感染が多かったと推察される。しかし、2014 年以降は男女ともに異性間性的接触を原因とする届出が増えており、女性の届出数が増加していることから、今後は先天梅毒にも注意する必要がある。

男性では発症後、女性では無症候の届出が多かった理由としては、リスクの高い女性における職場での健診や妊婦健診などで発症前に発見される機会が多いことが示唆された。

【結語】

川崎市における梅毒の発生動向として、近年の届出数の増加や感染経路の変化が挙げられるため、今後梅毒の感染予防に対する意識を向上させるとともに無症候期における受検率等を高めることが重要と考えられた。

【謝辞】

症例の届出等に御協力いただきました関係機関の皆様に深謝いたします。

川崎市感染症情報発信システム(KIDSS)によるリアルタイムサーベイランスの実施状況

○丸山 絢、三崎貴子、岡部信彦

川崎市健康安全研究所

【背景及び目的】

川崎市では、医療機関と行政間の情報共有ネットワークの構築を目的として、平成 26 年 3 月 1 日から市内全医療機関を対象に川崎市感染症情報発信システム(KIDSS)の運用を開始した。KIDSS は、新たな感染症等の発生に備え、医療機関が日毎に入力する患者数等の情報を即時に公開するリアルタイムサーベイランス機能を有し、現在は平常時の運用として迅速診断キット陽性の A 型及び B 型インフルエンザを対象疾患としている。パンデミックあるいは何らかの感染症のアウトブレイクなどの有事の際に、実効性のあるサーベイランスに結びつけるため、現在の実施状況を検討した。

【方法】

平成 26 年 3 月 1 日から 10 月 26 日までのリアルタイムサーベイランス入力状況をまとめ、同時期の定点医療機関におけるインフルエンザ報告数との比較検討を行った。

【結果】

平成 26 年 9 月現在、市内 981 医療機関中 479 医療機関(48.8%)が KIDSS に登録しており、うち平日は 30～103 医療機関が入力を行い、A 型及び B 型インフルエンザの入力患者数はそれぞれ延べ 614 人、2894 人であった。医療機関当たり最多報告数/週は、リアルタイムサーベイランスが 22.49 人、定点医療機関が 23.11 人で、ともに平成 26 年第 10 週であり、その後の発生動向もほぼ一致していた。

【結論】

有事に実効性のあるサーベイランスを実施するためには多くの医療機関の協力が不可欠であり、参加率向上に向けた取組が必要である。

食品中の残留農薬検査に対する STQ 法導入へ向けた取り組みについて

残留農薬・放射能

荒木啓佑 江崎康司 油田卓士* 佐藤英子 岸美紀

(*健康福祉局中央卸売市場食品衛生検査所)

1 はじめに

食品中に残留する農薬等については、平成 15 年の食品衛生法改正によって平成 18 年からポジティブリスト制度が施行されたことから、残留基準が設定されていない農薬等に対しても一律基準が適用されるようになり、原則全ての農薬等について食品衛生法の規制が行われるようになった。一方、平成 25 年 12 月 14 日以降、農薬等に関して食品衛生法の規格基準への適合性を判断する試験については、厚生労働省のガイドラインに従い妥当性評価を実施することが必要となった。この妥当性評価は、農薬を添加した試料を複数回試験し、その回収率や精度等が目標値に適合するかどうかを確認するもので、これに合格した食品・試験法・農薬の組み合わせについてのみ収去検査が可能となる。このため、より多くの食品について定められた妥当性評価試験を早期に実施し、収去検査を実施できる体制の構築が求められている。

当所ではこれまでに厚生労働省の通知法である、GC-MS(/MS)による一斉試験法及び LC-MS(/MS)による一斉試験法を用いて、農産物 14 種類(野菜 10 種類、果実 4 種類)について農薬約 100~250 成分、畜産物 1 種類(牛乳)について農薬 22 成分の妥当性評価を実施してきた。しかしこの通知法は、食品から農薬の抽出と精製を行う前処理操作の工程が多く、機器分析を実施できるまでに約 2 日間を要している。一斉試験法における妥当性評価ではこの前処理を「一律基準値濃度」と「各農薬等の基準値に近い一定の濃度」の 2 濃度でそれぞれ 5 回、計 10 回以上行う必要があり、機器によるデータ採取と解析を含めおおむね 2 か月以上の時間がかかることから、評価を完了できる食品は毎年 5 種類程度に限られている。そこで、前処理操作の工程を簡便にし、試験に要する時間を短縮することで早期に収去検査可能な食品と農薬を拡充できるように、QuEChERS 法及びその改良法である STQ 法の導入を検討した。

2 検討経過

QuEChERS 法とは Quick(高速)、Easy(簡単)、Cheap(低価格)、Effective(効果的)、Rugged(高耐久性)、Safe(安全)の頭文字からとられた造語であり、2003 年に最初の論文が発表されて以降、世界各国で様々な改良を加えつつ導入され、欧米諸国では公定法として採用されている。現行の通知法と比較して前処理の時間短縮とコストダウンが期待できるため、日本国内でも普及しつつあるが、試料や抽出溶媒が少量であることによる抽出効率への影響、抽出時における農薬の取り残しや食品の水分量によるばらつき、精製が簡素なことによる測定時の妨害の大きさ等の懸念があるため、日常検査に導入するにはそれらの懸念を解消することが必要と考えた。そこで QuEChERS 法にミニカラムによる精製を組み合わせることで通常の QuEChERS 法よりも測定時の妨害を軽減した、(株)アイスティサイエンスの STQ 法(Solid Phase Extraction Technique with QuEChERS)¹⁾をモデルとして、当所に適した前処理方法を構築した。

(1) 抽出効率の評価

ア 技能試験による抽出法の評価

QuEChERS 法(STQ 法を含む)の導入を検討するにあたり、通知法と比較して以下のような問題点が考えられた。

- ① 抽出効率への影響(試料・抽出溶媒が少量)
- ② 農薬の取り残し(抽出回数が 1 回)
- ③ 測定値のばらつき(抽出後に定容しない)

この中で最も懸念されたのが、通知法と比較して試験に用いる試料量が半分であることと、抽出に使用する有機溶媒量が 5 分の 1 以下と少量であることによる、抽出効率への影響であった。この抽出効率は、妥当性評価試験のように

細切によるサンプリング試料に後から標準液を添加して行う添加回収試験では確認できず、実際に農薬が残留した試料を用いなければ評価できない。そこで検討の一助とするために、農薬が残留するよう栽培された試料を用いる、産業技術総合研究所計量標準総合センター(NMIJ)の「農薬残留分析の信頼性向上のための技能試験(第4回)玄米中の農薬分析」(表1)に、通知法とSTQ法を基に抽出操作を変更した方法(以下「検討法」という)の2つの方法で参加し、抽出法の変更による測定結果への影響の評価を試みた。なお、検討法の構築に当たっては、問題点②③の影響を抑えるため、抽出はSTQ法の抽出方法に関するバリエーションの一つである、STQW法¹⁾(2段階の抽出及び抽出液の定容を行う方法)及び宮城県保健環境センターの抽出法²⁾(STQW法と抽出液量が異なる方法)をモデルとし、精製法は通知法とほぼ同様とした(図1)。

表1 技能試験概要

測定試料	玄米粉末(n=2)
測定対象農薬	エトフェンプロックス(GC-MS/MS測定)
	チアメキサム(LC-MS/MS測定)
	フェニトロチオン(GC-MS/MS測定)

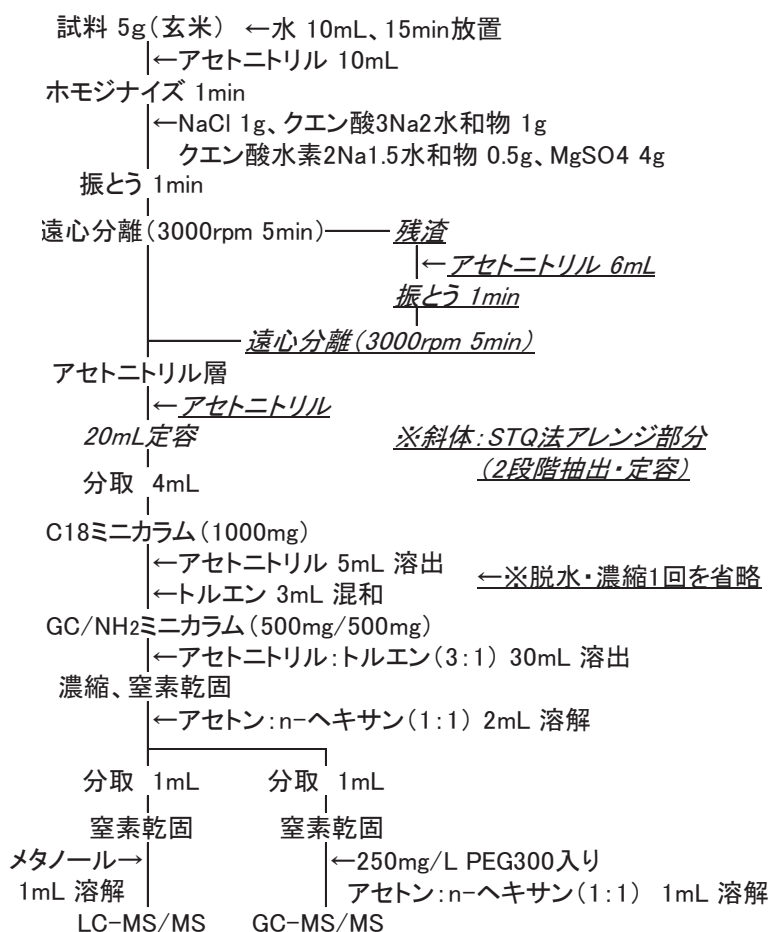


図1 検討法分析フロー

イ 技能試験の結果

各農薬の分析結果(独立に行った2回の平均)を表2に示す³⁾。3種類の農薬全てにおいて通知法よりも検討法の方が高い分析値を示した。この原因としては、液液抽出や濃縮操作が1回省略されていること、試料や溶媒が少量

であることの影響も疑われたが、参加機関の結果から算出したzスコア及びNMIJが同位体希釈質量分析法により決定した付与値(認証参照値)から算出したzスコアのいずれも2を下回っており、著しい差があるとはいえないと考えられた。また、NMIJによる技能試験全体の報告⁴⁾によると、通知法を用いた機関の報告値と、STQ法やQuEChERS法を用いた機関による報告値に有意差が見られていないことから、試料・農薬共に限定的ではあるが、抽出効率においてSTQ法が通知法に著しく劣るとは言えないと考えられた。

表2 当所の技能試験結果

測定対象農薬		通知法	検討法
エトフェンプロックス	分析値(mg/kg)	0.192	0.259
	参加機関の結果から算出したzスコア	-0.26	1.23
	NMIJの認証参照値から算出したzスコア	-0.94	0.49
チアメキサム	分析値(mg/kg)	0.113	0.123
	参加機関の結果から算出したzスコア	-0.87	-0.44
	NMIJの認証参照値から算出したzスコア	-0.96	-0.63
フェニトロチオン	分析値(mg/kg)	0.0943	0.114
	参加機関の結果から算出したzスコア	-0.26	0.51
	NMIJの認証参照値から算出したzスコア	-0.20	0.71

(2) 野菜・果実用前処理方法の検討

ア 添加回収試験による抽出法の検討

これ以降の検討には、GC-MS/MSによる測定に比較して妨害物質の影響を受けにくく、精製が不十分な試料でも測定しやすいLC-MS/MSのみを検討に用いた。また添加回収試験の標準品には、林純薬の農薬混合標準溶液『PL2005 農薬 LC/MS Mix4』と同『Mix5』を使用した。

技能試験の結果が比較的良好と考えられたことから、検討法からC18による精製を除いた野菜・果実用の前処理法を作成した。本前処理法をキュウリの添加回収試験で評価したところ十分な実用性を示したが、続いてデンブンの多いカボチャに適用したところ、1回目の抽出時に極めて堅固な試料層が形成され、2回目の抽出が不可能となった。カボチャがデンブンに加え食物繊維を豊富に含むことが影響したと考えられ、2段階の抽出は農産物の種類によっては適さないことが示唆された。そこで本来のSTQ法にない、10mLのアセトニトリルで1回抽出し、抽出後に定容をしない方法が採用できるか検討を行った。

まず添加回収試験を用いて、2段階の抽出後20mLに定容する方法(A法)と、10mLで1回抽出した後に定容しない方法(B法)の比較評価を行った。なお精製については、通知法よりも簡便で迅速性に優れたSTQ法精製バリエーションの一つであるSTQ-LC法¹⁾に固定した(図2)。評価方法は混合標準液を添加した試料を各抽出法で3回試験し、平均回収率が70~120%の範囲に入る成分数を比較した。評価する試料については、妥当性評価ガイドラインに示されている代表的な食品分類に基づき、カボチャ、キャベツ、ホウレンソウを対象とした(カボチャはA法不可のためB法のみ)。その結果、B法の方が全体的に高い回収率を示し、70~120%の範囲に入る成分が多い傾向が見られた(表3)。なおホウレンソウについては、STQ-LC法の精製が不十分だったと見られ、全体的に回収率が低かった。

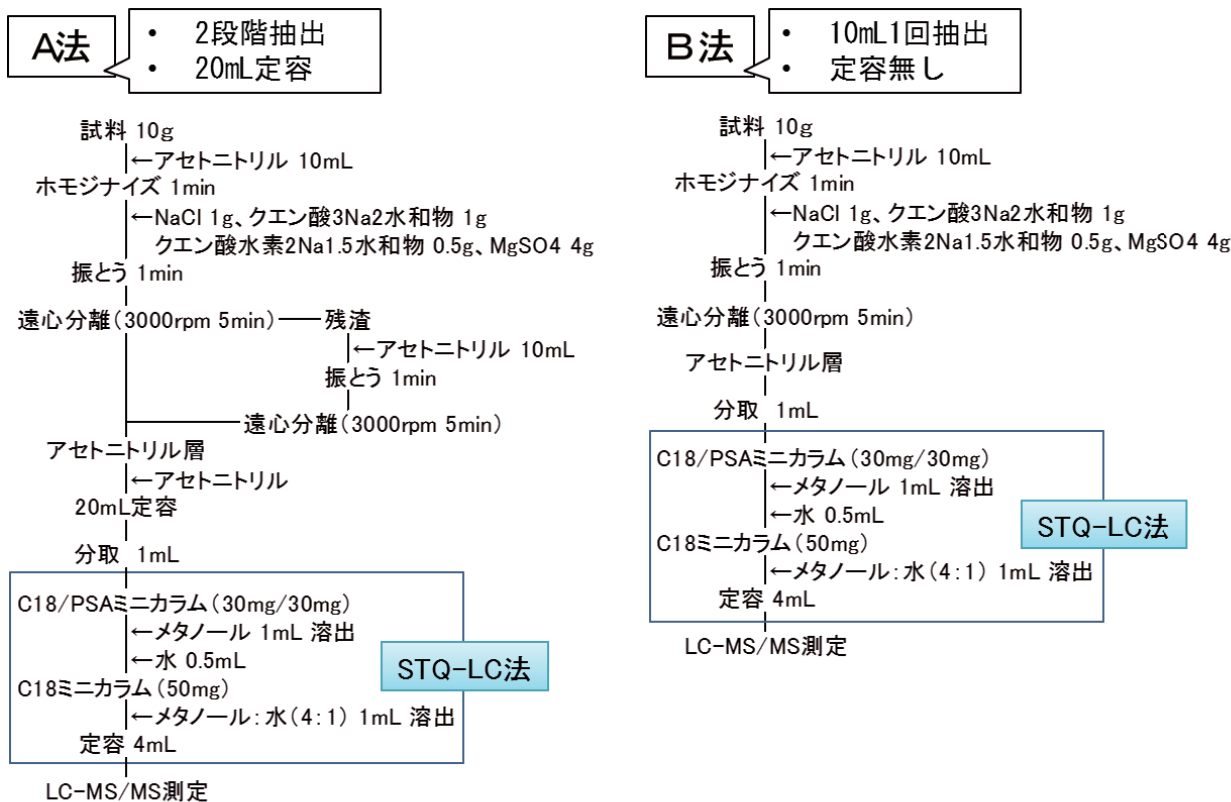


図2 比較評価した分析法（A法とB法）フロー

表3 回収率70~120%を満たした成分数（58成分中）

抽出法	添加回収農産物		
	カボチャ	キャベツ	ホウレンソウ
A法(2段階抽出・20mL定容)	不可	54	29
B法(10mL1回抽出・定容無し)	52	55	41

イ 農薬残留試料を用いた抽出法の評価

次にアゾキシストロピンが検出されたきゅうりを用い、A法とB法のそれぞれで試験した。結果を表4に示す(各n=3)。B法の方が高濃度の結果となり、変動係数がやや大きい傾向が見られた。サンプル数が少ないため試料自体の誤差による影響も否定できないが、A法は定容に伴う希釈により濃度が低くなった可能性が考えられた。一方B法は、抽出時の発熱等によるアセトニトリルの回収量のばらつきが、定容しないことで結果に影響した可能性が示唆されたが、いずれにしても妥当性評価ガイドラインの併行精度の目標値に対し、B法の結果も著しく精度が悪いとは言い難いと思われた。

表4 アゾキシストロピン測定結果 (n=3)

抽出法	平均濃度 ($\mu\text{g/g}$)	変動係数 (%)
A法(2段階抽出・20mL定容)	0.149	1.61
B法(10mL1回抽出・定容無し)	0.175	3.25

以上の検討結果から、適用農産物を選ばず、妥当性評価の真度条件を満たしやすいB法の方が実用性に優れていると考えた。技能試験の結果も踏まえると、通知法よりも試料中の残留農薬濃度が高めに検出されやすい可能性があることから、基準値超過が疑われた際には通知法による確認試験を行うことは必須と考えるが、その特性を理解して運

用する分には十分日常検査での実用に耐えうると判断し、B法の抽出法を採用することとした。なお精製法に関しては妥当性評価を行う食品毎に、その都度実施に先立って複数の精製法の比較試験を行い、必要に応じて通知法と同様の精製にするなど、対象の農産物や農薬に応じて適した方法を用いることとした(図3)。



図3 野菜・果実用前処理法の一例

3 まとめ

今回検討を実施できたのはごく少数の農産物と農薬に限られるが、STQ法は測定値が通知法よりもやや高くなる可能性が否定できない結果が得られた。しかしながらその特性を踏まえた上で、妥当性評価や日常検査に迅速・簡便なSTQ法を導入しつつ、基準値超過が疑われた際には通知法による確認試験と併せて基準への適合性を判断することにより、検査の迅速性と信頼性を十分に両立できるものと考えている。

[参考文献]

- 1) 株式会社アイステイサイエンス:残留農薬分析用 STQ 法ガイドブック
- 2) 宮城県保健環境センター年報 第32号 2014 p.77-80
- 3) 農薬残留分析の信頼性向上のための技能試験(第4回) 玄米中の農薬分析 報告書(暫定版)
(報告書番号:NMIJ-PT-PES4T)
- 4) Otake et al.:Journal of AOAC International Vol.99, No.3, 2016 p.821-829

川崎市におけるカルバペネム耐性腸内細菌科細菌の分離状況について

川崎市健康安全研究所

湯澤栄子 安澤洋子 小河内麻衣 本間幸子 松尾千秋 岡部信彦

【はじめに】

カルバペネム系抗菌薬は、グラム陽性、陰性菌に対して広域かつ強力な抗菌活性を有しているが、このカルバペネムを分解するカルバペネマーゼ産生カルバペネム耐性腸内細菌科細菌の割合が欧米を中心に増加しており、大きな社会問題となっている。我が国においては平成 26 年 9 月の感染症法一部改正により、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症が全数把握届出対象 5 類感染症となった。

川崎市では、この感染症の届出のあった医療機関に対し分離菌株の提供を依頼し、積極的に菌株収集を行い、検査結果を医療機関に還元している。今回、川崎市におけるカルバペネム耐性腸内細菌科細菌（以下、CRE と略す）の分離状況と取り組みについて報告する。

【調査期間と対象】

1 期間

平成 26 年 9 月～平成 27 年 11 月

2 対象

届出のあった CRE 感染症 29 件のうち、当所に搬入された菌株 24 例 26 株（同一患者から 2 株が分離された 2 事例を含む）

CRE 感染症の届出基準には該当しないものの院内感染疑い事例として搬入された菌株 4 株

【方法】

搬入された菌株は、菌種同定後、国立感染症研究所による薬剤耐性菌研修会資料に従い、 β -ラクタマーゼ産生のスクリーニングおよび薬剤耐性遺伝子検査を行った。

菌種同定には、ID テスト EB20（日水）を用い、必要に応じ Api50（シスメックスビオメリュー）も併用した。

β -ラクタマーゼ産生のスクリーニングはディスク拡散法で行った。クラス A β -ラクタマーゼは、CAZ、CTX に対しダブルディスク法によるクラブラン酸およびスルバクタムによる阻害効果、クラス B β -ラクタマーゼは、CAZ、MPN に対しメルカプト酢酸ナトリウムディスク（SMA）を用いた阻害効果、クラス C β -ラクタマーゼは、CMN、IPM に対してアミノフェニルボロン酸を添加し、阻害効果の確認を行った。

薬剤耐性遺伝子検査は、TEM-26、SHV-12、CTX-M-1 group、CTX-M-2 group、CTX-M-9 group、NDM 型、KPC 型、IMP-1 型、IMP-2 型、VIM-2 型、OXA-48 型、MOX-1 型、CIT 型、DHA-1 型、ACC 型、EBC 型、FOX 型について PCR 法による検査を行った。

【結果及び考察】

菌株情報及び検査結果を表 1 に示す。

患者の性別は、男性 17 例、女性 11 例で男性が多く、診断時年齢は 20～89 歳で 65 歳以上の高齢者が 18 例（64.3%）を占めていた。

菌株の分離材料は、尿と血液が各々 7 例と最も多く、次いで喀痰 5 例、膿/創部分泌物 4 例、胆汁と腹膜透析液が各 2 例、静脈留置カテーテル、腹水、便が各 1 例であった。

菌種は、*E.cloacae* 15 株（50.0%）、*E.aerogenes* 9 株（30.0%）、*K.pneumoniae* 3 株（10.0%）、*C.freundii* 2 株（6.7%）、*E.coli* 1 株（3.3%）であり、*Enterobacter* 属菌が全体の 8 割を占めていた。

Enterobacter 属菌 24 株のうち、17 株はディスク法において、クラス C β -ラクタマーゼ産生が疑われる所見がみられた。このうち 5 株は PCR 法により EBC 型遺伝子が検出された。これらの株はシーケンズにより、染色体性の AmpC 遺伝子が確認された。*Enterobacter* 属菌は元来、染色体性の AmpC 遺伝子を保有しており、本遺伝子の発現による AmpC 過剰産生や細胞膜の変異による透過性低下による耐性機構を示す場合がある。今回行ったディスク法の所見では、染色体性の

表 1 菌株情報及び検査結果

番号	性別	年齢	分離材料	菌種	阻害剤				PCR法結果	シーケンス結果	Carba NP test
					ACV	S/A	SMA	ポロン酸			
1	女	29	静脈留置カテーテル	<i>E.cloacae</i>	-	-	-	+	EBC		
2	男	31	膿/創部分泌物	<i>E.cloacae</i>	-	-	-	+			
3	女	74	胆汁	<i>E.aerogenes</i>	-	-	-	+			
4	男	72	血液	<i>E.coli</i>	-	-	-	-	TEM, CTX-M-9		
5	女	89	尿	<i>E.cloacae</i>	-	-	-	+			
6	男	65	腹水	<i>K.pneumoniae</i>	-	-	-	-	TEM, SHV, CTX-M-9		
7	男	73	膿	<i>E.aerogenes</i>	-	-	-	+			
8	女	64	尿	<i>E.aerogenes</i>	-	-	-	+			
9	男	62	血液	<i>E.cloacae</i>	-	-	-	-	EBC		
10	女	77	尿	<i>E.cloacae</i>	-	-	-	+	EBC		
11	女	78	喀痰	<i>E.cloacae</i>	-	-	-	+	EBC		
12	女	75	創部分泌物	<i>C.freundii</i>	-	-	-	+	CIT		
13	男	20	喀痰	<i>E.cloacae</i>	-	-	-	+	EBC		
14	男	80	血液	<i>E.aerogenes</i>	-	-	-	+			
15	男	61	尿	<i>E.aerogenes</i>	-	-	-	+			
16	女	64	血液	<i>E.aerogenes</i>	-	-	-	+			
17	男	81	血液	<i>E.aerogenes</i>	-	-	-	+			
18	女	76	腹膜透析液	<i>E.cloacae</i>	-	-	+	-	IMP-1, EBC	<i>bla</i> _{IMP-1}	+
19	男	41	腹膜透析液	<i>E.cloacae</i>	-	-	+	-	IMP-1, EBC	<i>bla</i> _{IMP-1}	+
20	男	76	便	<i>K.pneumoniae</i>	-	-	-	+	SHV, DHA	<i>bla</i> _{SHV-38}	
21			血液	<i>K.pneumoniae</i>	-	-	-	-	SHV	<i>bla</i> _{SHV-38}	
22	男	69	尿	<i>E.aerogenes</i>	-	-	-	+			
23	女	81	尿	<i>C.freundii</i>	-	-	-	+	CIT		
24			尿	<i>E.cloacae</i>	-	-	-	+			
25	男	83	膿	<i>E.aerogenes</i>	-	-	-	+			
26*	男	72	喀痰	<i>E.cloacae</i>	-	-	+	-	IMP-1, EBC	<i>bla</i> _{IMP-1}	+
27*	女	76	胆汁	<i>E.cloacae</i>	-	-	+	-	IMP-1, EBC	<i>bla</i> _{IMP-1}	+
28*	男	84	喀痰	<i>E.cloacae</i>	-	-	+	-	IMP-1, EBC	<i>bla</i> _{IMP-1}	+
29*	男	46	喀痰	<i>E.cloacae</i>	-	-	+	-	IMP-1, EBC	<i>bla</i> _{IMP-1}	+
30	男	52	血液	<i>E.cloacae</i>	-	-	-	+	CTX-M-1, EBC		

*届出基準に該当しない株

AmpCの確認により、これらの株はカルバペネムを分解するカルバペネマーゼ産生菌（以下、CPEと略す）ではないと考えられた。

一方、ディスク法においてクラス Bβ-ラクタマーゼ産生が疑われた株は6株あり、それらの株は2ヶ所の医療機関からそれぞれ院内感染疑い事例として搬入された菌株であった（No.18,19,26と27,28,29）。耐性遺伝子は全てIMP-1型であったため、シーケンスにより、塩基配列を決定し、遺伝子型別を行ったところ、*bla*_{IMP-1}と型別された。これらの株はCarba NPテストで、全て陽性となりカルバペネマーゼ産生性が確認できた。

CPEが確認されたのは、直接の疾病の起因菌ではない株も含まれていたが、CPEは、重篤な細菌感染症の治療に用いられるカルバペネム系薬剤を分解することから、臨床的に注意が必要と思われる。

【まとめ】

平成26年9月の感染症法改正以来、川崎市においてCRE感染症の届出が29件あり、川崎市健康安全研究所には24例26株の菌株の搬入があった。改正当初は、CRE感染症の診断から届出までに時間がかかり、菌株が確保できない事例もあったが、届出数に対し菌株回収率は概ね良好と思われる。

今回搬入された菌株のうち大多数は *Enterobacter* 属菌であり、菌種特有の染色体性遺伝子の発現により耐性所見がみられているものと確認できたが、カルバペネマーゼ産生遺伝子の保有が認められた株も少数ながら存在した。

CREは、易感染状態の患者に感染し、重篤な症状を引き起こす場合もあり、かつ、プラスミド上の耐性遺伝子が他菌種に水平伝播し拡散した事例も報告されていることから、临床上と院内感染対策双方から重要視されている。その動向には注意が必要であり、今後関係機関との連携を円滑に行うとともに、より詳細かつ的確に検査を実施できるよう検査体制を強化していきたいと考える。

【謝辞】

今回の調査、検討を行うにあたり、御指導・御助言をいただきました国立感染症研究所及び薬剤耐性菌レファレンスセンターである横浜市衛生研究所の関係各位に深謝いたします。

【第5章 職員に関する事項】

1 人事記録

(1) 異動(出)

年月日	役職	氏名	配属先
H27.4.1	部長	岩瀬 耕一	建設緑政局緑政部夢見ヶ崎動物公園
H27.4.1	係長	油田 卓士	健康福祉局中央卸売市場食品衛生検査所
H27.4.1		小河 宏彰	健康福祉局(県後期高齢者医療広域連合)
H27.4.1		飯高 順子	健康福祉局中央卸売市場食品衛生検査所
H27.4.1		平野 有美	病院局井田病院検査課
H27.4.1		大澤 伸彦	環境局環境対策部企画指導課
H27.4.1		佐藤 弘康	病院局井田病院検査課

(2) 異動(入)

年月日	役職	氏名	前所属
H27.4.1	担当係長	熊谷 信広	健康福祉局健康安全部環境保健課
H27.4.1	主任	渡部 喜則	健康福祉局障害福祉部障害者更正相談所
H27.4.1		高居 久義	環境局環境対策部環境対策課
H27.4.1		原 俊吉	健康福祉局中央卸売市場食品衛生検査所
H27.4.1		安澤 洋子	健康福祉局健康安全部健康危機管理担当
H27.4.1		鏡淵 涉	新任

(3) 内部異動

年月日	役職	氏名	前所属
H27.4.1	担当部長	三崎 貴子	昇格
H27.4.1	担当課長	福田 依美子	昇格/企画調整から理化学へ異動

2 職員名簿（平成 27 年 4 月 1 日現在）

所長 技術職員 岡部 信彦

副所長 事務職員 廣政 稔

〔総務〕

課長補佐 事務職員 中村 悦子

主任 同 渡部 喜則

主任 同 牛若 晃弘

同 上野 彩子

〔企画調整〕

担当部長 技術職員 三崎 貴子

〔企画調整〕

担当係長 事務職員 熊谷 信広

技術職員 遠藤 康寿

〔感染症情報センター〕

担当係長 技術職員 丸山 絢

主任 同 西村 光世

同 大嶋 孝弘

〔理化学〕

担当課長 技術職員 福田 依美子

〔食品〕

担当係長 技術職員 橋口 成喜

同 栗田 史子

同 赤星 千絵

同 牛山 温子

同 鏡淵 涉

〔水質・環境〕

担当係長 技術職員 石丸 陽子

担当係長 同 小林 亨

同 安宅 香織

同 高居 久義

同 原田 怜

〔残留農薬・放射能〕

担当係長 技術職員 岸 美紀

主任 同 佐藤 英子

同 荒木 啓佑

同 江崎 康司

〔微生物〕

担当課長 技術職員 松尾 千秋

〔消化器・食品細菌〕

担当係長 技術職員 本間 幸子

担当係長 同 湯澤 栄子

同 窪村 亜希子

同 小河内 麻衣

同 安澤 洋子

〔呼吸器・環境細菌〕

課長補佐 技術職員 宮下 安子

同 原 俊吉

同 淀谷 雄亮

〔ウイルス・衛生動物〕

課長補佐 技術職員 清水 英明

担当係長 同 石川 真理子

主任 同 駒根 綾子

同 松島 勇紀

同 清水 智美

平成 27 年度
川崎市健康安全研究所年報
第 3 号(通巻第 51 号)

平成 28 年度発行

発行・編集 川崎市健康安全研究所

所在地 〒210-0821

川崎市川崎区殿町 3-25-13

川崎生命科学・環境研究センター(LiSE)2 階

TEL 044(276)8250

FAX 044(288)2044

印刷 清光堂印刷株式会社